



国立大学法人  
**東京医科歯科大学**  
TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY

統合教育機構入試課  
〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45 TEL.03-5803-5083  
5084



東京医科歯科大学入学案内サイト  
<http://www.tmd.ac.jp/admissions/index.html>



2020 年 大学案内  
UNIVERSITY GUIDE 2020



国立大学法人  
**東京医科歯科大学**  
TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY



© Shin Yamagishi

本学は、医学部医学科、医学部保健衛生学科、歯学部歯学科、歯学部口腔保健学科と教養部、そして、大学院医歯学総合研究科と本年より看護学専攻だけとなった大学院保健衛生学研究科、さらに、生体材料工学研究所と難治疾患研究所を有する日本で唯一の医療系総合大学院大学です。

本学では、問題点を見逃さない科学的視点を持ち、その問題点を自ら解決する医療人、すなわち卓越した医療人養成は勿論のこと、医療・生命科学領域の研究・学問体系の構築を図りながら、国際的に活躍できる卓越した研究者養成にも努め、広く人々や社会に貢献することを目指しています。

本学が将来医療人となる学生に求めることは、自己アイデンティティを確たるものにして多様性を受け入れるコミュニケーション力を身につけることです。

すなわち、相手に敬意を表して話を聞き、相手の心を理解した上で、専門的な助言をできるようにすることです。

## 教養

本学は総合大学でも一部の大学しか持っていない教養部を残しているのが特徴です。

本学の「知と癒しの匠を創造し、この匠を国内・国外に展開する」というミッションを果たすには、教養時代から始まる癒し、すなわち教養、感性、多様性を受け入れるコミュニケーション力を身につけさせることが医療人としての出発点と考えています。友人、先輩、他大学生との交流、恋愛、読書、映画、音楽・絵画鑑賞など、全てが幅広い知識を精神的修養も含めて自分の中で知のレベルに高め、心の豊かさ、理解力、創造性を身につけることに役立ちます。この時期では失敗の数が多い程、自分自身になる、人間としての深みが増していきます。

## 教養から学部

以後、徐々に知、すなわち知識、技術、自己アイデンティティの確立（これは生涯を通して追及するもの）を身につけていって癒し系の深みある人間となり、心を理解できる知を持った専門家として成長していくのです。

本学の特徴である医歯学融合教育、チーム医療実習など他職種のヒトとの協同作業で全人的医療を学び、病者に安全安心な医療を提供する教育も行っています。

また、在学中の成績優秀な学生の海外留学を支援する制度が他の大学より充実しております。是非、チャンスを生かして真の国際人として成長して欲しいと願っています。

学長 吉澤 靖之

# 東京医科歯科大学の理念とアドミッション・ポリシー

## 基本理念

### 知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する

学問と教育の聖地、湯島・昌平坂に建つ本学は、医療系総合大学として「知と癒しの匠」を創造し、東京のこの地から世界へと翼を広げ、人々の健康と社会の福祉に貢献します。

- ・教育について  
幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観、自ら考え解決する創造性と開拓力、国際性と指導力を備えた人材を育成します。
  - ・研究について  
様々な学問領域の英知を結集して、時代に先駆ける研究を推し進め、その成果を広く社会に還元します。
  - ・医療について  
心と身体を癒す質の高い医療を、地域に提供するとともに、国内さらに世界へと広めていきます。
- この理念に基づき、本学の全構成員がそれぞれの役割を自覚し、自らの使命を果たします。

## 教育理念

### 1 幅広い教養と豊かな感性を備えた人間性の涵養を目指す

病める人と向き合う医療人は、患者の痛みが分かり、そして患者を取り巻く様々な状況をも理解しなければなりません。それには豊かな教養と人間への深い洞察力、高い倫理観と説明能力を備えなければなりません。

### 2 自己問題提起、自己問題解決型の創造力豊かな人間を養成する

学業あるいは研究に当たっては、何事も鵜呑みにすることなく、疑問を投げかけ、種々の情報を収集、解析し、自ら解決する能力が求められます。そうしてはじめて、独創的な研究を推進できる人材が育まれます。

### 3 国際感覚と国際競争力に優れる人材を養成する

研究成果が即座に世界に伝播する現代において、医療の分野でもその情報と時間の共有化が益々進んでいます。このような状況の中で、立ち遅れない、むしろ最先端に行く人材の養成に努めます。そのために海外教育研究拠点、海外国際交流協定校への派遣を積極的に推進します。

## アドミッション・ポリシー

### 《求める学生像》

東京医科歯科大学は、本学の基本理念に共感し、本学で学ぶという強い意志をもった多様な人材を国内各地のみならず世界各国から受け入れたいと考えています。

本学の使命は、研究者・医療人のリーダーを育て、広く社会・人類に貢献する人材を育成することです。それを実現するためには、幅広い教養と知識や、医療・生命科学への旺盛な好奇心のもと、問題を発見し、解決していく能力が必要となります。

また、本学に入学し培われた経験は、日本国内のみならず、世界に発信していかなければなりません。そのためには、国内外に幅広く目を向け、医療・社会に貢献・還元するという使命感を在学中から意識し、卒業後に実践していく能力が必要です。

このように、本学で学ぶために必要な基礎学力と、それをさらに発展させる力、自ら考え学習する能力と、それを生涯にわたって継続する力と意志、年齢相応の成熟度を備え、社会に貢献するために必要な倫理観およびこれから伸びる力を有している人材を求めます。

### 《入学試験の基本方針》

本学の入学試験では、学力検査などにより、高等学校において修得すべき知識・技能と、それらを基にした応用力・展開力を評価します。

面接および提出書類により、医療に従事する者としての資質および適性、医療・生命科学領域に対する強い関心を持ち、それらの将来的な課題に対し、自ら考え解決しようとする力およびこれまでの主体性をもった取り組み（高等学校等在籍時の自己の活動、国際感覚に優れる活動など）を評価します。

# Contents

- 学長挨拶…………… 1
- 東京医科歯科大学の理念とアドミッション・ポリシー…………… 2
- シンボルマーク・ロゴマーク…………… 3
- 研究最前線 ～特色ある研究者の紹介～ …… 4
- 医学部長・歯学部長挨拶…………… 5
- 組織図…………… 6
- 医歯学融合教育…………… 7
- 医学部
  - 医学科…………… 9
  - 保健衛生学科 看護学専攻…………… 17
  - 保健衛生学科 検査技術学専攻…………… 21
- 歯学部
  - 歯学科…………… 25
  - 口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻…………… 33
  - 口腔保健学科 口腔保健工学専攻…………… 37
- 教養部 …… 41
- 研究所
  - 生体材料工学研究所…………… 43
  - 難治疾患研究所…………… 44

- 国際交流
  - 医学 / 医療分野におけるグローバルリーダーを育成する…………… 45
  - 学部学生海外研修奨励賞…………… 47
- キャンパスライフ
  - サークル活動…………… 50
  - 学生のある一日…………… 51
  - 図書館…………… 53
  - 保健管理センター / 学生・女性支援センター …… 54
  - 学生支援制度…………… 55
  - 受験、入学から卒業までに必要な経費…………… 56
- 入試情報
  - 試験の種類…………… 57
  - 2019年度入学選抜実施結果 …… 58
  - 男女別 & 地方別入学人数…………… 59
  - 卒業後の進路…………… 60
- キャンパス概要
  - 国府台地区…………… 61
  - 湯島地区・駿河台地区…………… 63
  - 世界大学ランキング / 募集要項等 / キャンパス見学…………… 65
  - 沿革…………… 66

## 東京医科歯科大学 シンボルマーク

この図は大学のシンボルマークであり、これには次のような意味が含まれております。



1. 東京医科歯科大学の発展の歴史と、その将来へのあるべき姿を、本学の所在地、湯島にちなんで、湯島天神一学問の神一の象徴である梅の花になぞらえて図案化したものです。
2. 花の芯に当たる中央の輪は、旧東京高等歯科医学学校の校章であり、これを基盤として現在の大学があることを示しております。
3. 5枚の花弁は、医学部、歯学部、教養部、生体材料工学研究所、難治疾患研究所の5部局を表し、それらが、がっちりとスクラムを組んで花を咲かせているという大学の姿を表現しています。
4. 5枚の花弁は、将来に向かって無限に躍進するという意図を表すために花弁の外側を肉厚にし、これによって躍動的な感覚を盛り込んでおります。

## 東京医科歯科大学 ロゴマーク



本学の欧文表記 TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY の頭文字をとった TMDU を図案化し、これを大学のロゴマークとします。

これには次のような意味が含まれております。

1. 「M」と「D」をつなげることで、医学と歯学の融合を表現しています。
2. 太いラインは“自信”や“強さ”を表し、本学の伝統を表現しています。



国立大学法人  
**東京医科歯科大学**  
TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY

# 研究最前線 ～ 特色ある研究者の紹介 ～

## 生命のレゾナードと向き合う天空のキャンパス ～ 来来来世の君に会いに行こう！～

私たちは何故に生を受け、それを脈々と繋ぐのでしょうか。高校で学ぶ数列の極限を思い浮かべてください。生命、そしてヒト、その究極の進化はどこかに収束するのでしょうか？ それとも発散していくのでしょうか？

帰納し、演繹する、この科学の基本となるストラテジーが、ロボット、AI、イメージングなど新しい時代の研究手法によって、やっと医学・歯学においても可能になりつつあります。これは人類の永遠の命題にも応えることができる時代の幕開けとなるかもしれません。医歯学研究の最小単位ともいえる遺伝子の振る舞いを露わにできる今だからこそ、自らの意志と力で大切なヒトを救い、自身の存在理由にも堂々と立ち向かうことができるはずで。

医学・歯学という範疇で一生を終えることに、まだ迷いを感じている皆様。新時代の医歯学研究は、他の学問はもちろんのこと、経済・文化・政治など、あらゆる領域への垣根を越え、大きく広がっています。

これら新しい研究技術・システムそのものを開発し、稼働、発展させていくことは、まさに今、大学受験を志す皆様に託されています。そして、その先には、日本さらには世界を先導する未来が確実に待っています。

一つの楽器を麗しく奏するような卓越した研究者、それらいくつもの才を束ねて新しい次元の価値を生み出すタクトをふるような研究者、そのいずれの道においても、ヒトの英知の結集である医学・歯学研究をもって、未だ、ヒトの英知を超える“生命”を探求する感激は、なかなか他では味わえないものでしょう。

ここ御茶ノ水のキャンパスで、一緒に大いなる夢を叶えませんか！



**浅原 弘嗣 教授**  
大学院医歯学総合研究科  
医歯学専攻  
先端医療開発学講座  
システム発生・再生医学分野



双腕実験ロボット(まほろ)

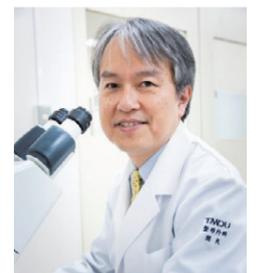
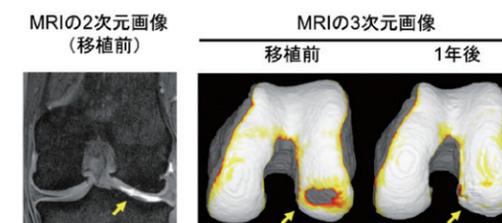
## 診療と研究の二刀流で 患者さんの待ち望む再生医療を実現する

私は高校生の時に、将来何になりたいかを真剣に考え、医者はやりがいがありそうだと思うので、医学部を受験しました。そして、1984年、本学医学部に入学した後、車椅子で入院した患者さんが整形外科の治療によって、元気に歩いて退院する姿を見て、整形外科医の道に進むことを決めました。卒業後は、6年間の研修を受け、医師として十分な生活の糧を得ることができるようになりました。しかし、夢を叶えるため、さらに本学大学院に進学し、米国にも留学して最先端の研究を学びました。

私の目標は、国内推定患者2400万人と言われる変形性膝(ひざ)関節症を撲滅することです。膝の軟骨がすり減ることによって起こるこの病気が進行すると、膝が痛むだけではなく、膝に水が溜まる、曲げ伸ばしが不自由になるといった症状がでてきますが、すり減った軟骨を再生することができる治療法はまだありませんでした。

そこで、帰国した2002年から本学附属病院で、整形外科医として膝の診察・治療を行いながら、再生医療の開発を始めました。まずは、軟骨になりやすい幹細胞を探すため、膝の関節液がたまる空間を裏打ちする滑膜(かつまく)に着目しました。そして、この滑膜を少量採取し、その細胞を培養して増やす方法を開発し、増やした細胞を軟骨が欠損しているところに移植すると、軟骨が再生することを発見しました。さらに、患者さんの協力を得て、安全性や効果を確認する試験を行いました。次は検査法の開発です。軟骨の形態や量を客観的に捉えることができれば、治療によってどれくらいの

効果があったのかを確認することができません。そこで、富士フィルム株式会社と共同でMRI写真を3次元化する方法を開発しました(図)。私は今も、仕事時間の半分は患者さんの診察や治療に費やし、残りの半分の時間で研究を行なっています。患者さんを直接診察することで、よりよい医療を実現するために何が必要かを知ることができ、それに向けた研究を行なうことで、新しい治療法や検査法を生み出すことが可能となります。本学医学部入学を希望する皆さんの中から、診療と研究の二刀流を目指す仲間がより多く育っていくことを願っています。



**関矢 一郎 教授**  
東京医科歯科大学  
統合研究機構  
先端医歯工学創成研究部門  
再生医療研究センター



# 医学

情熱をもって医学を学び社会に貢献したい方々を歓迎します。本学には皆さんの希望をかなえる環境が整っています。

医学部長  
北川 昌伸

医学部は、日本及び世界の医学界をリードしていくことを目指しています。

医学を学ぶことに大いなる情熱を持ち、様々な医療分野で活躍できる人材を歓迎します。もちろん知識を付ける能力は大切ですが、患者さんの立場になった思いやりの心を持つことも必要です。常に優しい気持ちを持ち続けられるよう心掛けてください。

本学は医学教育に力を入れています。恵まれた環境・施設・教育制度のもとで多くのことを学んでください。海外研修の機会も多く用意していますので、積極的に海外での見聞を広め、世界で活躍できるグローバルな人材に育ててください。

医学研究においても優秀な教員・研究者が多数そろっています。研究面でも皆さんの大いなる活躍を期待しています。また医学部附属病院では、研究に裏打ちされた最先端の医療を行っています。卓越した知識・技術を身につけるとともに思いやりにあふれた優れた医療人になってください。乗り越えなければならない壁もありますが、常に前向きな気持ちを持って進んでください。

我々は、皆さんの夢の実現を全力でサポートします。



# 歯学

歯科医学・歯科医療を通じて社会に貢献したいと考えている、意欲と志を備えたあなたの夢の実現を惜しみなくサポートします。

歯学部長  
渡部 徹郎

歯学部は、歯学科と口腔保健学科(口腔保健衛生学専攻、口腔保健工学専攻)から構成される、国立大学として最も長い歴史を有する総合的歯学教育機関で、2019年分野別QS世界大学ランキングの歯学分野では日本第1位、世界第10位の高い評価を獲得しています。

歯科医学のフロントランナーとして、私たちは多彩な授業・実習から成る充実したカリキュラムを擁し、経験豊かなスタッフと充実した施設で基礎から臨床に至るすべての分野を網羅した質の高い教育を提供しています。充実したカリキュラムの一例として、日本最大規模の歯学部附属病院を中心に行われる実践的な臨床実習が挙げられます。ここでは、知識・技術のみならず、歯科医療のプロフェッショナルに必要な癒しの心やコミュニケーション力をも育む絶好の機会を皆さんに提供しています。

歯科医学研究においても優秀な教員・研究者が多数おり、研究面でもあなたの活躍を期待しています。多くの海外研修の機会も用意しており、将来世界に羽ばたくための貴重な経験を得ることができます。

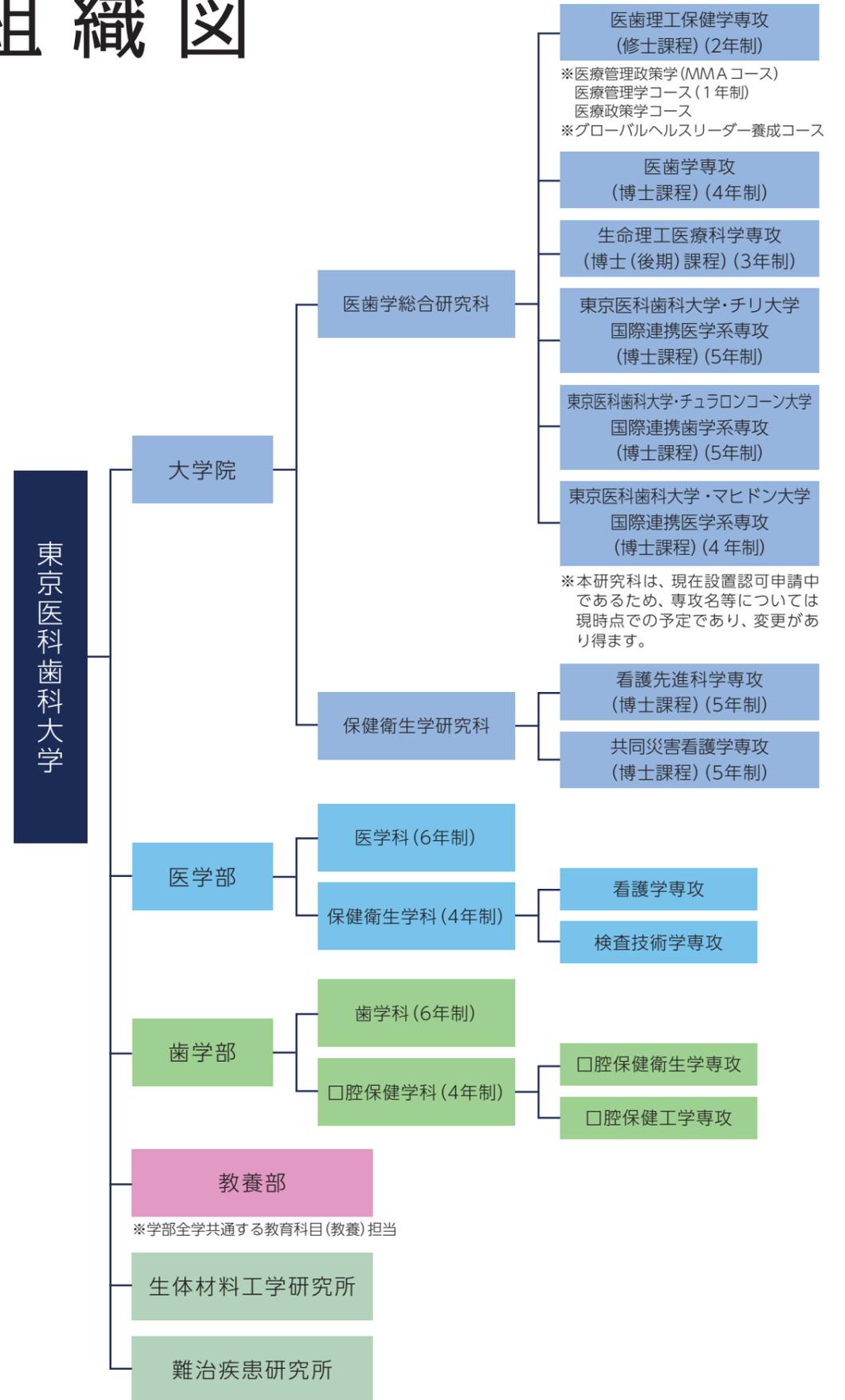
優れた歯科医学・歯科医療のプロフェッショナルとして大きく羽ばたく意欲と志を備えた皆さんを歓迎します。

## 「四大学連合」(東京医科歯科大学・東京外国語大学・東京工業大学・一橋大学)で、さらに広がる「学び」

様々な分野の学術拠点が集まり、最新情報をタイムリーにキャッチできる大都市・東京には、勉学はもちろん、医療人・国際人としての教養を幅広く身につける上で望ましい環境がそろっています。東京外国語大学・東京工業大学・一橋大学と本学が協力して発足した「四大学連合」は、各大学が独立性を保ちながら密接な連携を図り、「複合領域コースの設定」「編入学の実施」「複数学士号の取得」などを実現して、一大学ではなしえない教育プログラムを提供するものです。豊富な知識と広い視野を有する人材を育て、広く社会に貢献しています。



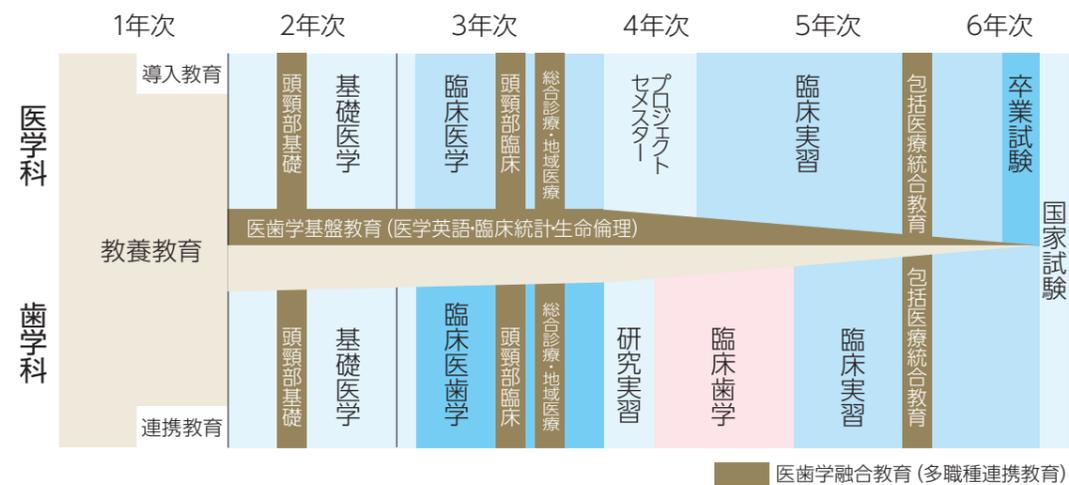
# 組織図



# 医歯学融合教育

ますます進む高齢化社会や医療の進歩、複雑化により、これからの医療には医師、歯科医師をはじめとした多職種間での連携・協調のとれた包括的医療の提供が不可欠です。そこで、本学では、医療系総合大学の特性を生かし、他大学に先駆けて、包括的な視野を持つ医療人の育成を目的に、医学科、歯学科の学生が共通して学ぶべき科目を合同で行う医歯学融合教育を2011年度より開始しています。

## 本学でしか学べない教育



## ■ 医歯学基盤教育 ■

2年次から4年次までの週1日に医学、歯学を学ぶ上で基盤となる「グローバルコミュニケーション」「臨床統計」「生命倫理」を学ぶ医歯学基盤教育を行っています。

このカリキュラムでは、医学/医療の分野において、地球規模で問題となっているトピックや倫理的問題に精通し、世界標準言語である英語で論理的に考え議論/協働できることが重要と考え、臨床統計の概念と背景理論を理解し、臨床データ・情報の厳密な吟味のもとに科学的根拠に基づく患者主体の最良の医療・歯科医療を提供できる医師・歯科医師に不可欠な基盤を学ぶことができます。

## ■ 頭頸部ブロック ■

2年次に「頭頸部基礎ブロック」、3年次に「頭頸部臨床ブロック」をそれぞれ3～4週間集中して受講します。

この「頭頸部基礎ブロック」では、両学科の学生が脳を除く首から上の部位に関する正常な構造・機能に関して、両学科の解剖学や生理学の教員の講義を受講し、並行して2学科合同の実習を行い、頭頸部への理解を深めています。

また、「頭頸部臨床ブロック」では、頭頸部領域の疾患を理解する上で必要となる眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、形成外科、口腔外科の講義を主に受講します。講義の形態として、患者参加型講義等も行われます。

## ■ 総合診療・地域医療ブロック ■

こちらは「頭頸部臨床ブロック」と同様に3年次に2週間集中して行うブロックです。

このブロックでは、実際に地域で展開されている医療・歯科医療などを知り、地域住民のニーズに合致した医療や多職種連携を理解し、全人的医療を実現させる総合診療、地域包括ケア、そして地域共生社会の重要性を認識できるようにすることを目的としています。

## ■ 包括医療統合教育 ■

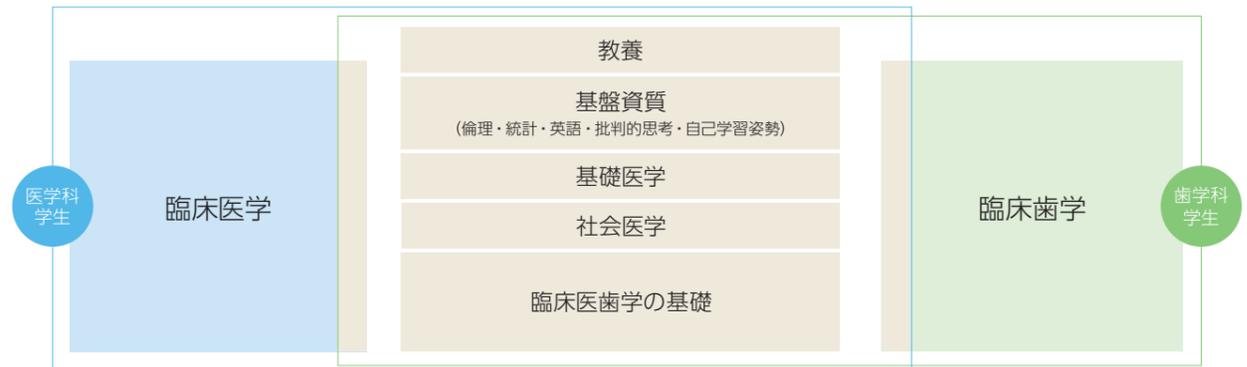
包括医療統合教育は、5年次から6年次にいたる臨床実習の途中で行われるコースです。ここでは医療機関のなかで行われる診断治療に限らず、社会と医療の関わりについても学びます。このうち、いくつかの授業は医学科と歯学科合同で行われます。また、臨床実習のなかにも、両学科の学生が共に学ぶ機会があります。

このコースのなかに、本学学士課程全学科(専攻)の最終学年学生が全員参加して行う専門職連携教育ワークショップ「チーム医療入門」があります。こちらは2012年度から患者さんの立場で最良な包括的ケアを提供する人材の育成を目的として導入されており、参加した学生は症例に沿った問題解決のために、自身の職種の専門性を発揮しながら、患者中心の最良な医療のために議論・協働を行います。2日間という短い期間ですが、最初は緊張していた学生も次第に打ち解けて、後半には、白熱した議論を展開し、他職種への理解、チーム医療の構成員として自分が果たすべき役割と連携する必要性を認識しています。



本学全学科・専攻の最終学年学生よりなる混成小グループでの包括医療ケーススタディ(左)と、緩和ケア病棟における医歯合同の臨床実習(右)

## 卒業時に習得しておくべき知識・技能・態度



## 医学科の教育理念

疾患の治療と予防及び健康の保持・増進を研究し、その成果を広く医療・福祉に応用する医学の発展を担う指導者を育成します。

## 医学科の教育目標

- 幅広い教養と豊かな感性を備え、広い視野と高い倫理観をもつ人間性を培う。
- 自ら問題を提起して解決し、医学のフロンティアを切り開く創造能力を修得する。
- 世界的規模で働く国際人としての意識を持ち、世界に貢献できる医師・医学研究者を養成する。

## 最先端の研究と医療の場から、国際社会で活躍できる医療人を輩出する

医学とは、様々な疾患の治療と予防、健康の保持・増進について研究し、その成果を広く医療・福祉に応用するための学問です。本学科ではこれを踏まえ、動物材料や臨床材料を用いた最先端の基礎的研究を、附属病院では最新の医療機器と最高の知識・技術を持つ医師団による医療が進められています。

本学科では、日々の学びを通して基礎から臨床にわたる広い分野の知識と技術を習得することが求められます。卒業時に到達すべきレベルは、卒業時コンピテンシー (<http://www.tmd.ac.jp/artis-cms/cms-files/competency.pdf>) に示されています。卒業後は、医師あるいは医学の教育・研究に関わる様々な分野の指導者として、医学・医療の進歩に力を尽くし、国内のみならず国際社会で活躍することが大いに期待されています。

## ■ 教育内容 ■

高齢化が進む社会において、これからの医療はますます重要な分野となります。本学医学科は、将来のこの分野の様々な課題に対処できる指導的医療人の育成を目標とします。そのために、自律的な行動力と広い視野を獲得し、高い水準の問題解決能力を開発できるよう、新しいカリキュラムを構築しました。具体的には以下の構成で教育が予定されています。

1年次は教養部で全学共通科目を学ぶと共に、後期になると週1日、湯島地区で行われる医学導入において、早期臨床体験実習等を通じて医療人としての意識を高めます。2年次から4年次にかけても、引き続き教養教育は行われますが、生体と病気のメカニズムについても講義・実習を通じて深く学んでいきます。特に4年次にはプロジェクトセメスターと呼ばれる長期の自由選択学習が実施され、自ら興味を持った課題について半年間研究を行い、科学的な考え方、結果のまとめ方を学びます(12p参照)。また、基礎医学の研究実践プログラムも設けられ、希望者には課外の時間を利用して2年次より研究を開始することも可能になります。さらに、研究を継続したい学生は、一時大学院に進学し医学博士号を取得した後、復学するMD-PhDコースも用意されています(13p参照)。

その後は、臨床導入実習で基本的診察技法を習得します。全

国共用試験を経て、医学部附属病院のみならず関連病院、診療所や在宅医療機関を含む様々な医療現場で約1年半にわたっての診療参加型臨床実習が行われます(12p参照)。この実習では医療チームの一員として学ぶために院内携帯電話や学生用電子カルテなどが用意され、臨床推論について徹底的に学びます。一方、リーダーとしてのコミュニケーション能力開発のため、チュートリアル等、少人数で討論を行う機会、プレゼンテーション技法の訓練の機会等も豊富に設けられています。また、医療系総合大学の強みを生かした歯学科との医歯学融合教育や保健衛生学科(看護学専攻・検査技術学専攻)、口腔保健学科(口腔保健衛生学専攻・口腔保健工学専攻)や、星薬科大学薬学部薬学科、早稲田大学健康福祉科学科、上智大学総合人間科学部社会福祉学科などとチーム医療について学習する機会も用意されます。

さらに、国際化が進む将来を見据え、英語で医学を学ぶ講義が1年次後期から3年間にわたって行われるほか、海外研修奨励制度や海外の一流提携大学で学ぶ機会も用意されています(13、14p参照)。また、全国最大規模のスキルスラボ(臨床手技習得のためのシミュレーション機器を備えた学習室)、国際的に通用する教科書をオンライン上で参照できる e-learning 環境など先進的な学習環境が整えられています。

## ■ カリキュラム構成図

	カリキュラム内容
1年生	教養教育 医学導入
2年生	基礎医学 頭頸部・基礎
3年生	臨床医学 頭頸部・臨床 総合診療・地域医療
4年生	プロジェクトセメスター 臨床導入実習
5年生	臨床実習 包括医療統合教育
6年生	卒業試験

教養教育・医歯学基盤教育

■ 医歯学融合教育(多職種連携教育)

## ■ 授業科目

医学導入	公衆衛生学
人体構造総論	臨床医学導入
細胞生物学	循環器
神経生理導入	呼吸器
生理学	消化器
医歯学基盤教育	体液制御・泌尿器
組織学	内分泌・代謝
人体解剖学	一般外科
頭頸部・基礎	血液・腫瘍
薬理学	神経科学・臨床
生化学	骨・関節・脊椎
分子遺伝学	皮膚・アレルギー・膠原病
神経解剖学	感染・臨床
免疫学	頭頸部・臨床
神経科学・基礎	総合診療・地域医療
感染・基礎	生殖・発達
東洋医学	救急・麻酔
病理学	自由選択学習
医動物学	臨床導入実習
腫瘍学	臨床実習Ⅰ・Ⅱ
法医学	包括医療統合教育
社会医学	研究実践プログラムⅠ～Ⅴ
衛生学	地域医療学習プログラム



# 将来の自分を培う魅力あるカリキュラム

医学の基礎を確かなものにするために、問題解決能力、自己学習能力を養い、医学を学ぶ面白さを実感できます。さらに、治療チームの一員としての役割を担うことで、患者さんの信頼に応え、医師としての喜びを体験できます。

## ■ 医学導入

1年次後期に週1日湯島地区で履修するコースで、医療人としての基盤形成とともに、将来グローバルに活躍する医師・医学研究者としてのキャリアビジョンの創出を目的としています。医学の歴史と今後の展望について学び、国際人としての意識と広い視野を育むための小グループ英語議論に参加し、「受け身型」から「能動的で問題解決型」へと学びのモードを変えるための様々なセッションに参加します。

また、多彩なフィールドで活躍する先輩医師・医学研究者の講演を聞き、実際に彼らと半日をともに過ごし活躍の様子を垣間みて、将来のキャリアビジョンを創出します。さらに、教育・診療・研究施設の見学、先輩である医学科5年生の臨床実習の見学、シミュレーターを用いた蘇生実習、看護師や新患の患者さんと半日を過ごす実習などを通して、2年次から始まる医学専門教育に向け意識を高めます。

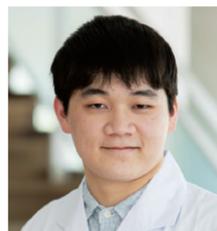
## ■ グローバルコミュニケーション教育

グローバル化が進む中で、医師・医学研究者として地球的規模で活躍していくには、その共通言語である英語を使いこなせなければなりません。そこでは、言語としての英語にとどまらず、国際舞台で情報を発信し、意見交換できる力が必須です。本学医学科のグローバルコミュニケーションコースでは、並行して学習する基盤教育、そして医学専門教育と協調・連携させ、学習ステージにあった健康・医学関連トピック記事や症例をもとに、英語を使って情報を収集・共有し、議論して問題解決を図るトレーニングを徹底して行います。



## ■ Critical thinking を磨き、グローバルな視野を持った医療者を目指す

グローバルコミュニケーションは、世界レベルの医療・健康問題について英語を用いたディスカッションやプレゼンテーションを行う授業です。この授業は本学の「国際性と指導力を備えた人材の育成」という理念に基づき、学生間での議論およびネイティブスピーカーの先生方からの指導により、英語運用能力、グローバルな医療健康問題への理解、更には「適切な基準や根拠に基づく、論理的で、偏りのない思考」即ちCritical thinkingの力を磨くことを目指します。自分にはない視点を持ったレベルの高い友人達や、異なる文化的背景を持った先生方と論を交えられる貴重な機会であり、Critical thinkingをはじめ国際人としての資質を持つ医療者となるべく研鑽を積むことができます。世界全体での健康向上が叫ばれ、医療現場において文化や価値観の異なる人々との協調が求められる中、この授業で学んだことを活かし、グローバルレベルで医歯学分野に貢献できる人材となるため努力していく所存です。



伊藤 潤哉  
医学部 医学科3年

## ■ 統合型教育

診療現場や研究領域における問題解決型思考能力や、生涯学習に必須となる自己学習能力の養成を目的に、これまで4つの領域(消化器、腎・体液制御、呼吸器、腫瘍学)で実施していた統合型(ブロック型)教育を、全ての臨床系科目に拡大しました。統合型(ブロック型)教育では、従来の臨床科目別の系統講義ではなく、関連する臨床系分野が1~4週間のブロックを形成することで、症候から病態生理を中心に集中的に学習する環境を提供します(全16ブロック)。

各ブロックの最初にはそれまでに学んだ基礎医学の知識を賦活化するセッションを組み、基礎及び臨床医学の知識の統合を図ります。これまでのPBL(Problem-Based Learning) チュートリアルのほか、知識の確認・応用とグループ討論を促すTBL(Team-Based Learning)を導入し、症例提示型学習による自己問題提起・解決能力とチーム内でのコミュニケーション能力を養成します。関連講義には基礎医学内容も統合されており、基礎医学領域への関心が誘導されるよう配慮されています。

## ■ 自由選択学習(プロジェクト Semester)

主な講義・試験及び基礎実習を終えた4年次に設定されている最長6ヶ月のコースです。興味をもった分野について集中的に学ぶことにより、科学的視点を有する医師としての基盤を養成します。本学の諸講座、附属研究所のほか、学外研究機関、さらには国際交流協定校のインペリアルカレッジ(イギリス: ロンドン)、オーストラリア国立大学、ソウル大学、チュロンコン大学(タイ) などにおける履修の機会もあります。全学生の研究成果は、発表会の場においてポスター展示及びプレゼンテーションが行われ、お互いに共有することになります。

## ■ 自分の世界を広げるプロジェクト Semester

本学は医学研究及びその教育に非常に重きを置いており、学生は約半年間にわたって自身の希望した研究室で研究に専念させてもらえます。非常に自由度の高いカリキュラムで、学生のモチベーションによっては学会発表や論文作成まで行うことができます。

私は臨床解剖学の研究室に所属し、「肛門挙筋の起始」に関して研究しました。はじめは研究領域に対する知識が少なく、手技も未熟だったため上手くいかないことばかりでしたが、少しずつできることが増え、肉眼解剖だけでなく組織標本の作製と染色ができるようになりました。最終的に研究成果をアメリカ臨床解剖学会という学会で発表することができ、研究の世界の難しさ楽しさの一端を知ることができました。



藪内 朝紀  
医学部 医学科5年



研究を通して実験や手技を学ぶだけでなく、多くの先生方とお会いし、海外の学会で発表することもできました。研究に関わらなければ知ることができなかった物事に触れて自分の世界が広がったように思えます。ぜひ、皆さんもプロジェクト Semesterで自分の世界を広げてください。

## ■ 診療参加型臨床実習

医学科での4年間にわたり修得した知識を総動員して、診療チームの一員になり、患者さんの持つ複雑な臨床問題の解決に主体的に参加する実習です。5年次から8つのコア診療科(内科3、外科2、ER1、小児科1、産婦人科1)を含む、4週間ずつの16ローテーションを通して、臨床医になるために必要な生きた知識、技能、態度を修得します。診療チームの一員としての役割を担うため、院内PHS及び学生用電子カルテが用意されます。そして診療チームの一員として入院時の問診、診察を行い、回診では受け持つ患者さんについてプレゼンテーションを行い、方針決定の議論に主体的に参加します。また、主治医によるインフォームドコンセントや手術の立ち会い、またソーシャルワーカーを交えての退院計画立案にも参加することにより、医療全体の流れをつかみます。

患者さんの信頼に応え、臨床問題を解決していく過程で、医師としての喜びとともに責任を体験し、プロフェッショナリズムを養います。

本学附属病院のほか、関連病院や診療所、海外の提携大学(オーストラリア国立大学、マヒドン大学(タイ)、国立台湾大学)などで実習も行われています。

## ■ 教科書からは見えない知識・技術を身に着ける

臨床実習では、学生も診療チームの一員として加わり、患者さんへ問診、診察を行い、それらの情報や検査結果をもとに考察やカルテ記載をします。回診やカンファレンスでは学生のみならず現場で働く医師の先生方の前でプレゼンテーションを担当。学生自ら考え、行動し、それに対する先生方のフィードバックを受けられるという本学の实習形式によって、これまで教科書から得たばらばらの知識をより実践的な形で理解しまとめあげることができます。また、担当する患者さんと毎日接するなかで、信頼関係の築き方、分かりやすい伝え方、双方の考え方の違いを知るといった教科書からでは決して得られない感覚・能力も自然と身についていきます。

この約2年間の貴重かつ恵まれた機会の中で、知識・技術・精神といった様々な面において成長し、今後責任ある医師として働くための土台を築いていきたいと考えています。



内田 嶺花  
医学部 医学科5年



# 国際的医療人育成のために

21世紀の最先端の医療と生命科学に対応できる医療人の育成を目指し、言語のみならず、品格、知識、態度、技能いずれにおいても、国際社会に通用する医学のリーダーを育てます。

## ■ インペリアルカレッジとの交換留学プログラム

4年次中期のプロジェクトセメスターの期間中に、毎年5名の学生にイギリスの名門校インペリアルカレッジに留学する機会が与えられます。一流の研究者の指導を受け、さらに世界中から集まって来ている研究室メンバーへのプレゼンテーションやディスカッションを行いながら、半年かけて研究プロジェクトを進めます。またインペリアルカレッジからの学生の受け入れも毎年実施しており、彼らの滞在中に本学学生との活発な交流が行われます。

## ■ イギリス・インペリアルカレッジロンドンでの留学生活

このプログラムでは、インペリアルカレッジにおいて自分が興味を持った分野の研究室に所属し、先生方の指導のもと、実験・ディスカッション・レポート作成や学会への参加などを通して研究内容・方法について国際的な視点を交えて深く学ぶことができます。私は、癌に対する免疫療法の研究をされている先生のもとで、免疫チェックポイント阻害剤をより効果的に用いるための研究に携わりました。また、半年間という長期間にわたってインペリアルカレッジの学生寮で生活することで、研究だけでなくイギリスの医学生活やイギリスの文化、医療制度などに幅広く触れることができました。

振り返ってみると、両大学の手厚い支援のもと、海外での研究生生活と日常生活の双方において自分のやりたい事に自由に時間を使えた、とても有意義な機会であったと思います。海外の研究スタイルを学びつつ、異文化の中に身を置いて価値観を広げられたことは、自分の将来の選択肢を増やす貴重な経験となりました。



峯尾 堯  
医学部 医学科5年

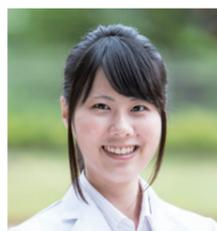
## ■ MD-PhD (医学研究者早期育成) コース

優れた医学研究者を育成するための早期医学研究トレーニング特別プログラムです。このコースでは、従来のように医学科卒業後に大学院に進学するのではなく、医学科4年次あるいは5年次修了後に、医学科の学籍を一時離れ、大学院に進学します。それにより、医学科における基礎的な医学教育を発展させ、体系だった高度な医学研究を経験することを目的としています。大学院在学中に博士論文を完成した者は審査を行い、合格者には博士の学位が授与されます。大学院修了後は医学科5年次あるいは6年次に戻り、医師免許の取得を目指すこととなります。

## ■ 研究医を目指す人のための濃密な3年間

本コースでは、臨床実習開始前に一度医学部を休学して大学院に進学し、学位(医学博士)の取得を目指すこととなります。研究志向の強い学生にとっては、医学科4年次のプロジェクトセメスターから連続して大学院に進み、研究を深めることができるのはたいへん良い機会だと思います。

以前より研究志向の強かった私にとっては、医学科5年次以降、主に臨床家としてのトレーニングが続くことに不安を感じておりました。しかし、本コースに進学し、研究に専念する期間をいただいたことで、早期に研究者としてのトレーニングを積むことができ、研究の世界に進む自信を持つことができました。実際に経験してみると、3年間は本当に短く、学位論文を仕上げるのはここには書ききれない程の苦労がありましたが、早期に研究者としての自己を確立できたことで、今後の進路選択において大きなアドバンテージをいただいたと思っております。ぜひ、本コースを活用して世界に羽ばたく研究医を目指す後輩が来てくれることを期待しております。



橋本 恭子  
医学部 医学科6年

## ■ パートナーズ・ハーバード・メディカル・インターナショナルとの医学教育連携

本学は2002年よりパートナーズ・ハーバード・メディカル・インターナショナルとの間で、医学教育に関する提携を結んでいます。ハーバード大学医学部は、研究面のみならず、臨床面においても世界トップクラスとの評価を受けており、優れた教育者及び教育システムを有しています。パートナーズ・ハーバード・メディカル・インターナショナルとの提携を通し、グローバルに活躍する医師・医学研究者を輩出するために本学の医学教育の質をさらに向上させるべく積極的に取り組んでいます。その一環として、正規カリキュラムとして「ハーバード大学の学生とともに学ぶ臨床実習」を設定し、毎年6年次学生数名(2018年は7名)を派遣してきました。また教員も派遣して研修を行っています。

## ■ 学生派遣プログラム

この派遣プログラムは、ハーバード大学医学部関連病院で臨床実習に参加するという大変有意義な機会を提供します。6年次初めの8週間、派遣された学生は4週間ごとの計2つのローテーションよりなる臨床実習に従事します。ハーバード大学医学部学生と互いに切磋琢磨し合いながら、診療チームの一員として臨床問題解決に主体的に参加します。

派遣のための選考は、5年次に、英語による志望動機書、英語による小グループ議論、そして面接により行われます。選考された学生は、その後6ヵ月半にわたり、英語による病歴聴取、診察、症例プレゼンテーションと議論、記述などの実践的な技能修得のためのトレーニングに従事します。そして最後に、ハーバード大学医学部による電話での英語面接に合格して、晴れてボストンでの実習に参加できます。

今後は、より多くの学生が海外の医療機関で臨床実習を行えるよう、国際性を磨く機会を創出していきます。



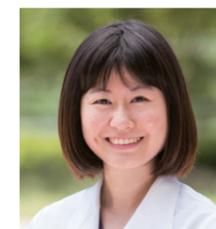
2017年派遣学生



2018年派遣学生

## ■ 世界中から人が集まるハーバードでの実習を通して

本プログラムでは、ハーバード大学医学部関連病院において現地の学生や世界中から集まる留学生とともに臨床実習を行うという貴重な体験ができます。私は睡眠障害科と新生児集中治療室で1ヵ月ずつ実習させていただきました。新生児集中治療室では多職種の医療スタッフが一致団結して働いている現場を目の当たりにして、確立されたチーム医療のあり方に感銘を受けました。また、様々な経歴をもった学生や研修医と交流する機会があり、多国籍な同世代の医学生や医師が日々どういったことを考えてどのような生活を送っているのか知ることができました。日本人医師・研究者の方のお話を伺う機会にも多く恵まれ、将来を考える上で視野が大変広がりました。研修医として働き始めた今も、2ヵ月間で得た経験は日々の励みとなっており、様々な選択をしていく場面で生きていくと思えます。学部6年生という早い時期に海外の医療現場を体験させていただけたのは、とても幸運であったと感じています。



板谷 真子  
医学部 医学科  
2016年度卒業

## ■ 最高峰の医学に触れて

2016年、東京医科歯科大学の学生派遣プログラムで米国ボストンのハーバード大学医学部関連病院で臨床実習をさせていただきました。

私はマサチューセッツ総合病院(MGH)の神経内科で実習しました。世界最高峰の病院の一つであるMGHにはアメリカ全土のみならず、世界中から難治症例が集まってくるため、非常に貴重な経験をすることができました。特に、初めて公開麻酔実験が行われたとされるエーテル・ドームで行われ、その討論内容が世界最高のジャーナルであるNew England Journal of Medicineに掲載される病理カンファレンスに参加したときの感動は今でも鮮明に思い出されます。



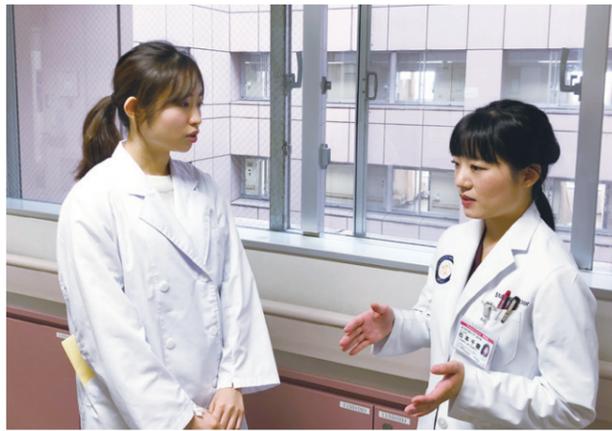
ボストンは医学だけではなく学問の聖地でもあり、アカデミックな雰囲気が流れる素晴らしい街でした。現地の先生にお世話になることも多く、研究室や講演会に行かせていただく機会にも恵まれました。

MGHで最高峰の医学に触れることができたという自信は今、臨床研修医として日々研鑽を積んでいる中であっても、時に心の支えとなり、時に向上心を与えてくれています。



和田 昇悟  
医学部 医学科  
2016年度卒業

## ■ シャドーイング ■



1年次に医学部附属病院の医師、研究者、看護師、及び初診患者さんにつき、診療の現場を見学します。1年間に4回設定。早期から医学、医療の現場を実感させる、本学ならではの体験型実習の一つです。

## ■ 基礎医学実習 ■



2年次から3年次の初めにかけて、人体の構造や機能などの基礎医学、社会医学について学びます。2年次の初めに行われる組織学実習(左)では、正常な人体の各組織を顕微鏡で観察します。これらを理解することは病態を学ぶ際に必須と言えます。3年次の初めに行われる法医学実習(右)では死因究明に必要な手技を経験し、社会に必要とされる医師の職務を学びます。

## 在学生から

MESSAGE FROM A STUDENT



横堀 将一  
医学部 医学科6年

### 自ら学び、深めることのできる充実した環境

本学では6年間かけて医療人として必要な知識、姿勢を十分に学ぶことのできるカリキュラムが用意されています。講義や実習では、最先端の治療・研究をなさっている先生方が丁寧に指導していただき、私たちの医療への知的好奇心が高まります。その知的好奇心に応じて充実した教育を受けることができるのは本学の特徴です。

4年次のプロジェクト Semester では、自分が興味のある分野について研究することができます。診療参加型臨床実習では、必修の診療科の他、自分の興味に応じて診療科を選択することができ、将来の医師像を考える助けになります。

また本学は医療系総合大学であり、医歯学融合教育や部活動などを通じて歯科医師、看護師、臨床検査技師などの道に進む学生との学習・交流の機会に恵まれています。将来の医療を担う仲間たちとのコミュニケーションを通じて、医療人としての視野を広げることができます。

医師に必要なプロフェッショナリズムを身につけることのできる充実した環境の下で学ぶことができ、嬉しく思います。

## ■ 基礎医学 / 臨床医学講義 ■



多くの講義は写真や図が豊富に使われたスライドを用いて行われます。講義資料は事前に各自のPCにダウンロードでき、予習・復習に活用されます。テレビ会議システムを用いて実習室と講義室を結び、臨場感あふれる講義が行われることもあります。

## ■ クリニカル・クラークシップ ■



5年次から6年次に向け、医学部附属病院の各診療科を1～4週間ずつ回ります。必修の診療科と選択の診療科があり、実際に患者さんを受け持ちながら学びます。

## 卒業生から

MESSAGE FROM A SENIOR



東京医科歯科大学  
医歯学総合研究科  
消化器病態学分野  
寄附講座助教  
竹中 健人  
医学部 医学科 2008年度卒業

### 医科歯科大学から医師になる第一歩を踏み出しませんか

みなさんは「どのような医者になりたいか」と聞かれたらどのように応えますか。「家族や友人が病気になったときに、自信をもって診られる医者になりたい」。私は、そう思いながら日々の診療をしています。医師免許を取った後は様々な道があります。例えば、開業してかかりつけ医をしたり、地域の病院でたくさんの患者さんを幅広く診たり、大学病院で専門的に難病に取り組んだり。あるいは病気の研究をする人や、行政で働く人もいます。

入学して6年間で様々なことを学び、経験し、自分が医師になるという自覚が芽生えるでしょう。医学知識の習得だけではなく、クリニカル・クラークシップで患者さんと向き合うこと、各分野の第一線の教員や研究者との出会い、優秀な同級生との切磋琢磨など、全てが皆さんの力になると確信しています。コンパクトな大学である利点として、手厚い指導も受けられます。また本学は医学部生だけでなく卒業後の研修医の指導に関してもみんなで温かく育てるという雰囲気があり、全国でも有数の臨床研修病院です。ぜひこれからの医療を一緒に担っていきましょう。

## 保健衛生学科 《看護学専攻》

### 保健衛生学科の教育理念

本学科は、看護学、検査技術学の2つの専門領域における知識・技術を教授することにとどまらず、豊かな教養と高い倫理観に裏づけられた医療人としての感性を有し、学際的視野にたち、自ら問題を提起し、これを解決できる能力を備えた医療人を養成します。

### 看護学専攻の教育目標

高度先進化する科学技術の基礎理解力を持ち、高齢化社会における保健医療・福祉等の様々な職種と連携して、専門職としての役割を果たす人間性豊かな人材を育成する。

## 知識と技術を高め、実践と研究を通して 看護のエキスパートを養成する

看護実践能力の高い看護師の養成を目的として、体験学習を重視し、自己理解を深めながら専門職にふさわしい感性を磨き、コミュニケーション能力の向上を図ります。

臨地実習では、看護技術の到達点を確認しながら学習できる独自の教育システムを用いて、医学部附属病院などの医療施設や地域との連携をもとに、あらゆる健康レベルの人々に対応した看護を展開します。

卒業研究には3年次から取り組み、ゼミを通して研究を深めます。

また、日本初の看護系大学院大学として、臨床現場のスタッフと実践・研究・教育の様々な側面での連携を図るとともに、卒業生をはじめ看護学を発展させていきたいと思っているたくさんの人々の活躍を支援しています。



### ■ 教育内容 ■

看護学専攻では、医療の高度化を支える自然科学・技術並びに生命倫理に関する基礎的な理解を深め、多様化する社会や文化の中で人間が生きることを支える人文科学・社会科学的な素養を併せ持つ看護実践者を養成します。

看護学の教育・研究・実践を基盤に、あらゆる健康レベルの人々に向けた保健医療福祉に関する専門知識を幅広く修め、省察できる能力を養うことで、関連職種との連携・協働を主体的に担うことのできる対人関係能力を備えた看護師の養成と、生涯学習の支援を重視しています。

1年次には、教養部で全学共通科目(人文、社会科学、自然科学、外国語など)を履修し、週1回は専門基礎分野の解剖学、微生物学及び看護専門科目(基礎看護学、看護心理学、看護の統合と実践)を学びます。

2年次前期には、看護学に関連の深い生理学、病態学、薬理学、栄養学などの専門基礎科目を講義と演習によって集中的に学びます。専門共通分野の医療情報学などはこの時期に始まり、2年次で学ぶ看護学専門科目の軸は基礎看護学の講義と演習で、成人、精神、小児、在宅看護学の講義は、2～3年次に

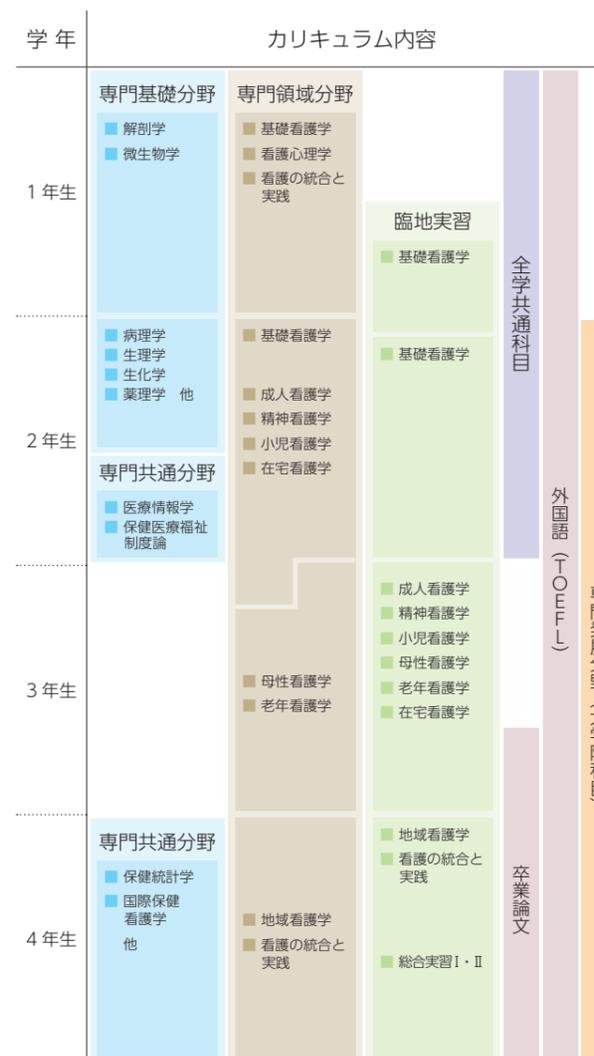
かけて開講されます。母性、老年看護学は3年次前期に学び、保健師資格取得(選択性)に必要な地域看護学関連の科目は主に4年次で学びます。

臨地実習は1年次の基礎看護学実習に始まり、2年次の基礎看護学実習、3年次後期の成人、精神、小児、母性、老年、在宅看護学実習、4年次の地域看護学、看護の統合と実践、総合実習で終わります。臨地実習では援助的な対人関係を確立する能力の育成にも力を入れ、その準備として、2～3年次に自己理解を深める技法や、相談面接技法の訓練、患者会リーダーとの交流などを行います。

4年次には少人数制のゼミで卒業研究に取り組みますが、その準備として、3年次後期より看護学研究方法と理論的背景について学びます。

このほか、国際的な研究や実践を担う力を高めるため、全学的な取り組みと同時に、各学年で外国語の授業を履修できます。さらに、大学院の教育科目の先取り履修制度によって学部生のうちから大学院の単位を修得することができます。

### ■ カリキュラム構成図



### ■ 授業科目

- 専門基礎分野**
  - 解剖学
  - 生理学
  - 生化学
  - 薬理学Ⅰ・Ⅱ
  - 病理学
  - 微生物学
  - 栄養学
  - 疫学
  - 病態学
  - Global Nursing Communication Ⅰ・Ⅱ
  - 専門基礎合同演習
- 専門共通分野**
  - 保健統計学
  - 医療情報学
  - 国際保健看護学
  - 産業保健学
  - 保健医療福祉制度論
  - 健康教育学演習
  - 卒業論文Ⅰ・Ⅱ
  - 実践看護英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
  - 国際保健福祉A・B・C・D
  - Learning Medical English
- 専門発展分野 (大学院科目)**
  - 看護学研究法特論
  - 看護政策学特論
  - 看護教育学特論
  - 国際看護研究方法論
  - 看護病態生理学
  - がんエンドオブライフケア看護学特論A-1
  - 精神保健看護学特論A-2
  - 看護ケア技術開発学特論B
  - 小児・家族発達看護学特論A-1
  - 高齢社会看護ケア開発学特論A
  - 高齢社会看護ケア開発学特論B
  - 看護システムマネジメント学特論A
  - 国際看護開発学特論A
- 専門領域分野**
  - 基礎看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
  - 基礎看護学演習Ⅰ・Ⅱ
  - 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ
  - 成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
  - 成人看護学演習
  - 精神看護学
  - 地域精神看護学
  - 精神看護学演習
  - 精神看護学実習
- 看護心理学
- 小児看護学Ⅰ・Ⅱ
- 小児看護学演習Ⅰ・Ⅱ
- 小児看護学実習
- 母性看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 母性看護学演習
- 母性看護学実習
- 老年看護学
- リハビリテーション看護学
- 老年看護学演習
- 老年看護学実習
- 地域保健看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 地域保健看護学演習
- 在宅看護学Ⅰ・Ⅱ
- 在宅看護学演習
- 在宅看護学実習
- 看護の統合と実践Ⅰ・Ⅱ
- 看護の統合と実践実習
- 総合実習Ⅰ・Ⅱ

# 講義・実習風景

## ■ 保健医療福祉制度論 ■

看護の専門領域に共通して必要な基礎科目は2年次開講です。医療人として多くの人々の保健医療福祉に携わるために、国民の健康を守る制度や仕組みについて学びます。医療保険制度、福祉制度、介護保険制度等のみならず、年金制度、雇用・労災保険、諸外国の保健医療福祉制度についても学習します。



## ■ 臨地実習 ■

臨地実習は全学年に配置されているが、3年次の9月末から約半年間の臨地実習期間に入ります。病院や高齢者施設だけでなく、対象者のご自宅にも訪問して、座学で学んだ医学的知識や看護学の理論や技術を、日々の看護実践の中で展開します。そして、そこでの出会いが、看護師としての責任の重さを痛感させると同時に、更なる勉強意欲を高めることに繋がっていきます。



## ■ 実践看護英語 ■

異文化を理解し国際的に活躍できる人材を育成する目的で、英語自体を学ぶというよりも、異文化や看護について英語で学ぶ科目です。主にネイティブの英語教員が担当し、様々な文化についての記事を読み、留学生やクラスメートと英語でのディスカッションやプレゼンテーションを行います。

2～4年次で3回まで受講できるよう設定しています。



## ■ 地域保健看護学実習 ■

4年次には地域保健看護学実習に出かけます。活躍の場はコミュニティです。地域保健看護学実習で学んだ、病気の人だけでなく、問題だけではない、疾病の予防やヘルスプロモーションといった、幅広い保健師の活動について自分たちが学んだことを発表し、意見を交換します。地域社会の中でもまれることで、人間として一回りも二回りも成長させてくれます。



## 在学生から

### MESSAGE FROM A STUDENT



山内 瑚舞子  
医学部 保健衛生学科  
看護学専攻4年

## 恵まれた環境で、自ら考え学ぶことのできる看護職を目指す

本学の看護学専攻では、学内外の先生方から最先端の医療、看護を学ぶことができます。1・2年次では主に解剖学や病態学などの専門基礎科目を学びます。実際に診療にあたっている医師からの講義も多く、臨床で求められる知識を身につけることができます。3年次ではグループワークでの事例検討を行い、より実践的な学習を深めていきます。グループワークでは他の学生の意見に気づかされることも多く、とても有意義な学びが得られたと思います。3年次の後期には領域別実習があり、実際に患者さんを受け持たせていただきます。実習には緊張感も伴いますが、先生方のサポートが手厚く、充実した実習となりました。

本学は1学年の人数が比較的少なく、きめ細かな指導を受けることができます。看護学専攻では特に「考える力」を重視しており、先生方は思考過程まで丁寧にみてくださいます。このような環境で学び、成長できることに感謝しています。

## ■ 基礎看護学演習 ■

2年次通期で看護実践の基盤となる基礎看護技術を学びます。看護に共通する安全やコミュニケーション、観察などの基本的看護技術や、清潔、運動、睡眠などの日常生活援助技術、注射や採血などの治療・検査に伴う看護技術を3～4人のグループで演習します。失敗しながら試行錯誤を繰り返すが、上手くできたときの達成感や満足感は格別です。実習を着こなし、看護学生としての自覚と覚悟が生まれ、看護師になる夢に近づけます。9月には基礎看護学実習があり、受け持ち患者さんの看護を通して、学んだ成果を思う存分発揮できます。



## ■ 成人看護学演習 ■

3年次前期では、既習の病態生理および成人看護学の講義内容を関連づけて、成人期にあり、急性、慢性に経過する健康障害を有する人々への実践的看護技術、看護計画の展開を学びます。シミュレーション学習やグループ討議なども活用し、実際の臨床場面を想定した演習を行います。患者や医療者の体験、チーム医療を含め、段階的に知識・技術や思考能力を習得していきます。後期に続く本学附属病院を始め、多くの現場で実習をし、看護をすることの意味を見いだしていきます。



## ■ 卒業論文ゼミ ■

3年次から卒業論文に取り組む準備として研究法や文献検索の学習を始め、4年次の4月から本格的なゼミを開始します。興味ある分野を選択し、学生ごとに異なるテーマで看護研究に取り組み、12月にはその成果を卒論発表会で報告する、大学院生とも時間を共にし、ディスカッションを通して研究者の卵となります。



## 卒業生から

### MESSAGE FROM A SENIOR



東京医科歯科大学  
医学部附属病院  
看護部 看護師長  
野秋 蘭子  
医学部 保健衛生学科  
看護学専攻 1994年度卒業

## 卒業後も学び続けられる環境で、充実感をもって仕事に取り組む

本学附属病院では、学生から新人教育までを一貫したものと考え、サポートする体制が構築されています。学生と看護スタッフとの交流会を通じて現場の生の声を聞くことができ、人事交流の目的で看護スタッフが生徒に実技指導を行うこともあります。私が学生の時にはなかったアールームという実習場所もあり、学びやすい環境が整っています。

働き始めてからも研修体制がしっかりしており、学びながら働くことができる病院です。日々患者さんが元気に退院していく姿や、スタッフが成長していく姿をみて充実感を覚えながら働いています。

### 保健衛生学科の教育理念

本学科は、看護学、検査技術学の2つの専門領域における知識・技術を教授することにとどまらず、豊かな教養と高い倫理観に裏づけられた医療人としての感性を有し、学際的視野にたち、自ら問題を提起し、これを解決できる能力を備えた医療人を養成します。

### 検査技術学専攻の教育目標

先端医療技術の進展に対応しうる学際的視野と研究能力を有する資質の高い人材および医学、保健医療における検査技術の発展とその教育・指導に従事する人材を育成する。

## 知識・技術・実践から学問を極め これからの保健医療に貢献する

本専攻は国立大学検査系のパイオニアとして、検査技術学の教育・研究を通して、医学保健医療についての豊かな教養と幅広い専門知識を持つ医療人を育成することを目的としています。

専門的・学術的な視点に立った教育を行い、これからの保健医療に対する社会の要請に応えられる人材を養成しています。その特徴は、先端医療技術の進展に対応できる学際的視野と研究能力を修得し、医学・保健医療における検査技術の発展に寄与し、新たな世代の指導にあたる研究者・教育者を養成する点にあります。

全国の国立大学法人の先陣として、1989年に発足して以来、本学を巣立った卒業生が、研究・教育機関の指導者・研究者として、あるいは病院の臨床検査技師として活躍し、その将来を期待されています。



### ■ 教育内容 ■

- 1) 専門的かつ学術的な視点から教育を行い、臨床検査学の基礎から最先端に至る知識と技術を修得する。
- 2) 医療や医学研究に携わる者としての基本的な教養、倫理観、責任ある態度を身につける。
- 3) 新しい臨床検査技術の開発や関連分野における独創的研究の基礎となる、科学的な思考法を身につける。

1年次には主に教養部で全学共通科目を履修しますが、医療人としての高いモチベーションを持って勉学に励んでもらえるように、病院見学や一部の専門科目を学び始めます。2年次の講義は基礎医学、3年次の講義は臨床医学を主体に、学生が無理なく理解できるようカリキュラムに配慮しています。形態・病態制御学系、物質・代謝学系、機能調節・制御学系、病因・病態学系に大別された主要科目では、講義と実習を組み合わせた実践的なカリキュラムとしてあります。さらに、検査管理・社会医学系、総合分野、外国語の科目を加えて、広く臨床検査学について学びます。

2～4年次に多彩な選択科目、必修科目、自由科目を開講している点が本学の特徴で、大学院医歯学総合研究科、難治疾患研

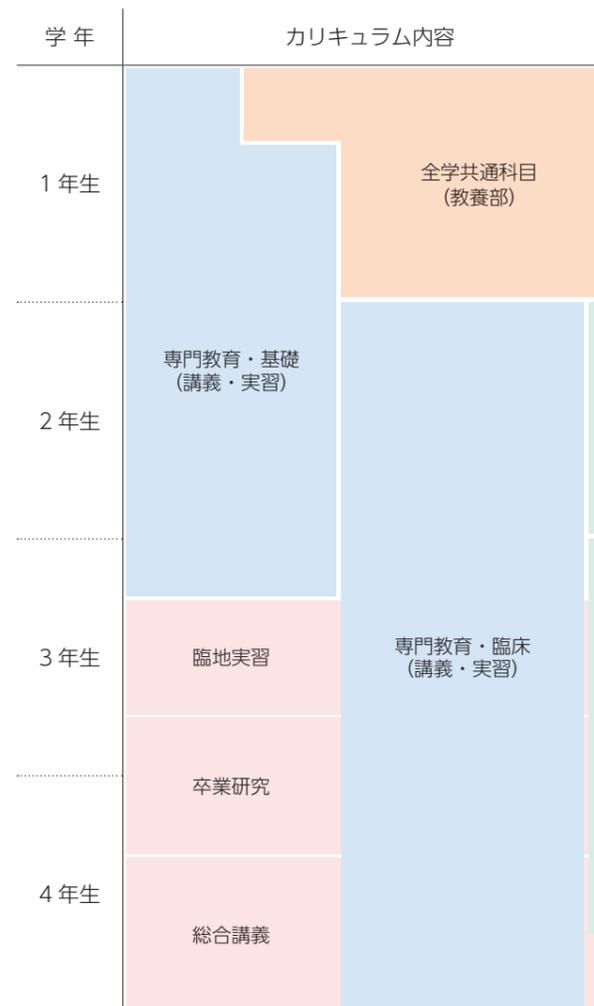
究所、生体材料工学研究所と連携した講義が組まれています。3年次には、臨地実習により実際の検査の現場を体験します。

4年次前期には、卒業研究として学内外の様々な関連分野で研究を実施し、研究発表や研究論文の作成を行い、各種の研究分野への学問的探究心を養います。卒業試験を兼ねる総合講義では、3年次までに学んだ臨床検査の知識を整理し、臨床検査学に関する最新の知識を臨床現場の専門家から学びます。

また、多様化する社会のニーズに対応した教育内容の充実にも力を入れており、様々な選択科目から学ぶことができます。グローバル社会の実現に向けた全学の取り組みの一環として、本専攻でも英語教育や海外留学の支援に力を入れています。海外大学との連携・短期研修も積極的に行っており、アメリカワシントン大学、フィンランドセイナヨキ応用科学大学、ラオス保健科学大学、ネパールトリブバン大学、タイチュラロンコーン大学、台北医学大学、ガーナ大学と交流があります。

- 卒業時に取得できる学位・資格
- 学位：学士(保健学)
- 資格：臨床検査技師国家試験受験資格

### ■ カリキュラム構成図



### ■ 授業科目

- 人体構造学講義Ⅰ・Ⅱ
- 人体構造学実習
- 病理検査学講義
- 病理検査学実習
- 血液検査学講義
- 血液検査学実習
- 生化学講義
- 生化学実習
- 分析化学検査学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 医用システム情報学講義Ⅰ・Ⅱ
- 医用システム情報学実習Ⅰ・Ⅱ
- 生理検査学講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 生理検査学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 病原体検査学講義Ⅰ・Ⅱ
- 病原体検査学実習Ⅰ・Ⅱ
- 免疫検査学講義
- 免疫検査学実習
- 遺伝子・染色体検査学講義
- 遺伝子検査学実習
- 検査管理学
- 医学情報処理演習Ⅰ・Ⅱ
- 公衆衛生学講義
- 公衆衛生学実習
- 医療概論・関係法規
- 臨床病態学Ⅰ・Ⅱ
- 先端医療技術論
- 総合講義
- 臨地実習
- 卒業研究
- Global Communication (I)・(II)
- 選択科目**
- 神経科学
- 遺伝学
- 生体医工学
- 分子生物学
- 心臓生理学
- 電子顕微鏡学
- アドバンスド生理機能検査学
- English for Health Care Sciences (I)・(II)
- 自由科目**
- 薬理学
- 短期海外研修 (A)・(B)・(C)・(D)
- Learning Medical English

## 分析化学検査学、血液検査学

尿中成分や血中成分の定性・定量検査の原理・特徴・方法を学びます。また、他の検体の成分分析や化学検査についても学びます。採血実習ではお互いに被験者になって基本的手技を修得します。



## 生理検査学

人体の機能について学び、様々な機器を駆使して実際に患者に接して行う検査について学びます。肺の機能を調べる方法、エコーを用いて肝臓、胆嚢、腎臓、膵臓、脾臓、甲状腺、乳腺などを検査する方法、心電図、エコーなどを用いて心臓や血管の形態や機能を検査する方法、脳波や筋電図を利用して神経や筋肉の機能を診断する方法を学びます。



## 病原体検査学

微生物学や感染症の診断・治療に用いられる微生物学的検査法を学びます。感染症の原因微生物を検体から検出・同定し、薬剤感受性試験を行い、診断治療に役立てる方法を学びます。



### 在学生から

### MESSAGE FROM A STUDENT

#### 専門性の高い教育とともに日々成長できる環境

本学は臨床検査学を学べる首都圏唯一の国立大学であり、様々な地域から学生が集まっています。一年次では国府台キャンパスで主に教養科目を学びます。教養総合講義をはじめとした全学共通科目で、他学科の学生と関わりながらチーム医療の基礎を学ぶことができます。二年次からは湯島キャンパスで専門科目を学び始めます。実際に教科書を執筆されているような先生方から専門性の高い授業を受けられることで理解が深まります。

また、学科全体で30数名と少人数であるため先生方との距離も近く、些細な疑問もすぐ質問のできる環境です。実習や卒業研究ではそれぞれの状況に応じた丁寧な指導を受けることができます。本学附属病院や難治疾患研究所などに勤める方々から最先端の医療、研究を伺える機会も多く、臨床検査技師にとどまらない活躍の可能性を感じられます。

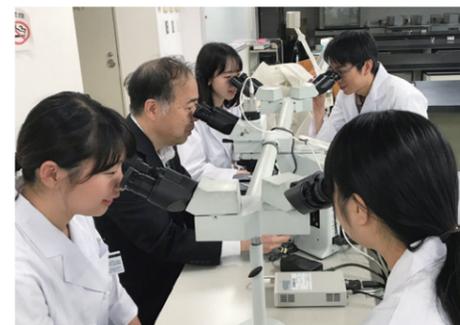
意欲的な学生に囲まれ、手厚い教育を受けられる本学で充実した毎日をご過ごしてみませんか。



大久保 瑠奈  
医学部 保健衛生学科  
検査技術学専攻 4年

## 病理検査学

主な疾病・病変による臓器の変化、その成因を理解し、診断のための病理学的検査法を学びます。病理診断、細胞診断のための標本を作成し、染色し、顕微鏡で観察します。



## 人体構造学

正常な人体と、それを構成する細胞から器官までの基本的な形態と構造を学びます。模型や実物の臓器・骨などを観察、スケッチしながら学びます。



## 免疫検査学

免疫機能の異常による病変、その検査の原理・特徴・方法を学びます。輸血検査について学びます。



## 医用システム情報学



検査診断機器の動作原理や性能が理解できるように、電気・電子回路、通信、情報科学などの基礎を学びます。機器の使用、安全管理に関する技術を修得します。

## 遺伝子検査学



遺伝子の構造や疾患との関連性、遺伝子解析、その検査法を学びます。ヒトの遺伝子情報の倫理的な扱い、組み替え遺伝子実験について学びます。

### 卒業生から

### MESSAGE FROM A SENIOR

#### 高度化した医療を支える存在に

臨床検査技師はチーム医療を担う一員として重要な役割を果たしています。一言で検査といっても、血清学的検査、形態検査、輸血検査、微生物検査、病理検査などの検体検査と、心電図、呼吸機能検査、脳波検査、エコー検査などの生理機能検査があり、内容は多岐にわたります。また近年検体採取等業務が新たに加わり、さらに業務範囲が拡大しています。

私たちに、検査を迅速かつ正確に行うための知識や技術のほか、検査結果を包括的に判断する力が求められています。本学科は少人数のため、第一線で活躍されている先生方のすぐ近くでこれらを学ぶことができます。アットホームな雰囲気の中、試験や実習を共に乗り越えるクラスメイト、困ったときすぐに相談できる先生や同じ医療の道を志す他学科の友人に囲まれ、充実した大学生活を送ることができました。

他職種と比べあまり馴染みのない職業だと思いますが、共に臨床検査を盛り上げる後輩が増えることを願っています。



東京大学医学部附属病院  
輸血部  
廣瀬 有香  
医学部 保健衛生学科  
検査技術学専攻  
2011年度卒業

## 歯学科の教育理念

豊かな人間性を有し、使命感をもって全人的な歯科医療を実践し、国民の健康維持・増進に寄与するとともに、国際的視野から歯科学・歯科医療の向上に貢献できる指導者を育成します。

## 歯学科の教育目標

1. 幅広い教養を身につけ、歯科医師としての豊かな人間性を培う。
2. 基本的な科学の原理と概念を理解し、生命科学の知識を修得する。
3. 科学的探究心をもち、自ら問題を発見し、解決する能力を身につける。
4. 全身を理解した上で、口腔領域の疾患の予防、診断、治療に関する知識と基本的技術を修得する。
5. 社会における歯科学・歯科医療の役割とその重要性を理解する。

## 伝統の裏打ちされた世界に誇る教育環境 世界の歯科医療をリードする人材を育てる

本学科は2018年に創立90周年をむかえた日本初の国立歯学教育機関としての伝統を誇りとし、常にさらなる発展を目指すことで、2019年QS\*世界大学ランキング歯学分野において、国内第1位、世界第10位の高評価を得ています。

本学科では6年間の教育を通じて、国内はもとより、国際的にも活躍できる指導者的歯科医師、歯科研究者の育成を目指します。

そのために、歯科医師養成機関のフロントランナーにふさわしく、経験豊かな教育スタッフ、充実した施設、多彩な教育コンテンツを用意し、歯学の基礎から臨床に至るまでの質の高い教育を提供しています。

一方、歯科学・医療においても国際化は進展しています。本学では世界に広がる協定校とのネットワークを生かし、海外研修など国際的感覚を身につける教育にも積極的に努めています。

\*英国の世界大学評価機関のクアアレリ・シモンズ (QS) による

## ■ 教育内容

今、歯科医療は変化しつつあります。

口腔内の環境が全身の疾患と関連しており、様々な疾患の予防、治療には口腔の衛生環境、機能を健全に保つことが大切であることがわかってきました。これからの歯科医師には、最先端の歯科医療を行う技術、知識の習得が求められるのはもちろんのこと、社会の高齢化、医療の複雑化が要求する多職種間の連携による包括的医療へ、口腔のスペシャリストとして参加できる知識、能力が要求されています。

本学歯学科は、将来、歯科学の臨床、研究において指導的医療人となる歯科医師、また、高度な社会的要請に対応できる歯科医師を養成するため、教育に対する様々な工夫を行っています。

1年次は教養部で全学共通科目を履修し自己の教養を深めるとともに、後期には湯島地区で学部教育「歯学入門」が実施され、歯科学と歯科医療の現状を認識し、医療人としての基本的態度を学びます。また、教養部は、医療系総合大学である特徴を生かし、学部学科を超えた友人を作る場でもあります。

2年次以降は湯島地区で教養教育、医歯学融合教育、歯科基礎・歯科臨床専門教育が行われます。専門科目の講義・実習は、表にあるようにモジュールという大きな枠組みの構成単位で履修するシステムです。3年次までは、解剖学、生理学、生化学、病理学など、人体の構造、機能、病態の基礎について学びます。4年次からはいよいよ歯科臨床の基礎の学びが始まります。

その間、「医歯学融合教育カリキュラム」で医学科の学生と共に学習するのも医療系総合大学である本学ならではの特色です(7, 8p参照)。

また、施設での体験学習を通して「人間観」を獲得し、さらに自己理解を深めることを目標とした「行動科学基礎」、口腔領域における疾病のケースシナリオを用いて、解剖学、生理学などの基礎医学の知識を疾病の病態解釈と理解に統合する「病態科学演習」、口腔に関する一つのテーマに沿って様々な側面からの知識の整理を行い、より深い理解を行う「課題統合セミナー」、将来の歯科医

師としての自覚を高めるために、実際の歯科臨床の現場を体験し、e-learningや動画・模型を用いたシミュレーション教育によって歯科臨床を体験する「臨床予備実習・臨床体験実習」、学年を越えた学生と一緒に興味を抱く歯学領域のテーマを自ら選び、理解を深める「学年混合選択セミナー」など、自主的学習態度、論理的思考能力を養い、科学的に問題解決の方法を習得するカリキュラムが組まれています。

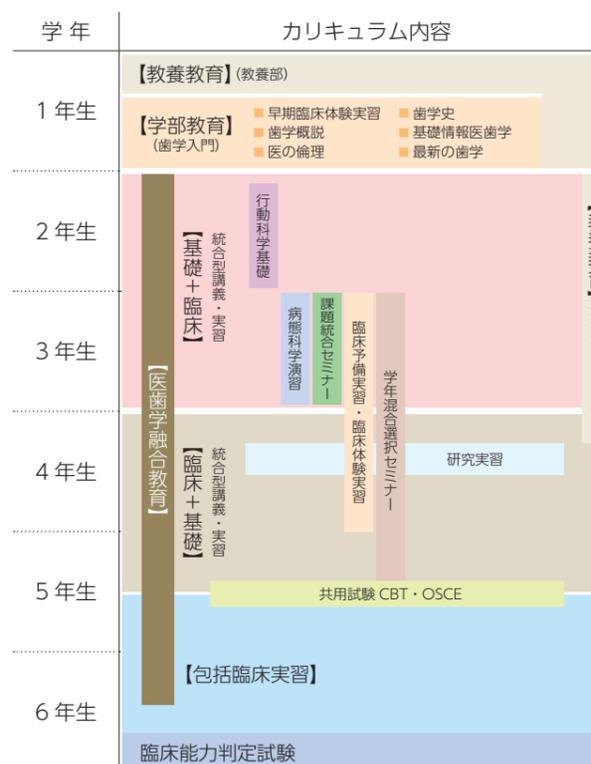
さらに、本学では海外の多くの大学との学術交流を通じて国際交流が活発に進められており、本学科も学生を積極的に海外研修に派遣し、国際性を養う制度が充実しています。

一方、研究者、研究マインドを持った歯科医師を育てるため、4年次には「研究実習」期間を設け、歯学科以外の研究機関を含めた基礎あるいは臨床研究分野において長期(2~3ヶ月間)の自由研究活動を行います。この期間を外国で研修することも可能です。その後研究を継続したい学生には、4年次修了後に本学大学院に進学して歯学博士号を取得後、復学して歯科医師となるDDS-PhDコースも選択できます。

そして5年前期終了時には、それまでに習った知識の総合的理解力を評価するコンピュータを用いた客観試験であるCBT(Computer Based Testing)、診療に参加する学生に必要な基本的診療技能・態度を評価する客観的臨床能力試験であるOSCE(Objective Structured Clinical Examination)が実施されます。

この試験に合格すると、5年次の秋から6年次には本学歯学部開設以来の伝統として、診療参加型の「包括臨床実習」が約1年6ヶ月行われます。学生には日本で最大の1日来院外来患者数を誇る歯学部附属病院から学生用患者が配当されます。学生は原則として患者の医療面接から、診断、処置、予後観察、メンテナンスに至る包括的全人的な治療の実践を経験します。患者治療を直接行う経験を通じて倫理観を醸成し、包括的歯科医療の理論と実際を実践体得し歯科医師としての自覚を高めていきます。

## ■ カリキュラム構成図



## ■ 授業科目

### ■ 全学共通科目 (教養部科目)

### ■ モジュール科目

- |               |                  |
|---------------|------------------|
| 歯学入門          | 臨床体験実習           |
| 人体の構造と機能      | コンピュータシミュレーション実習 |
| 医療と造形         | 歯周病              |
| 患者と医療者        | 咬合育成・発達          |
| 行動科学基礎        | 顎口腔医療            |
| 社会と環境         | 全身と歯科治療          |
| 生命の分子の基礎      | 発展歯科臨床           |
| 臨床歯学イントロダクション | こころの病と歯科臨床       |
| 感染と生体防御       | 臨床情報処理           |
| 臨床予備実習        | 包括臨床実習           |
| 病理            | デンタルエクスターンシップ    |
| 予防と健康管理       | 長寿口腔健康科学コース      |
| 生体と薬物         |                  |
| 歯科放射線基礎       |                  |
| 病態科学演習        |                  |
| 内科・小児・遺伝疾患    |                  |
| 外科系疾患         |                  |
| 課題統合セミナー      |                  |
| 学年混合選択セミナー    |                  |
| 歯科生体材料        |                  |
| 研究実習          |                  |
| 歯と根尖歯周組織の疾患   |                  |
| 咬合回復          |                  |

### ■ 医歯学融合教育科目

- 医歯学基盤教育
- グローバル・コミュニケーション
- 生命倫理
- 臨床統計
- 頭頸部基礎
- 頭頸部臨床
- 総合診療・地域医療
- 包括医療統合教育

# 歯学科は入学時から良き歯科医師になるため 様々なプログラムを行っています

## ■ 早期臨床体験実習

歯科医師としての自覚を早期に持つために、少人数のグループに分かれ、歯学部附属病院の診療科に配属されて、見学を通じて医療の実感を体感します。そこで疑問に思ったこと、興味を持ったことなど自ら課題を見つけて、調査・実験・討論等を通じてその課題を解決します。これらの過程と成果をクラス全員の前で発表するとともにレポートとしてまとめ、プレゼンテーションの基礎を身につけます。



## ■ 行動科学基礎

医療者の基本であるプロフェッショナリズムの核となる歯学生の人格の成長を主題としています。医療者という役割を持つ前に一人の人間として「自分を知り、互いに交わり、互いに成長のプロセスを歩む」ことを意識しながら、多くの人との出会いに挑戦します。

他者と関わる中で、自分自身の中に起こってくる考えや感情、その変化を意識し、言葉で表現し、必要に応じて相手に伝える。また、相手の話を聴き、確かめ、相手を理解する体験をし、最終的に人と互いに理解し合う、あるいは「人との出会い」の意味を体験的に理解することを目的としています。

写真は視覚障害の方々の日常を疑似体験し、白杖について教わっている学生の様子です。



## ■ 病態科学演習

問題発見・解決型思考力の向上を目指して、3年次に行われます。臨床症例の病態を、症状や検査データを元に推論し、主として2年次に学習した解剖学、生理学、生化学、病理学、細菌学、免疫学、薬理学などの基礎医学の知識を用いて論理的に説明できるスキルを身につけるトレーニングを行います。

自学自習を目的に、症例をもとにして少人数の学生がチューターの助言を得ながら、個々の問題解決に必要な事柄を学ぶTBL (Team-based learning) チュートリアルです。



## ■ 学年混合選択セミナー

3～5年次の学生と一緒に選択授業を受講します。広い視野を持ち、柔軟な考え方ができる人材を育成することを狙いとし、歯科とは一見関係が薄いと思われるテーマもあります。写真は「ロボットの世界」の授業で、学生が「手術ロボット」を操作して繊細な作業をしているところです。



## ■ 研究実習

4年次に学生毎に興味ある研究テーマを選択し、学内外の研究室で6月から7週間かけて実際の研究を行ない、その成果を発表します。希望すれば8～9月の夏休み期間も継続でき、また海外機関での実施も可能です。



## ■ 包括臨床実習

5年次の秋から6年次には本学歯学部開設以来の伝統として、診療参加型の「包括臨床実習」が約1年6ヵ月行われます。

歯学部附属病院の学生専用の治療室で、あらかじめ了解を得た患者さんを担当し、ベテランの教員の指導のもとで、患者の医療面接から、診断、処置、予後観察、メンテナンスに至る包括的・全人的な治療の実践を経験します。

また、様々な専門診療外来での実習も併せて行います。



金 暎勲  
東京医科歯科大学  
歯学部附属病院  
研修医1年目

### 「手」と「頭」、そして「こころ」を学ぶ。

多くの患者さんと接しながら、「頭の知識」、「手の技術」、そして何より「こころ」を学べるのは本学ならではのものだと思えます。

本学のカリキュラムにおける最大のポイントとも言えるこの実習は、学生の勉学のために協力をして下さる多くの患者さんのお陰でなされています。各専門科の先生方の指導の下、学生自らが治療方針、治療計画、治療そのものまで自主的に行い、一年を経て様々な症例を経験します。先生方の指導を受け、できることが一つ一つ増えていく過程は自分の成長を実感できる良い成長触媒になってくれました。

知識や手技のみならず、学生各自がおおよそ20名の患者さんと直接信頼関係を築き、患者さんの痛みや不安を深く理解し、その中で患者さんに対し歯科医師とはどのような存在であるべきかが確立していきます。この「こころ」こそが歯科医師として歩むこれからの人生の中で最も固い基盤になってくれる気がします。

「知」と「癒し」を兼ね備えた歯科医師を目指し精進しましょう。

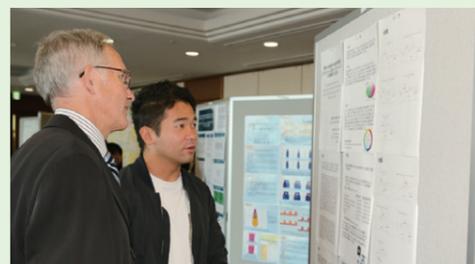
## 研究実習モジュールによる国際交流

歯学科4年次では、6月から約7週間、研究実習のモジュールを実施します。希望者は引き続いて夏休みも実習を行うことが可能で、実習期間は最長で3ヵ月近くとなります。実習開始前に、実習に必要な一連の講義を受けながら配属先を決定します。配属は、学内では歯学科の研究室に加え、基礎系研究室を中心に全学的に受け入れをお願いしています。学外配属コースもあり、海外の研究室での実施も可能です。秋には全学生がポスター形式で実習成果を発表し、その後も国内や海外において実習内容を発表する機会が用意されています。このように、研究実習は「科学的探究心をもち、自ら問題を発見し、解決する能力を身につける」という歯学科の教育目標に沿ったモジュールであり、早期研究体験や国際交流経験を提供しています。

学外配属コースについては、国内の大学への配属実績もあります。国内国外にかかわらず、原則は学生自身が配属先を探すこととなっていますが、教員による配属先の紹介の支援もあります。2013年度からは毎年海外への配属があり、これまでに英国、米国、ドイツ、カナダ、韓国の大学への配属実績があります。

実習成果の学外での発表については、5年次や6年次に国内学会や国際学会での学部生セッション、全国の歯学部学生による研究発表大会、タイのチュラロンコーン大学歯学部および米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校歯学部のResearch Dayへの参加実績があります。

2014～2017年度は、アジアの大学の歯学部生を招聘してResearch Dayを開催し、歯学科4年生の選抜学生と海外の歯学部生が、研究実習内容の英語口頭発表を競いました。海外歯学部の教員も審査員としてお招きし、学生も審査に加わりました。その後優秀発表の表彰が行われ、海外学生や海外歯学部教員と食事をしながら交流できる場も設けられました。歯学部ではこのような国際交流を今後も継続していく予定です。



## ヘルシンキ大学での研究実習を通して学んだこと

私は、本学・分子発生学分野の井関祥子教授のご紹介で、フィンランドのヘルシンキ大学のInstitute of BiotechnologyにあるIrma Thesleff教授の研究室に3ヵ月間、お世話になり、軟骨の成長に関する世界トップレベルの研究に携わる機会をいただきました。渡航するまで研究経験がなかったため不安も多かったのですが、派遣先の先生が丁寧に実験の手技について指導くださり、無事に実習を終えることができました。



初めての1人暮らしに戸惑うこともたくさんありましたが、同じ研究室の学生や先生方に助けていただきながら成果を出すことができました。また研究室には、研究者や学生が世界中から集まっていたので、様々な文化や考え方、ライフスタイルの違いに驚かされました。しかし、異国の地で多様な考え方に触れるという経験は、自身の視野を広げ世界へと目を向けるきっかけになりました。このように本学では、将来、国際的に活躍できる歯科医師・研究者を目指すためのプログラムに挑戦することができます。実りある貴重な経験をさせていただけたことに、心より感謝申し上げます。



菊田 美穂  
歯学部 歯学科5年

## University of California San Francisco での研究実習を終えて

私は、カリフォルニア大学サンフランシスコ校ザッカーバーグ総合病院のOrthopaedic Surgery Trauma CenterのDr.Ralph Marcucioの研究室へ留学させていただきました。研究内容は、マクロファージの分化および機能の主要な調節因子であるCSF1を不活性化するPLX3397という薬が、破骨細胞の活動に与える影響を調べるといったものでした。

私は海外に長期滞在したことがなく、研究に従事したことなかったので、すべてが目新しく、学術的なことはもちろん、人とのコミュニケーションやアメリカの文化など、日々学びの連続でした。大学関係の人々からは、研究のノウハウをはじめ、研究でどのように社会に貢献できるかなど、勉強することの魅力について学びました。大学から出ると、多様な人種の一人一人がまったく異なる背景を持ってその場において、自分と違う人の存在を認め合って共存していて、彼らの姿勢からは多くのことを学びました。このような素晴らしいプログラムに参加できたことを嬉しく思い、本実習で支援いただいた全ての方々に心より感謝しております。また、この経験を後輩に伝えることで、私が得たものを還元できたらと思っています。



角南 明歩  
歯学部 歯学科5年

## 姉妹校との双方向の学生交流

歯学部は、世界24か国・地域の52大学歯学部と学術交流協定を締結しており、学生交流活動も活発です。特に、米国のボストン大学、オーストラリアのシドニー大学やメルボルン大学、タイのチュラロンコーン大学やシーナカリンウィロート大学、インドネシアのインドネシア大学、ベトナムのホーチミン医科薬科大学などは、毎年、双方向の学生交流を行っています。歯科学学生は、研究実習以外にも春・夏季休業中に、国際研修プログラムに参加する機会があります。

派遣プログラムでは、本学学生を約2週間海外に派遣し、病院・診療所の見学、大学での講義・実習への参加、地域の保健医療活動の見学などの研修プログラムを、現地の教員の協力を得て実施しています。土日には、現地の学生と交流する機会もあり、一緒に食事や観光をして仲良くなり、友達となってネットワークを広げています。

受入プログラムでは、交流相手大学の海外学生を受け入れ、本学の教員の指導のもと、基礎・臨床分野での研究体験、病院見学、講義・実習への参加、医療関連企業等の見学など、実践的な内容の歯科研修プログラムを提供しています。また、派遣プログラムに参加した学生が中心になって、海外学生の日本での生活のサポートや、観光案内などを積極的に行っています。



## 世界で活躍する高い視座と広い視野を持った歯科医師への第一歩

私は3年生の春休みにベトナムのホーチミン医科薬科大学歯学部での短期海外歯科研修プログラムに参加しました。ベトナムについて全く知らない状態だったからこそ、興味をそそられ応募してみた研修でしたが、現地の大学病院やクリニックの見学を中心に貴重な体験をすることができました。

10日間の研修中は、市内には地下鉄も鉄道もなく街中はオートバイで溢れかえっているという風景を見ながら大学に通い、病院では1つのベッドに2人以上が寝ている光景を目の当たりにしました。日本では当たり前だと思われている環境が、現地では通用しないという経験ができることが本研修の醍醐味です。病院見学の他には、現地の学生とベトナム料理を食べたり、観光地を回ったりと、文化交流も楽しみました。このように、日本にいて漫然と過ごしているだけでは決して得ることのできない経験と幅広い視野を得ることができました。

世界から認められている東京医科歯科大学の歯学科だからこそ、海外研修に参加できる機会は充実していて、学部生の段階から海外に目を向けることができる環境は、本当に恵まれているものだと思います。



秦 健太  
歯学部 歯学科4年

## 世界で活躍する歯科医療者になるために —アメリカ合衆国・タフツ大学—

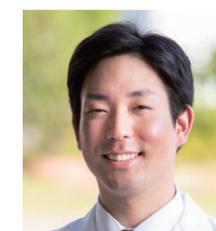
東京医科歯科大学歯学部歯学科の大きな魅力の一つが世界各国に多くの姉妹校があることです。そのため、私の学年では半数近くの学生が海外研修に参加しています。日本から比較的近いアジア圏だけでなく、欧米の著名な大学との間にも毎年交流があるのです。

私は5年生の冬にアメリカ合衆国にあるタフツ大学歯学部への研修に参加しました。同大学は周囲にハーバード大学やボストン大学等の歯学部がある中で最も古い歴史を持ち、歯周病学の権威であるアーヴィング・グリックマン先生が教鞭をふるった名門校です。研修中は各診療科や一般開業医のクリニックを見学させていただいた上、著名な先生方の講義を拝聴することができました。



同国には国民を対象とした公的医療保険制度がないため、多くの場合歯科診療は私費診療で行われています。そのため、診療形態も日本のそれとは異なる点が多く、米国で歯科医師として働くことを考えている私としては非常に良い経験となりました。

これまでの6年間で私は3度の海外研修に参加しました。こうした恵まれた機会があるのは、QS世界大学ランキング歯学分野で世界10位、国内1位という圧倒的な評価を受ける本学ならではの強みなのです。



青井 康徳  
歯学部 歯学科6年

# 講義・実習風景

## ■ 人体の構造と機能 ■

歯科医師は人の「病態」を「正常」にもどすために治療を行います。「病態」がわかるためには「正常」がわからなければいけません。人体の構造と機能では、「構造」と「働き」についての「正常」な状態を学びます。



人体の構造について学ぶのが解剖学です。解剖学実習では、歯科医師と関わり深い頭頸部だけでなく、全身の構造について学びます。また、歯学部独自の科目として、「歯の解剖学」があり、直接の治療の対象となる乳歯、永久歯の形態、構造を学びます(写真左)。



人体の働きについて学ぶのが生理学です。生理学実習では、講義で学んだ神経の基本的な働きや、反射、咀嚼運動、味覚などについて、動物や人を対象に実験を行い、実際に自分の目でそのメカニズムを確かめます(写真右)。また、自ら実験を行うということは将来研究者を育成するという目的も持っています。

## ■ 歯科生体材料 ■

歯科医療では金属、プラスチック、セラミック等、様々な材料が使われています。口腔内は常に唾液で濡れています。歯科材料が水分を吸って性質が変わったり、何かが唾液に溶け出してアレルギーなどの病気の原因になってはいけません。また上の歯と下の歯が常に噛み合っているため、硬い材料でないとすぐに壊れてしましますが、硬すぎると本当の歯の方が壊れてしまいます。また、あまりに硬いといろいろな形に加工することができません。さらに、これらの材料の小さな削り屑が排水に混じったり、空気中に飛散することで周りの環境に何らかの影響をおよぼすことも考えなければいけません。この実習では歯科医療で使用される様々な材料の物理化学的特性や、生体や環境への影響、加工方法について学びます。



## ■ 咬合回復 ■

歯周病などが原因で歯をなくした患者さんには、入れ歯やブリッジ、インプラント等の方法でなくした歯を補って口腔機能と形態の回復を行います。このような学問を補綴(ほてつ)学と呼んでいます。写真は全ての歯をなくした患者さんにいれる入れ歯(全部床義歯)を作成する実習の様子です。



## ■ 咬合育成・発達 ■

子どもから大人への成長発育にともなって頭蓋、顎顔面は形態が変化します。また、歯は乳歯から永久歯に生え変わります。この時期には様々な原因で咬合異常(歯並びの異常)が生じます。咬合異常は審美的な問題だけでなく、機能的な問題も引き起こします。小児歯科学や歯科矯正学ではその予防、診断、治療に必要な知識と技術を学びます。写真は歯科矯正学の実習の様子です。



## ■ 歯と根尖歯周組織の疾患 ■

歯科医師にとってう蝕(虫歯)の治療はもっとも重要な仕事です。う蝕が小さなうちは削ってプラスチックや金属で埋めて修復します(保存修復学)。この場合、虫歯になっている部分だけを正確に削り取る技術が必要です。う蝕が大きくなると、歯の神経が炎症を起こしたり細菌感染がおこって痛みが生じます。この場合は神経の治療が必要になります(歯内療法学)。神経の治療は骨に埋まった歯根の先端部まで行わなければならないので直接目で確かめることができないので技術が要求されます。このようなう蝕の治療も神経の治療も全て患者さんの口腔内で行われます。そのため、患者さんを模したマネキンを使って、実際の口腔内とほぼ同じ環境で治療のトレーニングを行います。



## 在学生から

MESSAGE FROM A STUDENT



荒川 玲美  
歯学部 歯学科6年

## 様々な方面からアプローチされた多様なプログラム

本学には歯学部附属病院があります。約20以上の診療科が存在し、各学年での病院見学や、5年次後期から実際に患者さんの治療をしていく中で、幅広い選択肢から自分の興味のある分野を見つけることができます。そこで私が興味を持ったのは高齢者歯科学分野です。今や日本は超高齢社会です。ご高齢の方の診療機会が増え、また、病院や診療所へ足を運ぶことが難しい患者さんにも直面します。歯科医師の役割は病院や診療所だけでなく、地域包括ケアシステムの一員としての働きが求められる中、こうした、社会のニーズに合った授業が展開されています。医学部生との合同授業による老年医学や、摂食・嚥下分野による訪問歯科への同行、健康長寿をかかげた授業、多職種連携を掲げた医学部や口腔衛生学科との連携教育などが挙げられます。興味をかきたてられたのも、先生方のきめ細かなご指導、様々な方面からアプローチされた多様なプログラムのためだと思います。

## 卒業生から

MESSAGE FROM A SENIOR



東京医科歯科大学大学院  
医学総合研究科  
高齢者歯科学分野 助教  
金澤 学  
歯学部 歯学科  
2001年度卒業

## 世界の歯科医療をリードしよう！

私は現在、高齢者歯科学分野に所属し、日本で最多の患者数を誇る歯学部附属病院にて補綴歯科という被せ物や入れ歯を専門とする外来で診療を行いながら、研究と教育に携わっています。超高齢社会を迎えた日本において、口腔から全身の健康を改善するためには何をしたら良いのか、どのような仕組みを考えれば良いのか、そのようなことを考えながら臨床研究を行なっています。

皆さんがご存知の通り、日本は世界で最も高齢化率が高く、それは2060年まで続くと言われています。超高齢社会における歯科医療サービスに関して、トップランナーとして走り続ける日本を世界中が目撃しています。そのような中、本学では欧米やアジアなど様々な国から依頼を受け講演や実習を行ない、また、様々な国の医療関係者が本学の病院や医療システムを学びにきています。超高齢社会に対する優れた医療システム作りには貢献できるのは日本ならではの、そして、世界の歯科医療をリードする優れた臨床研究が行えることは本学ならではの醍醐味です。

## 口腔保健学科 《 口腔保健衛生学専攻 》

### 口腔保健学科の教育理念

温かく豊かな人間性を有し、口腔保健・福祉の立場から、人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識および技術をもって広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を育成します。

### 口腔保健衛生学専攻の教育目標

1. 生命の尊厳と基本的な科学原理・概念を理解し、生命科学の知識を修得する。
2. 基本的人権を尊重し、相手の心情と行動を理解して人と接する能力を身につける。
3. 社会における口腔保健・福祉の果たす役割とその重要性を理解する。
4. 心身の様々な状態を理解し、口腔保健に関する知識および技術を修得する。
5. 科学的探究心と問題解決能力を身につけ、生涯学習への意欲を培う。
6. 保健・医療・福祉等の関連職種と連携して活動できる能力を身につける。
7. 口腔保健の立場から国際貢献ができる能力を修得する。

## 医療と福祉の両面から口腔保健を学び 人々の健やかな人生の実現をサポートする

本専攻は、保健医療分野はもとより福祉分野とも密接な連携を図るとともに、口腔保健衛生学に関する総合的な科学研究を行い、その成果を広く社会に還元していく学際的特徴を持っています。

本専攻が目指しているのは、高度な専門知識と技術の修得だけではなく、口腔の健康づくりを通じて、人々の健康で幸せな生活をサポートすることができる人材の育成です。

豊かな人間性と科学的な思考力、高い倫理観を持って知識と技術を活かし、医療・保健・福祉など様々な場で保健活動が展開できる能力を持つ歯科保健医療従事者の教育と、口腔保健衛生分野の未来を担う研究者の育成を行います。



### ■ 教育内容 ■

本専攻では、4年間で歯科衛生学を中心に保健・医療・福祉の分野にわたる総合的な学習を行います。

1年次は主に教養科目(人文・社会科学、自然科学、外国語、保健体育など)を他学科の学生とともに学ぶほか、専門基礎科目や臨床体験実習などの科目を履修します。

2年次から3年次には、歯科衛生学・口腔保健衛生学の専門基礎科目及び専門科目の講義、また口腔疾患予防や健康教育、臨床口腔保健衛生に関する理論と実際を理解するための講義と基礎実習を行います。社会福祉関連科目も履修するほか、対人職には欠かせないコミュニケーション能力を身につけるための演習もあります。

### ■ カリキュラム構成図

学年	カリキュラム内容
1年生	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>【全学共通科目】</b> (教養部)</li> <li><b>【専門基礎分野】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>人体の構造と機能及び疾病</li> <li>社会保障</li> <li>公衆衛生学</li> </ul> </li> <li><b>【専門分野】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>口腔保健と専門職</li> <li>歯科衛生学総論</li> <li>メディア情報学</li> <li>臨床体験実習</li> </ul> </li> </ul>
2年生	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>【専門基礎分野】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>科学英語</li> <li>人体の構造と機能及び疾病</li> <li>歯・口腔の構造と機能</li> <li>疾病の成り立ちと回復過程の促進</li> <li>社会保障</li> <li>保健医療サービス</li> </ul> </li> <li><b>【専門分野】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>口腔疾患予防学</li> <li>臨床歯科医学</li> <li>臨床体験実習</li> <li>食生活教育</li> <li>生体材料学</li> <li>臨床検査</li> <li>臨床医学</li> <li>チーム医療の基礎・実践</li> <li>口腔機能管理実習</li> <li>高齢者歯科学</li> <li>障害者歯科学</li> <li>歯科診療補助論</li> <li>臨床口腔保健衛生実習</li> <li>健康教育の基礎</li> <li>健康教育の企画と実践</li> <li>歯科衛生臨床実習</li> <li>歯科衛生臨床実習</li> <li>臨床口腔保健応用学</li> </ul> </li> <li><b>【統合分野】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>口腔保健と国際協力</li> <li>口腔保健衛生学演習</li> </ul> </li> <li><b>【社会福祉選科科目】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童・家庭福祉</li> <li>高齢者福祉</li> <li>現代社会と福祉</li> <li>福祉運営管理</li> <li>就労支援サービス</li> <li>公的扶助</li> <li>権利擁護</li> <li>社会福祉行政</li> <li>福祉計画</li> </ul> </li> </ul>
3年生	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>【口腔保健衛生選択科目】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>先端歯科医療学</li> <li>歯科衛生臨床・臨床応用論</li> <li>歯科衛生研究</li> <li>口腔保健衛生エクスターンシップ</li> <li>口腔保健マネジメント論</li> <li>保健行動科学</li> <li>地域口腔保健論</li> <li>在宅訪問・災害口腔保健医療</li> </ul> </li> <li><b>【社会福祉選科科目】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>障害児・者福祉</li> <li>地域福祉</li> <li>公的扶助</li> <li>コミュニケーション</li> <li>介護福祉</li> <li>高齢者福祉</li> <li>現代社会と福祉</li> <li>ソーシャルワーク</li> <li>権利擁護</li> <li>社会福祉行政</li> <li>福祉計画</li> <li>司法福祉</li> <li>福祉運営管理</li> <li>就労支援サービス</li> <li>相談援助演習</li> <li>相談援助実習指導</li> <li>相談援助実習</li> </ul> </li> </ul>
4年生	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>【専門分野】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>口腔保健と専門職</li> <li>歯科衛生学総論</li> <li>メディア情報学</li> <li>臨床体験実習</li> <li>口腔疾患予防学</li> <li>臨床歯科医学</li> <li>食生活教育</li> <li>生体材料学</li> <li>臨床検査</li> <li>臨床医学</li> <li>チーム医療の基礎・実践</li> <li>口腔機能管理実習</li> <li>高齢者歯科学</li> <li>障害者歯科学</li> <li>歯科診療補助論</li> <li>臨床口腔保健衛生実習</li> <li>健康教育の基礎</li> <li>健康教育の企画と実践</li> <li>歯科衛生臨床実習</li> <li>健康教育の基礎</li> <li>健康教育の企画と実践</li> <li>歯科衛生臨床実習</li> <li>育成系・維持系・回復系診療科</li> <li>総合診療科・スペシャルケア外来(高齢者・障害者・息ざわやか)・口腔ケア外来・中央診療施設</li> </ul> </li> <li><b>【社会福祉選科科目】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童・家庭福祉</li> <li>障害児・者福祉</li> <li>地域福祉</li> <li>公的扶助</li> <li>コミュニケーション</li> <li>介護福祉</li> <li>高齢者福祉</li> <li>現代社会と福祉</li> <li>ソーシャルワーク</li> <li>権利擁護</li> <li>社会福祉行政</li> <li>福祉計画</li> <li>司法福祉</li> <li>福祉運営管理</li> <li>就労支援サービス</li> <li>相談援助演習</li> <li>相談援助実習指導</li> <li>相談援助実習</li> </ul> </li> </ul>

### ■ 授業科目

**■ 全学共通科目**  
英語  
細胞生物学基礎  
化学基礎  
人体の生物学基礎  
統計学  
情報科学  
スポーツ・健康科学  
フィットネスマネージメント  
教養総合講座  
共通領域セミナー科目  
人文科学・社会科学  
科学基礎実験または科学基礎演習  
ドイツ語・フランス語・中国語(選択)

歯科衛生臨床実習  
保育園・幼稚園・小学校・中学校  
保健センター・障害者センター・高齢者センター・総合病院・企業内診療所・歯科関連企業  
臨床口腔保健応用学

**■ 統合分野**  
歯科衛生過程  
社会調査の基礎  
卒業研究  
相談援助の基盤と専門職  
口腔保健と国際協力  
歯科衛生学演習

**■ 専門基礎分野**  
人体の構造と機能及び疾病  
社会保障  
公衆衛生学  
科学英語  
歯・口腔の構造と機能  
疾病の成り立ちと回復過程の促進  
保健医療サービス

**■ 口腔保健衛生選択科目**  
先端歯科医療学  
歯科衛生臨床・臨床応用論  
歯科衛生研究  
口腔保健衛生エクスターンシップ  
口腔保健マネジメント論  
保健行動科学  
地域口腔保健論  
在宅訪問・災害口腔保健医療

**■ 専門分野**  
口腔保健と専門職  
歯科衛生学総論  
メディア情報学  
臨床体験実習  
口腔疾患予防学  
臨床歯科医学  
食生活教育  
生体材料学  
臨床検査  
臨床医学  
チーム医療の基礎・実践  
口腔機能管理実習  
高齢者歯科学  
障害者歯科学  
歯科診療補助論  
臨床口腔保健衛生実習  
健康教育の基礎  
健康教育の企画と実践  
歯科衛生臨床実習

**■ 社会福祉選科科目**  
児童・家庭福祉  
障害児・者福祉  
地域福祉  
公的扶助  
コミュニケーション  
介護福祉  
高齢者福祉  
現代社会と福祉  
ソーシャルワーク  
権利擁護  
社会福祉行政  
福祉計画  
司法福祉  
福祉運営管理  
就労支援サービス  
相談援助演習  
相談援助実習指導  
相談援助実習

※上記は現行のカリキュラム、授業科目であり、2020年度入学者から、口腔保健衛生学専攻において、社会福祉士国家試験受験資格を取得するための選択科目を廃止いたします。詳細はP.36をご確認ください。

# 講義・実習風景

## 基礎歯学系授業

1、2年次には、基礎系歯科医学の講義と実習を通して、人体、特に歯と口腔の解剖学的構造とその生理学的機能及び代謝のしくみについて学ぶとともに、病理学的変化とその成り立ち、微生物の病原性と生体の防御反応、薬剤の作用と疾病からの回復過程について学びます。



## PBL チュートリアル

問題発見・解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養うもので、少人数グループでの授業。シナリオから気になる点や問題点を抽出して、グループごとに学習課題を決め、自学自習した後、発表・討議を行って、内容を確認します。工学専攻や歯学科・医学科学生と合同で行うこともあります。グループにはチューターと呼ばれる教員がいますが、見守り役であり講義をすることはありません。



## 健康教育の企画と実践

健康づくりに欠かせない知識や技能を身につけ、対象とする方々が行動できるようサポートするための健康教育の実践力を養います。園児、小・中学生や高齢者が対象の健康教育を企画立案し、教材を作成して実践・評価します。



## 口腔疾患予防学実習

2年次は模型実習、マネキン実習で、口腔疾患予防に必要な基礎的なスキルを身につけます。さらに、学生同士の相互実習を行い、患者対応の基礎訓練を行います。情報収集し、整理・統合した上で、介入計画を立てて実践する流れを身につけます。3年次後期から4年通年の歯学部附属病院における臨床実習を通して、実践力を養成します。



## 臨床実習

歯学部附属病院では、歯科衛生士及び歯科医師の指導を受けて、患者さんへの指導や歯科予防処置などを行います。口腔内の観察、検査、医療面接などから、必要な情報を収集して患者さんにとって必要な介入ができるように計画し、実践・評価します。歯磨きのことばかりではなく、生活習慣や食生活、禁煙に関する指導など幅広い内容を取り上げます。情報交換のため、ケースに関するプレゼンテーションを行い、互いに意見交換して、その精度を高めていきます。



## 社会福祉関連演習

医療現場でも、福祉の専門的な知識や技術を持って障害のあることや環境上の理由によって、日常生活に課題を抱えている人々からの福祉に関する相談を受けて、助言や指導、必要な時はその人の関係者(家族・医師など)との連絡や調整などの援助を行うことがあります。2年次から行われる社会福祉関連演習では高度化・多様化した福祉医療ニーズに対応でき、生活を支えるための高い実践力を養います。



2020年度以降の歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻入学希望の皆様へ  
本学口腔保健衛生学専攻では、学部における歯科衛生学教育の充実を図るため、現行の社会福祉士国家試験受験資格を取得するための科目を廃止いたします。  
このため、2020年度入学者からは、口腔保健衛生学専攻において、社会福祉士国家試験受験資格を取得することができなくなりますので、ご注意ください。

## 在学生から

## MESSAGE FROM A STUDENT



山中 美優  
歯学部 口腔保健学科  
口腔保健衛生学専攻 4年

### レベルの高い知識と技術を学べ、グローバルな視点で。

口腔保健衛生学専攻では、知識と技術を修練するため、1年生から歯科医療機関を見学実習し、2年生からは本格的に基礎実習などを行います。3年生後期からは、臨床・臨地実習として本学附属病院での処置、医学部附属病院さらには外部の様々な医療機関において実習をします。4年生では、臨床・臨地実習と平行して卒業研究を行います。自ら研究のテーマを考え、実験を重ね、考察を繰り返していきます。多職種連携については、医療総合大学の強みを生かし、医学科や歯学科をはじめとする他学科との合同実習・演習があります。

さらに、海外研修奨励制度や短期研修など、海外の大学との交流もあり、積極的にグローバルな視野を備えていくことが出来ます。

医科歯科大学なら、幅広い知識と正確な技術、多職種連携を担う専門職としての役割、またグローバルな視野を備えた歯科衛生士を目指すことが可能です。

## 卒業生から

## MESSAGE FROM A SENIOR



東京医科歯科大学  
大学院歯学総合研究科  
口腔疾患予防学分野 助教  
戸田 花奈子  
歯学部 口腔保健学科  
口腔保健衛生学専攻  
2013年度卒業

### 歯科衛生士の活躍を支えてくれる、充実した教育

私は入学後、教育・臨床・研究それぞれの分野で活躍する先生の姿に憧れて大学教員の道を志すようになりました。口腔保健学科卒業後は本学大学院修士課程および博士課程を修了し、現在はむし歯や歯周病の効果的な予防システムに関する研究をしています。

大学では歯学部附属病院で各専門外来での実践的な指導を受け、実際に患者さんと接して処置を行う充実した日々を過ごしました。病院の実習で得た経験のおかげで歯科衛生士免許を取得して、早い段階から患者さんを担当させていただきました。さらに医療系総合大学ならではの实習で印象に残っているのは、医学科と歯学科の連携実習です。他分野の学生と意見交換した経験は、患者さんに対する多角的な視点を持つよう意識するきっかけになりました。本学ならではのカリキュラムは学生の自由なキャリアデザインを促し、卒業生は様々な分野で活躍しています。口腔の健康を支えることで社会に貢献する、未来の歯科衛生士をお待ちしています。

## 口腔保健学科 《 口腔保健工学専攻 》

### 口腔保健学科の教育理念

温かく豊かな人間性を有し、口腔保健・福祉の立場から、人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識および技術をもって広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を育成します。

### 口腔保健工学専攻の教育目標

1. 生命の尊厳と基本的な科学原理・概念を理解し、生命科学の知識を修得する。
2. 深い人間理解と医療人としての高い倫理観、豊かな感性を身につける。
3. 社会における口腔保健・福祉の果たす役割とその重要性を理解する。
4. QOLの向上に関わるものづくりの専門家として、自らの高度な知識と技術を社会に還元する意欲を養う。
5. 科学的探究心と問題解決能力を身につけ、生涯学習への意欲を培う。
6. 保健・医療・福祉等の関連職種と連携して活動できる能力を身につける。
7. 口腔保健の立場から国際貢献ができる能力を修得する。

## 造形と製作加工の技術を匠の技として発展させ、 人々の健康に寄与する技術者、研究者、教育者を育てる

2011年4月に新設された口腔保健工学専攻は口腔の健康の維持・増進・回復を図り人々が快適な社会生活を営めるように医療専門分野はもとより工学分野とも相互に密接な連携を図りつつ総合的かつ科学的研究を行いその成果を広く社会に還元する極めて学際的なコースです。

目指すのは、口腔から全身の健康に関する十分な知識と高度な専門的技術を有する歯科医学・歯科医療の一翼を担う歯科医療技術者です。

卒業後には、口腔保健工学を発展させていくことのできる技術者、研究者、教育者として国内はもとより国際社会においても、活躍することが期待されています。



### ■ 教育内容 ■

本専攻ではアクティブラーニングの導入や先端技術科目の充実、研究マインドの育成強化、グローバル教育の充実、多職種連携など、4年制歯科技工士教育機関として世界のトップリーダーに相応しい先端技術教育の充実をはかった新カリキュラムが2019年度より始まりました。

1年次は教養部で他学科の学生とともに全学共通科目を履修するとともに、週1回湯島地区で基礎分野、専門基礎分野の科目を履修します。「口腔保健工学概論」では口腔保健衛生学専攻の学生と一緒に小グループ学習を行い、口腔保健専門職の基礎を学びます。また、「造形美術概論実習」と「加工技術基礎」では口腔保健工学の基本的な技術力を培います。

2年次以降は湯島地区で基礎分野、専門基礎分野、専門分野などの科目を学びます。2年次の「口腔医学の基礎」[全身疾患と治療の基礎]では口腔と全身の構造や生命現象のしくみについて学びます。「口腔保健理工学」では歯科技工で用いる材料器械の原理や扱い方について学び、さまざまな材料の物性の測定を行います。「ヘルスプロモーション」ではグループ演習と講義を併用しながら口腔保健の専門家としての役割とヘルスプロモーションとその活動プロセスについて学びます。「全部床義歯工学」、「部分床義歯工学」、「歯冠修復工学」などでは、歯科補綴装置の製作方法を学び、実際に製作します。「グローバル口腔保健工学」で

は、日本の歯科技工、歯科医療の現況、日本と海外の歯科医療の違いについて日本語で調べ、課題発表します。

3年次はより専門的な科目が多くなり、「審美修復工学」では最新の歯科用CAD/CAMシステムを用いて補綴装置の製作理論を学び、製作します。「CAD/CAMシステム工学実習」では1人1台のCADソフトを用いて実習を行います。「インプラント工学実習」では、歯科用インプラントの埋入から補綴装置の製作を行い、「顎補綴工学」では顎口腔、顔面の欠損に用いる治療用装置の構造と製作法を学びます。また、「グローバル口腔保健工学実習」では、英語のプレゼンテーション作成を行い、台湾の大学で発表し、歯の彫刻(カービング)コンテストに参加し、国際交流を行います(40p参照)。日本の歯科医療を理解するとともに国際社会における歯科医療を知り、国際社会において貢献できる力を養います。

4年次には今まで学んだことをもとに、歯学部附属病院の多くの専門外来に来院される患者さんの補綴装置を製作する「再建工学包括臨床実習」を行います。通常の補綴装置から顎補綴装置まで学ぶ機会があり、充実した体験ができます。卒業に向けた集大成として、自ら研究テーマを立案し、「卒業研究」を実施するとともに、今まで学んだ技術を基に高度で先進的な技法を用いる「卒業製作」を行います。

### ■ カリキュラム構成図

学年	カリキュラム内容
1年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>【全学共通科目】(教養部)</li> </ul>
2年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>【基礎分野】</li> <li>【専門基礎分野】</li> <li>【専門分野】</li> </ul>
3年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>【専門基礎分野】</li> <li>【専門分野】</li> </ul>
4年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>【統合分野】</li> </ul>

### ■ 授業科目

- 全学共通科目
  - 英語
  - 細胞生物学基礎
  - 化学基礎
  - 人体の生物学基礎
  - 統計学
  - 情報科学
  - スポーツ・健康科学
  - フィットネスマネジメント
  - 教養総合講座
  - 共通領域セミナー科目
  - 人文科学・社会科学
  - 科学基礎実験または科学基礎演習
  - ドイツ語・フランス語・中国語(選択)
- 基礎分野
  - 口腔保健工学概論
  - 科学英語
  - メディア情報学基礎
  - コミュニケーション学
  - 造形美術概論実習
  - ヘルスプロモーション
  - グローバル口腔保健工学
  - グローバル口腔保健工学実習
- 専門基礎分野
  - 早期臨床体験実習
  - 歯科技工士と法律
  - 感染予防
  - 口腔保健工学管理学
  - う蝕と歯周病
  - 口腔外科学
  - 高齢者歯科学
  - 人体の構造と機能
- 専門分野
  - 口腔医学の基礎
  - 全身疾患と治療の基礎
  - 歯の形態基礎実習
  - 歯の形態実習
  - 咬合学
  - 臨床咬合学
  - 画像解析学
  - 加工技術基礎
  - 口腔保健理工学・実習
  - 精密鑄造学実習
  - プロセスデバイス工学
  - 全部床義歯工学・実習
  - 部分床義歯工学・実習
  - 顎補綴工学・実習
  - 顔面補綴工学実習
  - 臨床義歯管理工学
  - スポーツ歯科学
  - オーラルアプライアンス工学
  - 歯冠修復工学・基礎実習・応用実習
  - 審美修復工学・実習
  - CAD/CAMシステム工学実習・演習
  - インプラント工学実習
  - 小児歯科学・実習
  - 矯正歯科学
  - 再建工学包括臨床実習
  - 統合基礎実習・応用実習
- 統合分野
  - 医療倫理
  - 卒業研究
  - 卒業製作
  - 口腔保健工学エクスターンシップ

# 講義・実習風景

## ■ 口腔保健理工学実習 ■

口腔保健理工学実習では、圧延・旋盤加工などをとおして歯科技工で用いる加工技術・器械について、扱う上で必要な知識を学びます。歯科において用いられるさまざまな材料の歯科理工学的性質を理解し、それらの性質を測定し、適切に扱える力を身につけます。



## ■ 造形美術概論実習・歯の形態実習 ■

造形美術概論実習ではスケッチや模写、粘土で作品を製作し、観察力、認識力、造形力を養い、形態を客観的に見る力を養います。歯の形態実習では歯の摸刻を行い、歯の形態を的確に彫刻再現できる技術力を養います。



## ■ 全部床義歯・部分床義歯・顎補綴工学・顔面補綴工学実習 ■

歯科技工士として必要な補綴装置の製作技術と知識を修得します。全部床義歯工学実習では、すべての歯が欠損した患者に対して損なわれた形態と機能を回復するために用いる全部床義歯の製作を行います。部分床義歯工学実習では、部分床義歯の構成要素が備えるべき条件や使用する材料の性質を理解し、部分的に歯が欠損した患者に対するレジン床や金属床の部分床義歯の製作を行います。また、咬合器やフェイスボウなどの使用についての知識と技術を修得します。顎補綴工学実習では、外傷や先天性疾患、腫瘍などにより生じた欠損に対する顎補綴装置の製作法と必要な知識を学び、上顎欠損に対する顎義歯の製作を行います。顔面補綴工学実習では、顔面欠損に対する装置の構造と製作法について学び、義眼と眼窩エピテーゼの製作を行います。



## ■ 歯冠修復工学実習・審美修復工学実習・CAD/CAMシステム工学実習・演習 ■

歯冠修復工学基礎実習や歯冠修復工学応用実習では、インレーやクラウン、コア、ブリッジと呼ばれる金属製やプラスチック製の補綴装置の製作法と必要な知識を学びます。審美修復工学実習では、天然の歯と同じような色を持つ材料を用いてセラミック冠などを製作し、陶材を用いて色の表現法などを学びます。また、歯科用CAD/CAMシステムを用いた補綴装置の製作では、1人1台のCADソフトを用いて装置を設計し、CAMソフトを用いて削り出し加工を行います。屋根瓦方式で4年生が3年生を指導したり、歯学科6年生との合同実習でCAD/CAM冠の製作を行います。



## ■ グローバル口腔保健工学・実習 ■

日本の歯科事情や日本、大学についての紹介をテーマとして、日本語で調べてまとめた後、英語でプレゼンテーションを作成します。ネイティブ教員から英語でプレゼンテーションの構成や作成法、発音練習、発表の指導を受けます。台湾の台北医学大学に研修に行き、大学や歯科技工所の見学、カービングコンテスト、台湾の大学生に対するプレゼンテーションを英語で行います。



## ■ 国際交流 ■

3年次の9月に海外研修で台湾の大学を訪問し、3月には台湾からの学生を受け入れ、一緒に英語での講義や実習を行い、カービングコンテストに参加し、学生の国際交流を行っています。日本の歯科医療を理解するとともに国際社会における歯科医療を知り、国際社会において貢献できるように視野を広げています。



### 在学生から

### MESSAGE FROM A STUDENT



長谷川 真琴  
歯学部 口腔保健学科  
口腔保健工学専攻3年

### 次世代での活躍を

工学専攻で学べるのは歯科技工学だけではありません。超高齢社会でどのような医療・福祉が必要になるか、CAD/CAM、3Dプリンターなどを中心とするデジタルテクノロジーをどのように利用していくかなど、これからの社会をよりよくするために必要となる知識や技術を得ることができるのです。

また、工学専攻の仲間だけでなく、チーム医療を行うにあたって連携が必要となる他学部などと一緒に学習する場も設けられており、実践的な将来の医療に関わるディスカッションを行えます。PBL形式の授業が多くあるので、学生自ら意欲的に発言する姿勢が身につきます。

各分野の権威である先生方による授業や、技工所や歯科関連の企業への見学、また、歯学部附属病院での実習もあり、様々な経験を積むことができます。

本専攻は卒業後の進路に対しても真摯に考えてくださり、就職活動などの際に手厚いサポートを受けることができます。

### 卒業生から

### MESSAGE FROM A SENIOR



東京医科歯科大学  
歯学部附属病院歯科技工部  
田村 聡  
歯学部 口腔保健学科  
口腔保健工学専攻  
2014年度卒業

### 高い付加価値を身につけ、多分野で活躍する新たな歯科技工士に

口腔保健工学専攻では歯科技工の基本的な知識と技術の習得はもちろん、最先端のデジタル機器を使用した実習や海外研修などの幅広いカリキュラムにより、様々な分野で活躍できる人材が育成されています。

4年次の医歯学融合教育では他学科の学生と協力して課題を進めることで、歯科技工士という立場でチーム医療に貢献する方法を学びました。臨床実習では本学附属病院の臨床症例を担当することで、その難しさや緊張感を学び、卒後の心構えが出来ました。

現在、歯科技工業界は歯科技工士不足や作業のデジタル化など変革の最中にあります。

また歯科医療技術の進歩や日本の超高齢化による歯科訪問診療の増加などから歯科技工士へのニーズも変化してきていると感じます。

工学専攻で学ぶ4年間は、新しいニーズに対応する高い付加価値を身につけ、卒業後の様々な選択肢のいずれにおいても自分を助けてくれる素晴らしい経験を得ることができると思います。

## 教養部の教育理念

東京医科歯科大学の基本理念に基づき、教養部では国際的に通用する医療人の基盤となる、さまざまな文化や多様な世界を理解できる幅広い教養と、他者を理解するための豊かな人間性と倫理観、自ら問題提起し解決する創造力を兼ね備えた人材を育成する。

## 教養部の教育目標

教育理念の実現のために、教養教育と専門教育を学ぶための基礎教育を並行して行い、以下の4つの力を学生に獲得させる。

1. 市民社会の一員として、自己と他者を理解するための幅広い教養と感性
2. 科学的に考え、理解し、自ら問題を見つけ継続して学ぶ力
3. 国際的な医療人として活躍するために必要なコミュニケーションの能力
4. 専門教育に必要な基礎学力や思考力、技術

## 医療人としての教養、人間としての力を身につける

本学での学生生活の最初の入口、それが教養部です。

現在、教養部を設置している国立大学法人は本学のみです。

教養部は、「大学は、市民社会を構成する一員としての教養を身につける場である」という大学教育の原点に立ち返り、医療人に求められる教養と人間としての力を身につけるための教育を行っています。

学部・学科の別なく全学生がともに学ぶことにより、多様な考え方に触れ、専門の領域を越えて将来に繋がるかけがえのない友人を得ることができるのも、教養部ならではの特徴です。

緑豊かな国府台キャンパスで全学科の学生が1年間を過ごします。

また、専門科目の履修と並行して、人間への理解をいっそう深められるよう医学部医学科、歯学部歯学科を対象に、2年次以降の湯島キャンパスでも、教養部が担当する主題別選択や、人文・社会科学の少人数セミナーが開講されます。

## ■ 教育内容 ■

教養部では、左に掲げた教育理念・教育目標に沿って、必修科目と選択科目を配置しています。

人文社会系科目：文学、哲学、歴史学、法学、社会学等が開講されています。先人の優れた知見に触れるとともに、学問の様々な方法論に接する機会です。ここで身につけた知識や考え方を、2年次以降の「主題別選択Ⅰ・Ⅱ」や「主題別人文社会科学セミナー」でさらに深化させます。

自然科学系科目：数学、物理学、化学、生物学は、自然の理解に必要であると同時に、専門教育の基礎学力としても重要です。講義と実習で、知識に加えてそのための思考力や技術も身につけます。物理学、化学、生物学を高等学校で履修しなかった学生のためには、入門コースを設けています。

外国語系科目：言語はコミュニケーションを図るために必要なばかりではなく、その背景となる社会や文化を理解するためにも重要です。英語では能力別クラス編成によって、各自の今もてる力をいっそう伸ばします。第二外国語としては、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語が開講されています。

保健体育学系科目：講義と実技により、身体知を身につけます。他者の身体に関与する医療者は、まず自らの身体を熟知し、それを管理できる能力が必要です。フィットネスマネジメントではこのような能力を身につけるための時間も設けています。

教養総合講座：入学直後には「教養総合講座」が全学生を対象に開講されます。全学科横断で構成される少人数グループそれぞれを一人の教員が担当することで、学生と教員との親密なふれあいの場が提供され、その中で、大学での学習に必要な資料の収集方法や、議論の仕方、成果のまとめ方や発表の仕方を学んでいきます。基本的な文章表現や情報リテラシーの学習もこの「教養総合講座」の中に含まれます。

サイエンスPBL入門：ハイレベルな医療者・研究者になるためには、問題抽出、論理的思考、コミュニケーション能力が欠かせません。教養部ではこれらの能力の基礎トレーニングとして、サイエンスをベースとした課題解決型学習(PBL)の入門授業を実践しています。さらに歯学部歯学科2年次には「サイエンスPBL」が開講されています。



教養総合講座



英語



化学実験

## ■ 授業科目

哲学Ⅰ・Ⅱ	英語
倫理学Ⅰ・Ⅱ	日本語(留学生のみ)
心理学Ⅰ・Ⅱ	ドイツ語
宗教学Ⅰ・Ⅱ	フランス語
芸術Ⅰ・Ⅱ	中国語
歴史学AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ	スペイン語
民俗学Ⅰ・Ⅱ	物理学実験
科学史Ⅰ・Ⅱ	化学実験
文学AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ	生物学実験
法学Ⅰ・Ⅱ	サイエンスPBL入門
政治学Ⅰ・Ⅱ	科学基礎実験
経済学Ⅰ・Ⅱ	科学基礎演習
社会学AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ	情報科学
社会心理学Ⅰ・Ⅱ	情報処理
社会思想史Ⅰ・Ⅱ	スポーツ・健康科学
文化人類学Ⅰ・Ⅱ	フィットネスマネジメント
社会科学特論Ⅰ・Ⅱ	共通領域セミナー科目
Japanese Culture and SocietyⅠ・Ⅱ	教養総合講座
グローバル教養科目	医療人間学概論(倫理学・法学)
物理学入門	医療人間学セミナー
生物学入門	生命科学基礎
化学入門	主題別選択Ⅰ・Ⅱ
数学Ⅰ・Ⅱ	教養英語
統計学	情報科学演習
物理学Ⅰ・Ⅱ	サイエンスPBL
化学	生命科学(人体の生物学・生物物理学)
化学基礎	人文社会科学総合講義
生物学	主題別人文社会科学セミナー
細胞生物学基礎	
人体の生物学基礎	

# 生体材料工学研究所

Institute of Biomaterials and Bioengineering

## 近未来の医療を支える科学技術の世界的研究拠点

### ■ 研究所の概要

生体材料工学研究所は、駿河台地区の21号館および22号館に位置しています。医療系総合大学である東京医科歯科大学に設置された工学系の研究所として生体機能の修復・解析に用いられる生体材料や生体工学の研究・教育を行う、我が国で唯一の国立大学附置研究所です。医歯工連携というユニークな特徴を生かし、医学・歯学系の研究者や病院と密接に連携しながら機能分子、生体材料、生体システムなどの分野で医療における「ものづくり」を支える先導的な研究所として世界をリードする

研究を進めており、これまでも多くの製品を社会に送り出してきました。教育面では本学の理念である「医歯工連携」の「工」の分野を担当し、生体材料、生体工学、そして創薬などの機能分子の教育を通じて、高度な先端医療を担い最先端研究を先導する人材の育成を行っています。

当研究所は2016年度より文部科学省共同利用・共同研究拠点に認定され東京工業大学、広島大学、静岡大学の各研究所とネットワークを形成して共同研究を推進する体制を整えています。

### ■ 未来医療を開く最先端研究

生体材料工学研究所では先端医療に関連する幅広い研究が行われており、数多くの研究成果が発表されています。これらの研究成果から、最先端の医薬品や医療用材料などが生み出されています。

**【機能分子】** 安定な結合を迅速に形成できる反応の開発に成功しました。本反応は細胞内でも効率よく行うことができたことから、タンパク質などの生体分子に機能を付与する分子連結法としての応用を進めています(写真1)。

**【生体材料】** 機械的連結を有する超分子骨格を利用することで生

体組織に適した物性制御や細胞機能調節に成功しており、それに基づいて再生医療などへの応用展開を進めています(写真2)。

**【生体システム】** 人工知能などのデータ処理技術によって、医用画像から生体構造などの情報を識別、抽出し、複数の情報を統合して解析するコンピュータシステムを開発しました(写真3)。さらに、多種多様な生体センサから獲得する異種情報の統合や、複雑なデータ処理を可能にする次世代人工知能解析への適用、直観的に術情報を呈示する手術プロジェクションマッピングシステムの開発を進めています。

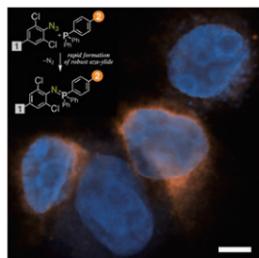


写真1

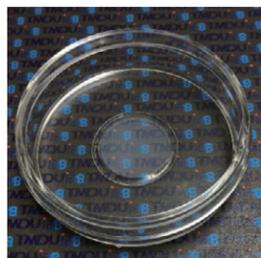


写真2

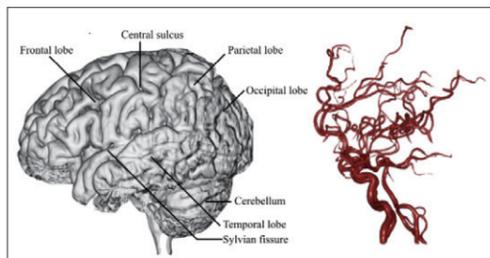


写真3

### ■ 社会の要請に応える学際領域の教育

本研究所の各分野は大学院医歯学総合研究科での学際領域の教育、研究にも参画しており、下記のような学位を取得するための研究指導を行っています。

**【大学院医歯学総合研究科 修士課程医歯理工保健学専攻】**

2年の標準修業年限で修士(理学)、修士(工学)、修士(医科学)、修士(歯科学)、修士(保健学)などが取得できます。

**【大学院医歯学総合研究科 博士課程生命理工医療科学専攻】**

3年の標準修業年限で博士(理学)、博士(工学)、博士(保健学)のいずれかが取得できます。

**【大学院医歯学総合研究科 博士課程歯学専攻】**

4年の標準修業年限で博士(医学)、博士(歯学)、博士(学術)の学位のいずれかが取得できます。

# 難治疾患研究所

Medical Research Institute

## “難治疾患”を標榜する我が国唯一の国立大学法人附置研究所

### ■ 研究所の概要

難治疾患研究所は、「難治疾患の学理と応用」を目的とした“難治疾患”を標榜する我が国唯一の国立大学法人附置研究所です。1973年、医学部附属の農村厚生医学、難聴、綜合法医学、硬組織生理、遺伝病、心臓血管、内分泌の7つの研究施設の再編によって設置され、2004年より、先端分子医学、難治病態、ゲノム応用医学の3部門の下に、22分野、フロンティア研究室、2

連携研究部門が所属しています。本研究所は、2009年6月25日、我が国の学術研究の発展に特に資するものとして、文部科学大臣により全国共同利用・共同研究拠点「難治疾患共同研究拠点」に認定され、2010年度より活動を開始、2016年度より第2期目に入っています。また、大学の学部教育、大学院教育にも多大な貢献をしています。

### ■ 我が国をリードする研究活動

本研究所では、難治疾患を「病因・病態が明らかにされていないために未だ有効な診断法、治療法や予防法が確立されていない病気」と定義付け、生命誕生から老年期にわたる各時期の難治疾患を研究しています。特に、悪性腫瘍、循環器、運動器、免疫、代謝、神経及び稀な遺伝疾患の研究では、それぞれの領域を牽引する成果をあげるとともに、がんCGH解析、心筋症、先天異常症などの難治疾患バイオリソース、難治疾患オミックス

データベースを産み出しています。また、広い視点から基礎生命科学の最先端研究に大きな力を注いでおり、マウスは勿論、アフリカツメガエル、ショウジョウバエ、線虫、メダカを研究材料とした成果は、様々な疾患のモデル動物や細胞のリソースバンクとして蓄積されています。さらに、幹細胞研究の分野が加わり、発生・再生医学研究を力強く推進しています。

### ■ 充実した研究環境

本研究所は、大学院教育研究支援施設を有し、現在、ゲノム解析室、細胞プロテオーム解析室、未来ゲノム研究開発支援室、形態機能解析室、バイオリソース支援室、幹細胞支援室、生命情報室、構造解析室の8つを整備しています。これらの研究支援室は、高い技術力を有する専門スタッフによる技術支援及び最先端の研究設備・機器の共有化による設備・機器の有効活用により、「難治疾患共同研究拠点」活動と、本学の大学院教育を支援しています。



### ■ 学部・大学院生の教育及び若手研究者の育成

本研究所の教員は、本学医学部、歯学部、大学院医歯学総合研究科(医歯理工保健学専攻・歯学専攻及び生命理工医療科学専攻)の教育を積極的に担っており、すべての専攻の教育、研究に積極的に参画し、疾患研究領域と先端的な生命科学との融合学際分野での人材育成に携わっています。また、お茶の水女子大学、学習院大学、北里大学と共同で行っている「学際生命科学東京コンソーシアム」の大学院共通カリキュラムにも参画しています。若手研究者育成にも積極的に力を入れ、『難治疾患研究所研究助成』や『若手研究者発表会』などの支援を継続的に実施するなど、研究対象に真摯に向き合い、課題解決に努力を惜しまないひたむきさと情熱、そして未知への挑戦に対する勇気をもった次世代を担う志をもった研究者を育成しています。



# 医学/医療分野におけるグローバルリーダーを育成する



成熟した国家である日本が、主要先進国として、生命科学研究・国際保健/医療政策・医療産業分野において世界を支え牽引していくため、その中心的役割を担い、グローバルな舞台でリーダーとして活躍し、変革を生み出すことのできる人材を育成します。

## ゴール設定

### Global Communication Workshop

グローバルなキャリア実現にむけてのゴールセッティング

新入生を対象として毎年春に開催している、国際保健問題事例を用いた英語模擬交渉ワークショップです。

本ワークショップを通じて、将来グローバルに活躍する際に求められる資質を認識し、将来を見据えたゴール設定を行っていたのが最大の目的です。



各交渉テーブルを、協力くださる外国人大学院留学生も含めた数名が囲み、それぞれ異なる役割を担い、英語で交渉にあたります。



本ワークショップは自由参加ですが、本学が提供する海外留学およびHSLP応募の際には本ワークショップ参加歴が必須要件であり、毎年約150名、新入生の実に半数以上が参加しています。



## キャリア形成支援

ロールモデル発見 ネットワーク形成 コミュニティ形成

### “Find-Your-Role-Model” Sessions

目指す分野で活躍するロールモデルに出会うために

医学/医療の分野においてグローバルな舞台で活躍する本学卒業生やリーダーの方々と、本学在生/教職員との交流イベントです。刺激を受け、実例からリーダーシップを学び、よきロールモデルを得て、今後のキャリア形成に活かしていただくことを目的としたセッションシリーズです。



### Discussion Café

人種・文化・分野を超えた、幅広い視点とネットワークの獲得のために

本学および国内外の提携校などから、人種、文化的背景、学んでいる専門分野、将来目指すフィールドを異とする様々な学生が一同に介し、複雑な国際保健問題の解決に向けて英語で徹底的に議論する、そして彼らとの人種/文化/分野を超えた交流を通して将来のグローバルリーダーのネットワークを築く・・・ Discussion Caféはそんな機会を提供します。



## スキルアップ

### Soft Skills Workshops

世界を舞台にリーダーとして活躍する人材に必要なスキルとは

日本人が特に苦手とされる論理的思考力、批判的思考力、創造的思考力、コミュニケーションスキル、そしてプレゼンテーションスキルなどの「ソフト・スキル」の獲得と洗練を、効果的・効率的に行うための機会を、2日間のワークショップ形式で提供しています。



### Academic English Course

短期集中特訓で英語運用力向上とTOEFLスコアアップを

毎年、春/夏に、学士/修士/博士全課程学生を対象とした、英語運用力向上/TOEFLスコアアップを目的とした短期特訓コースを開講しています。英語を母語とする外国人教員/講師が、学生それぞれのレベルに合わせて指導にあたります。



### 必修科目 Global Communication

必修科目における英語運用力/批判的思考力強化

必修科目においても、英語の語学スキルアップだけでなく、医療/健康領域の語彙やトピックへの理解を深めるとともに、コミュニケーションスキル、批判的思考力、論理的思考力、プレゼンテーションスキル、グローバルな視野の獲得などを到達目標に含めた教育を行っています。英語を母語とする教員や外国人大学院留学生が指導にあたります。



## 海外留学

留学前準備教育

### ASSERT Course

- Academic Skills for Successful Exchange Research sTudents -

最先端の研究に挑むためのスキルアップを目指して

研究留学が予定されている学生を対象とした完全英語履修のプログラムで、他国の学生と切磋琢磨できるよう、論理的思考力、批判的思考力、コミュニケーションスキルを洗練し、グローバルな視点を養成することを目標とした短期特訓を行います。



### FOCUS Course

- Fit for Overseas Clerkship opportunities -

世界トップ大学での臨床実習で輝くために

臨床留学が予定されている医学科学生を対象とした完全英語履修のプログラムで、世界トップ大学の医学生と切磋琢磨しながら充実した有意義な臨床実習を行えるよう、臨床スキル・患者管理スキル・コミュニケーションスキルを徹底的に磨くことを目標とした長期特訓プログラムです。



### BRIDgE Course

- Be Ready for International Dental Externships -

充実した海外歯科研修のためのスキルアップを目指して

海外での歯科研修に派遣が予定されている学生を対象とした、英語で学ぶ短期特訓プログラムです。研修を充実させるべく、必要となる英語力(歯科英語)やコミュニケーションスキル、マインドセットの修得を支援します。



## HSLP 真のグローバルリーダー育成プログラム

HSLPは、生命科学研究・国際保健/医療政策・医療産業分野において世界を牽引する人材の育成を目的とした、完全英語履修の複数年にわたるリーダー養成選抜プログラムであり、本学学士課程グローバル人材育成の旗艦的取組です。HSLPでは、高い志をもつメンバー(全学科対象、各学年20~30人程度)が切磋琢磨しながらともに学び、グローバルリーダーに必要なとされるスキルの獲得/洗練と、学年/世代を超えたコミュニティの形成を図ります。

### どんな人材の育成を目指すのか

- 生命科学研究に従事し世界最先端の研究を行うとともに、当該研究分野におけるリーダー/フロントランナーとしてその発展に貢献する人材
- 高い専門的背景を持った上で国際保健/医療政策決定機関に従事し、中心的役割を果たす人材
- 高い専門的背景を持った上で医療産業に従事し、同産業を世界規模で牽引する人材

## グローバルリーダーに必要なとされるスキルの獲得/洗練

- 医学知識および関連社会科学知識とその応用・統合力
- ソフトスキル
  - コミュニケーションスキル
  - ロジカルシンキングスキル
  - クリティカルシンキングスキル
  - クリエイティブシンキングスキル
  - チームビルディングスキル
  - マネジメントスキル
  - リーダーシップスキル



## 学年/世代を超えたコミュニティの形成

医学/医療分野のグローバルリーダーへの道のりは、とても長く、孤独で、明確な目標/ビジョンを常に見据えて、長期的視点から日々の研鑽を積み重ねる必要があります。HSLPでは、同級生や先輩/後輩、卒業生や在野のリーダー達、HSLP教員からなる、同じ目標に向かって頑張っている有志達によるコミュニティのメンバーとして、お互いに刺激し、支え合い、目標達成に向けて共に成長していきます。このコミュニティこそが、HSLPで学ぶ者にとっての大きな推進力であり、そして最大の財産なのです。

## カリキュラム

HSLPでの学習は、第1学年後期から学士課程修了まで渡ります。規定された「修了までに獲得すべき資質」を、学習レベルに応じて段階的に獲得していくスパイラルカリキュラムとなっており、特に下級学年では、将来直面するであろう問題を想定したケースを用いてグループで主体的に問題解決にあたる「ケースメソッド」を用います。またその間、「修了までに獲得すべき資質」に含まれる一部のスキル(批判的思考力、デザイン思考スキルなど)についてのワークショップ形式の集中的学習機会も豊富に用意しています。また、HSLP修了のためには海外留学経験(研究実習、臨床実習、公衆衛生大学院など)が必須であり、上級学年では下級学年学生のグループ学習にチューターとして参加し、海外留学を経て得た広い視野と深い考察にもとづく助言などを通して、ロールモデルとして、下級学年学生を刺激し、議論を深めます。



## HSLP履修生の声

### 廣光 映南 医学部 医学科6年 HSLP第2期生

高い志をもつ人間性豊かな仲間と刺激し合える環境が、HSLPの魅力です。HSLPでの学年学科を超えたコミュニティは、各人がスキルを発揮する緊張感の漂った空間であると同時に、私達にとって唯一無二の居場所となっています。臨床・研究の分野は問わず、キャリアビジョンを追求する過程自体を有意義なものにしてくれるプログラムだと思います。国内外で通用する医療者になるために、これからも真摯に学んでいきたいです。



### 小谷 愛 医学部 保健衛生学科4年 HSLP第4期生

HSLPでは、自身の学習ステージ・キャリアステージに応じて段階的に、医療・医学におけるリーダーに必要な資質を獲得し、成長を実感することができます。メンバーそれぞれが自分の到達段階に合わせて目標を設定し取り組みます。そのため他人と比較し劣等感に浸ることは一切なく、お互い尊重し高め合う、そのような素敵なコミュニティです。常にゴールテープが届きそうで届かないような感覚が向上心に繋がりで、この4年間自分の看護師としてのキャリアプラン形成を進められてきたと感じています。



# 学部学生海外研修奨励賞

学部学生に対して海外研修の機会を提供し、豊かな感性と国際性を持つ人材の育成に役立てるため設けられた制度で、対象となるのは海外研修への意欲に満ち、心身ともに健全で、学業優秀と認められる学部学生。世界の大学や医療機関で貴重な経験を積み、様々な発見をし、大きく成長しています。



2018年度 東京医科歯科大学海外研修奨励賞贈呈式

海外で活躍する卒業生



マサチューセッツ総合病院  
ハーバード医学校  
脳神経外科  
脇本 浩明  
医学部 医学科 1988年度卒業

私は本学脳神経外科教室で脳腫瘍臨床に従事した後、米国ハーバード医学校の基幹附属病院であるマサチューセッツ総合病院に移動しました。現在は同院脳神経外科講座内に研究室を持ち、難治性悪性脳腫瘍に対する新規治療法を開発すべく、基礎的及びトランスレーショナルな医学研究を日々推進しています。

本学脳神経外科教室をはじめ日本国内外からポストドクトラル研究員を採用しています。妻の博士は医科歯科の同期で、本学にて小児循環器医として勤務した後、現在はハーバード医学校遺伝学教室で心臓疾患の研究をしています。また、ハーバードの女性医師研究者支援委員会の一員として活動中です。

ハーバード関連病院における臨床実習に参加する医学科6年生とは、毎年、ポストン在住の医科歯科大学関係者及び当地で活躍中の医師、歯科医師、研究者との交流会を催しています。



## アメリカ ネヴァダ大学



小山 照央  
医学部医学科  
2018年度卒業

アメリカの医療現場で見たこと、そして感じたこと

「アメリカの救急医療の最前線で実習したい」という希望が叶い、ラスベガスにある University Medical Center の救急・集中治療部門で、8週間の臨床実習に参加しました。

銃による外傷や違法薬物など、日本では目にする頻度の少ない症例を数多く経験し、またアメリカの医療制度や死生観など臨床医療の土台となる考え方も学びました。医学の知識も英語力も足りない現実を突きつけられ、毎日「くやしい！」気持ち溢れていましたが、現地の医師や医学生に幾度も助けられました。現在、私は初期臨床研修医として勤務していますが、当時感じた悔しさは今日の原動力になっていますし、海に向こうの仲間の顔を思い浮かべるとエネルギーが湧いてきます。



## イギリス・アメリカ オックスフォード大学・ハーバード大学



吉田 響子  
医学部 医学科  
2017年度卒業

文化、制度の中における医療を考える

6年次に Oxford 大学関連病院の感染症内科、Harvard 大学関連病院の小児外科および血液内科で計3ヶ月の臨床実習を行う機会をいただきました。医学的な学びもさることながら、2カ国の医療現場を経験することで、医療制度や医療機関の役割、文化に関して多くの知見を得られました。誰にでも原則無料で医療を提供する英国の理想的な制度の限界、そして富める者には最先端の医療が提供される米国の経済的な偏りを身をもって体験しました。また海外ではキャリアも多様であり、新たな可能性に目を向けるきっかけとなりました。

このような大変貴重な機会を与えてくださった本学ならびにご支援いただきました全ての方々へ心より御礼申し上げます。



## フィンランド セイナヨキ応用科学大学



若林 南奈  
医学部 保健衛生学科  
看護学専攻 4年

他者の理解と自分の理解を繋げる時間を過ごした

私は2年次の2月に、フィンランドのセイナヨキ応用科学大学での14日間の研修に参加させていただきました。大学の講義や施設訪問、案内して下さった様々な方からのお話を通して、保健医療システムを大きな枠組みでとらえつつ、現場でどのように活かされているのか理解しながら実感を得ることができました。また、各場面で日本についても考え、知り、伝える機会があり、自分の背景やこれからの課題を見つめ直す密度の濃い時間を過ごせました。

研修で学んだ知識はもちろん、考えたことやその経験自体が今後の勉強を支えてくれると感じています。素敵な経験を与えてくださった本学並びに、支えてくださった全ての方々に感謝しております。



## アメリカ ワシントン大学



五反田 睦美  
医学部 保健衛生学科  
検査技術学専攻  
2018年度卒業

多文化共生社会に触れて  
これからの日本の医療を考える

3年次の夏季休暇を利用し、米国ワシントン州シアトルでの海外研修に参加させていただきました。University of Washington、附属病院であるUW Medical Centerの検査部、Seattle Science Foundation等を見学し、米国の看護教育や臨床検査、研究環境について学びました。日系介護施設のKeiro Northwest、Nikkei Manorではボランティア活動に参加しました。

もとより医療と社会の関わりに興味がありましたが、今回の研修では、多様な文化や宗教を抱える社会が必要とする医療は何か、国際化に伴い日本の医療現場でどのようなニーズが生まれるかを深く考えることができました。このような素晴らしい機会をいただき心より感謝しております。さらに知見を深めてより良い医療を創り支える人材となれるよう精進したいと思います。



## カナダ トロント大学

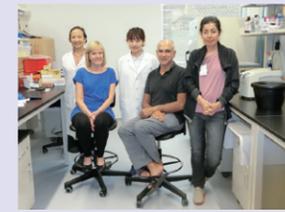


島田 怜実  
歯学部  
歯学科 5年

世界最先端の研究を学んだ、  
かけがえのない経験

私は4年次の3ヶ月間、トロント大学歯学部で留学する機会をいただきました。トロント大学は北米でも有数の大学で世界中から優秀な研究者が集まっており、私がお世話になった Irina Voronov 先生の研究室では骨の発生や疾患に関する研究を行っていました。私は主に骨形成の遺伝子変異に関する研究に関わらせていただき、そこで研究の基礎知識や技術を学ぶことができました。また留学期間中、トロント大学における研究発表会にてプレゼンテーションを行ったことも大変勉強になりました。この経験を今後に活かしていきたいと思っています。

このような素晴らしい機会を与えてくださった本学ならびに支えてくださった先生方々に深く感謝申し上げます。



## 韓国 檀国大学



渡邊 梨奈  
歯学部 口腔保健学科  
口腔保健衛生学専攻  
2018年度卒業

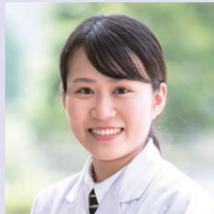
他者を知ることで、  
自分自身を分析することができた

私は韓国にある檀国大学の歯科衛生学科にて、3週間の研修に参加しました。日本と韓国では、歯科衛生士に関する法律や業務内容に関して共通する点が多くあります。しかし、大学の講義や実習、病院見学や学生たちとの交流を通して、社会的な背景や文化的な背景によって、教育の内容や歯科衛生士としての考え方に違いがあることを学ぶことができました。また、海外へ視野を広げることで、客観的に自分自身の環境を分析することができただけでなく、歯科衛生士として今後どのように業務や研究に取り組みたいかを考えるきっかけともなりました。このような貴重な機会を与えてくださった本学並びに支えてくださった全ての方々に深く感謝申し上げます。



## 短期海外研修

 スウェーデン  
ヨーテボリ大学



**豊田 真奈**  
歯学部 口腔保健学科  
口腔保健工学専攻  
2017年度卒業

意欲の高い学生たちと海外で  
活躍する日本人に刺激を受けた海外研修

私はスウェーデンにあるヨーテボリ大学で3週間研修を行いました。大学では最新技術を用いた実習を行い、大学内技工所・歯科企業などの見学をさせていただきました。実習では学生たちの自ら積極的に学ぼうとする意欲に刺激を受け、見学を通して日本との歯科事情の違いを学びました。スウェーデンで活躍する日本の方に会う機会もいただき、丁寧な仕事ぶりに対する高い評価と信頼に尊敬し、将来について考えるきっかけにもなりました。

先生方や学生のおかげでとても充実した日々を送ることができ、海外研修に参加しなればできなかった素敵な経験をさせていただきました。このような機会をくださった本学、並びに支えてくださった皆さまに感謝申し上げます。



 アメリカ  
ワシントン大学



**半田 優香**  
医学部 保健衛生学科  
看護学専攻 4年

国際医療への興味を  
広げるきっかけとなった

私は3年次の夏休みに、米国シアトルでの短期海外研修に参加しました。ワシントン大学病院の訪問や大学の看護学部の演習見学を通じて、病院の特徴、看護師の育成、Nurse Practitionerの役割など、米国の医療について学びを深めることができました。

他にも、日系老健施設でのボランティア活動への参加や、スクールナースの方にお話を伺い、米国の学校保健について勉強する機会もいただきました。

この研修を通じて他国の医療情勢や多様な文化に触れたことで、私の国際医療への興味が広がり、将来看護師として、医療の多様化とグローバル化に貢献したいという思いを強くしました。

最後に、本研修に携わってくださった全ての方々に深く感謝申し上げます。



## サークル活動

18の文化系サークルと26の体育系サークルがあり、国府台地区、湯島地区にある各施設や学外のフィールドで活発に活動を展開。学部・学科を越えた友情の輪を広げる場にもなっています。

### 文化系

- ・English Speaking Society (E.S.S)
- ・お茶の水管弦楽団 (オーケストラ部)
- ・混声合唱団 (コーラス部)
- ・Modern Jazz Diggers (M.J.D)
- ・コンピューター部
- ・SSIA (Students' Society of International Activity)
- ・Tokyo Medical & Dental Piano Club (ピアノの会)
- ・TMDU Emergency Medicine Study Sessions organized by students (TESSO)
- ・医療ビジネス研究会 (TMDU Strategy Institute)
- ・iPag (医科歯科プライマリケア研究会)
- ・アカペラ部 tic tac ♪
- ・ジャズ研究会
- ・美術部
- ・写真部
- ・茶道部
- ・演劇部
- ・棋道部
- ・天文部



混声合唱団 (コーラス部)

### 体育系

- ・漕艇部
- ・剣道部
- ・弓道部
- ・硬式庭球部
- ・ソフトテニス部
- ・硬式野球部
- ・卓球部
- ・ラグビー部
- ・ハンドボール部
- ・ゴルフ部
- ・陸上競技部
- ・ヨット部
- ・水泳部
- ・スキー部
- ・ダンス部
- ・サッカー部
- ・フットサル部
- ・スキューバダイビング部
- ・アメリカンフットボール部
- ・男子バスケットボール部
- ・女子バスケットボール部
- ・男子バレーボール部
- ・女子バレーボール部
- ・ワンダーフォーゲル部
- ・バドミントン部



剣道部

## 2018年度 海外派遣実績数

	総人数	学年別						国別	
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
医学系	医学科	56	1	0	6	27	2	20	アメリカ 21、オーストラリア 10、スイス 6、タイ 6、イギリス 5、チリ 2、マレーシア 2、台湾 2、ガーナ 1、ベルギー 1
	保健衛生学科 看護学専攻	16	3	0	9	4	-	-	アメリカ 5、フィンランド 5、ネパール 4、ガーナ 1、カナダ 1
	保健衛生学科 検査技術学専攻	15	0	7	7	1	-	-	台湾 5、ガーナ 3、タイ 3、フィンランド 2、カンボジア 1、ネパール 1
歯学部	歯学科	38	0	3	7	17	4	7	ベトナム 11、アメリカ 10、タイ 4、イギリス 3、台湾 3、カナダ 2、スウェーデン 2、オーストラリア 1、ドイツ 1、フィンランド 1
	口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻	11	0	3	5	3	-	-	タイ 6、台湾 3、アメリカ 1、韓国 1
	口腔保健学科 口腔保健工学専攻	15	0	13	1	1	-	-	台湾 14、ドイツ 1

複数回渡航あり

### お茶の水管弦楽団 (オーケストラ部)



#### お茶管の魅力

松田 弾 医学部 医学科4年

お茶の水管弦楽団は、150人以上の学生によって構成されるオーケストラサークルです。当団の魅力は何と言っても、医科歯科では珍しいインカレサークルであるという点です。団員の半分以上は他大学の学生であり、医療系だけに留まらない多くの仲間を作ることができます。

活動内容も様々で、年2回の定期演奏会に加え、学園祭では生演奏付きの喫茶店を出店し、春と夏には合宿に行きます。定期演奏会はプロの指揮者の先生をお招きし、大きなホールに1000人を超えるお客様に来ていただくかなり本格的なものです。

こうした活動を通じて充実した大学生活を過ごすことができるばかりか、将来に役立つ経験を積むこともできます。



### 弓道部



#### 東京医科歯科大学での学生生活を、弓道とともに過ごしませんか

片山 真吾 医学部 医学科3年

弓道は「立禅」とも呼ばれています。これは弓道という武道が「人」ではなく「的」を相手にし、ただひたすら己と向き合いながら技術と精神を磨くものだからです。一射一射、正しい射法を探究し、平常心を保つ心を養う中で心と技が一体となったときに美しさが生まれるという奥深い世界が、弓道の魅力と言えるでしょう。一方で弓道には、競技という側面もあります。本校弓道部も数々の弓道大会



に出場し、好成績を残しています。昨年度は東医体で優勝し、全医体にも出場しました。部員の多くは大学から弓道を始めており、初心者でも丁寧な指導のもと、誰でも大きく成長できます。弓道部での経験は、医療者になるための糧にもなるはずです。

# 学生のある一日



渡部 良平  
医学部 医学科 6年

医学科 5、6 年次では、Student doctor として医療チームに加わります。そこで実際に診察やチャート記載、手術やカンファレンスなどに参加し、医師になるためのトレーニングを行います。内科や外科はもちろん、病理や放射線などの部門もローテーションし、病院の中の医療行為に幅広く携わります。学外の関連施設との連携も強く、5 年次ではプライマリケア実習として診療所に、6 年次では選択実習として各科の連携施設にて実習を行うことができます。海外の協定校における実習も可能で、日本以外の医療現場に触れる機会も設けられています。

実習終了後は部活動や研究など、充実した学生生活を送っています。個性豊かで魅力ある学生が集まっており、医師として働き始めてからもお互い切磋琢磨できるであろう、頼もしい友人達と出会うことができました。そんな友人に囲まれ、自分自身も成長できる貴重な環境であると実感しています。

## 1日のタイムスケジュール

6:30	起床、登校
8:00	自習、実習準備
9:00	実習 (診察、カルテ記載、手術見学など)
12:00	昼食
13:00	実習 (診察、カルテ記載、手術見学など)
17:00	部活動、研究、課題など
20:00	下校、帰宅
21:00	自由時間、自習
24:30	就寝



篠田 樹乃  
医学部 保健衛生学科  
看護学専攻 4年

病院実習の時は、おおよそ 8:00 に病棟集合、17:00 解散といったスケジュールです。本学附属病院以外での実習もあるため、慣れない間は大変でしたが、周りの方々に支えてもらいながら乗り越えることができました。4 年生では講義や実習と同時に、卒業研究も並行して進めています。

看護学専攻ではグループワークも多く、全員と顔なじみになるほどです。同輩の話を聞いていると、勉学のみならず、アルバイトに励んだり旅行に出かけたりしている人が多い印象があります。実際、私自身もサークル、アルバイト、ボランティア活動を行っています。サークルでは本学他学科の学生はもちろん、時には医療系の他大学と合同で活動することもあり、更に交友関係が広がります。そのほか週末には附属病院の小児科で遊びのボランティア、夏には 1 型糖尿病患者を対象としたサマーキャンプに参加しています。本学では勉学に励みながら様々な経験ができる環境が整っていると感じます。

## 1日のタイムスケジュール

7:00	起床・準備
8:20	登校
8:50	1 限目「保健統計学」
10:30	2 限目「産業保健学」
12:00	友人と昼食、お昼休憩
13:00	3 限目「地域保健看護学Ⅲ」 (保健師コース選択学生のみ)
14:40	4 限目「地域保健看護学Ⅲ」 (保健師コース選択学生のみ)
16:10	談笑、図書館にて課題
18:00	サークル活動 (アカペラサークル tic tac ♪)
19:00	夕食、帰宅
21:30	自由時間
24:00	就寝



原 安由子  
医学部 保健衛生学科  
検査技術学専攻 4年

検査技術学専攻の 2 年生では、講義や実習を通して人体の構造や病理学、細菌などの基礎知識を学び、3 年生では各範囲のより深い知識を学ぶとともに、臨床現場で実際に用いられている検査方法を実習で行います。

実習では、ただ実習書に沿って行うだけでなく先生や大学院生にヒントをいただきながら、どのような結果になるかを予想したり、なぜこのような結果になるのかを考察したりと、自ら考える力を育むことができます。また実習は少人数の班で共同作業を行うことが多く、学生同士の絆も生まれます。

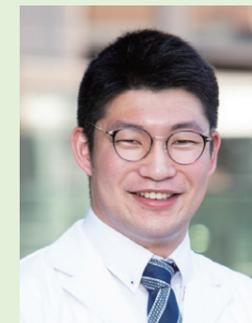
授業や実習は朝から夕方まである日が多いのですが、検査技術学専攻の学生はアルバイトをしたり、サークルを頑張っている人が大勢います。私自身、3 年次は 3 つのアルバイトをしながら 3 つのサークルに所属していました。

夕方までは授業や実習、課題に全力で取り組み、サークルで息抜きをすることで、より充実した学生生活を送ることができていると実感しています。

## 1日のタイムスケジュール

7:00	起床、登校
8:50	1 限「生理検査学講義」
10:30	2 限「分析化学検査学講義」
12:00	昼食
13:00	「分析化学検査学実習」
17:00	課題、実習のレポート執筆
19:00	アルバイト
23:00	帰宅
23:30	就寝

東京医科歯科大学には現在約 1500 人の学部学生が在籍しています。大学生活と一口でいっても、大学や学部、学科によって様々です。そこで、本学で充実したキャンパスライフを送っている学生さん達に協力してもらい、ある 1 日をリサーチしてみました。どんな学生生活を送っているのか、少しだけのぞいてみましょう。



清家 達朗  
歯学部 歯学科 6年

本学歯学部が一番大きな特徴として、歯学科 5・6 年生に行われる包括臨床実習が挙げられます。本実習では各科の豊富な臨床経験をお持ちの指導医の先生のご指導の下、担当する 20～30 人の患者さんに対して、治療計画を立案し、治療に対する準備や技工作業などを行った後に保存修復や歯内治療、義歯の製作や抜歯、歯周外科など多岐にわたる治療を実際に行うことにより、座学だけでは決して学ぶことのできない貴重な知識・技術はもちろんのこと、患者さんとの接し方やスケジュール管理の方法などを学ぶことができ、数ある歯学部の中でも本学でしか経験することのできない実習となっています。

また、実習で忙しい中でも部活動や、アルバイトなどに励んでいる人も多く、私も所属している硬式テニス部では、歯学部の大大会で準優勝を取ることができたり、アルバイトなどでは他大学の学生さんと交流する機会も多くあったり、学業以外の活動も全力で取り組める環境にあります。

皆さんも是非このような素晴らしい環境で共に学びましょう。

## 1日のタイムスケジュール

8:00	起床・登校
9:00	包括臨床実習 (学生診療室・各科ローテーション)
12:00	昼休み
13:00	包括臨床実習 (学生診療室・各科ローテーション)
16:00	診療準備・技工作業
20:00	アルバイト・部活・自由時間
24:00	就寝

キャンパスライフ



矢嶋 陽向  
歯学部 口腔保健学科  
口腔保健衛生学専攻 4年

私たちの専攻では、3 年次前期までに歯科衛生学に関する大半の基礎知識を習い終え、後期から臨床の場に出ます。授業は 1 コマ 50 分で 7～8 コマあり、9:00～17:00 までは学校にいます。病院実習では週ごとに各外来を回り、より専門的な知識や技術を習得します。実際に患者さんと接する機会が多く、常に緊張感を持ちながら取り組んでいます。

実習は大変ですが、診療後の患者さんの笑顔が活力となり頑張ることができます。また、幼稚園や小学校へ健康教育や学校検診のために訪問し、子ども達に劇や紙芝居などで歯みがきの大切さを伝える実習もあります。みんな真剣に聞いてくれるのでとても嬉しいです。

授業後に部活動やアルバイトをしている人も多く、私は写真部に所属し、歯科助手のバイトをしています。部活動では他学科、他大の学生と交流でき交友関係が広がります。とてもいい環境の下、勉強・部活・アルバイトなど、楽しく充実した毎日を送っています。

## 1日のタイムスケジュール

6:00	起床、登校
8:30	臨床実習(病院実習)
12:00	昼休み
13:00	臨床実習(病院実習)
16:00	帰宅
17:00	レポート記入
19:00	夕食、自由時間
22:30	就寝



原 裕香  
歯学部 口腔保健学科  
口腔保健工学専攻 3年

2 年次以降の工学専攻は、ほぼ毎日、1 限から学校が始まります。授業は 1 コマ 50 分ぐらい 6～8 コマ。午前中に講義があり、午後に実習をするというパターンが多いです。

講義の内容は、義歯や口腔内に関することはもちろん、医療従事者として必要な知識、例えば感染予防や医療倫理などを専門の先生から学ぶことができます。実習では学生の人数が十数名と少ないため、先生からの手厚い指導が受けられます。工学専攻は先生と生徒との距離が近くアットホームな雰囲気です。半期に一度、面談も行われますが、困ったことがあればすぐに相談できる良い環境があります。

私は陸上競技部に所属しており、週に 2 回練習をしています。他学科、他学年の学生と交流でき、医療系リーグで試合をするため他大学の医療系学生とも仲良くなれます。また週に 2 回程度アルバイトもしています。忙しい毎日ですが、とても充実しています。

## 1日のタイムスケジュール

7:00	起床、登校
8:30	1 限～3 限 コミュニケーション学
9:00	昼休憩
11:50	4 限～6 限 冠修応用演習
13:00	課題を進める
15:50	移動
16:00	移動
17:00	移動
18:00	部活動(陸上競技部)
21:00	移動～帰宅、自由時間
22:00	移動
23:30	就寝

# 図書館

## 本館 (湯島地区)

図書館本館は、M&D タワーの3階と4階に位置し、医学系の専門図書約17万冊の蔵書を有しています。その中には貴重書として、杉田玄白の「解体新書」の初版本、その元になった「ターヘル・アナトミア」、「ファブリカ」(人体構造論)\*の初版本などもあります。

吹き抜けになっている閲覧室には、閲覧机を配し、座席数は181席、学生が自由に使える備え付けのノートPC、持ち込んだPCを接続できる無線LAN、コピー機2台が設置されています。自動貸出機や自動書庫などの設備も整えています。

4階の情報検索室には、132台のPCと、プリンター1台が設置されています。レポートの作成やe-learningなど自主的な学習を進められる環境があります。

図書だけではなく、著名な医学分野の教科書や参考図書を電子書籍として約500タイトル、医歯学分野の学習・研究には欠かせない電子ジャーナルを約8,000タイトル、データベースを11タイトル提供しています。これらは、学内ネットワークを使って、教室や演習室からも利用できます。

また、明治大学の図書館と相互利用の協定を結んでいます。本学の学生は、明治大学の中央、和泉、生田図書館で書籍の閲覧や貸出を受けることができます。さらに、順天堂大学図書館、東京大学医学図書館、日本医科大学中央図書館、文京学院大学本郷図書館とも相互利用協定を結び、各大学の図書館で図書を閲覧することもできます。



\*ファブリカ(人体構造論):  
アンドレアス・ヴェサリウスの著した解剖学書で、1543年に刊行された。近代医学の出発点をなしたと言われ、300点以上の挿絵があり、写実的な解剖図が特徴である。



図書館HP: <https://www01s.unity.jp/tmdu/>  
利用時間: 平日 8:30 ~ 22:00、土・日・祝日 8:30 ~ 18:30  
(8月、3月は 10:00 ~ 18:30)  
休館日: 年末年始 (12/29 ~ 1/3)



閲覧室全景



情報検索室



閲覧コーナー

## 分館 (国府台地区)

図書館国府台分館は教養部キャンパス内にあり、教養教育の実践のため、幅広い分野の蔵書と、修学を支援する様々な設備があります。

### 対話可能な活発空間の設置

医療人として必要不可欠な対話力・表現力を養うためにラーニングコモンズおよびPCを用いた共同学習向けスペースであるコラボレーションエリアがあります。

### PC環境の充実

PCロッカーを設置し、アクティブラーニングに必要な不可欠なPCを簡単に借りることができます。ロッカーには常時タブレットPCが20台程度入っており利用者は図書館内であればどこでも移動して検索・調査を行うことができます。

### セミナールームの設置

少人数授業向けのセミナールームを2階に3室、1階にプレゼン向けの部屋を1室設置しています。教養総合講座等の少人数教育において広く活用されています。

### 静謐な空間の提供

活発な空間とともに利用者のニーズが高い静謐な自習スペースも提供しています。活発空間との間に特殊な消音ガラスを用いることで両スペースの共存を図っています。



集密書架



セミナールーム

# 保健管理センター

## 定期健康診断

本学では全学生に対し、毎年5月に「学生一般定期健康診断」を実施しています。

自身の健康管理のみでなく、進学や就職等の証明に必要になります。

## 感染予防(抗体検査・ワクチン接種)

本学は医療系大学として、感染予防のために下記の抗体検査・予防ワクチン接種を実施しています。

(学部新入生)

四種抗体検査(麻疹・風疹・ムンプス・水痘)

予防ワクチン接種

- 破傷風トキソイドワクチン
- 麻疹(はしか) ワクチン
- ムンプス(おたふく) ワクチン
- インフルエンザワクチン(任意)
- 風疹ワクチン
- 水痘(水ぼうそう) ワクチン

(学部2年生)

B型肝炎ウイルス検査(抗原、抗体検査)

Tスポット®.TB検査

予防ワクチン接種

- B型肝炎ワクチン
- インフルエンザワクチン(任意)

## 健康相談

体調不良になった場合は、当センターの医師による健康相談が受けられます。必要に応じて専門医への紹介も行っています。また、軽い怪我の処置も行います。休養が必要な方のためにはベッドも用意しています。心身の不安、人間関係、勉学上の悩みなど、様々な相談にはメンタル専門医が応じています。

## 健康診断証明書の発行

学生一般定期健康診断をもとに留学、進学、就職のための健康診断証明書の発行を行っています。



湯島地区保健管理センター



国府台地区保健管理センター

# 学生・女性支援センター

## 充実したキャンパスライフを送るためのトータルケア

本学の学生に対して、キャンパスライフ全般にわたり、学生支援活動の充実を図ること、男女共同参画の推進を行うことを目的としています。相談・カウンセリングも実施しています。

## センターの業務

- 学生支援
- 修学支援
- 就職支援
- メンタルヘルスに関する支援
- ハラスメントに関する支援
- セクシャルマイノリティの学生に対する支援
- キャリアパス形成の支援
- ワーク・ライフ・バランス(育児や介護と学業との両立問題など)の支援
- 保育支援
- 障害のある学生に対する支援

## センターの職員

センター長、教員、臨床心理士、事務職員(学生支援事務室)



学部生へのキャリア講義



発行されている冊子

# 学生支援制度

## 学生寮

千葉県市川市の国府台地区には、主に遠方から本学に入学される方のために、大学敷地内に学生寄宿舍（男子寮 収容定員 70名）及び国際学生宿舎（女子寮収容人員 50名）を備えています。

詳細は以下のとおりです。

名称	里見寮（男子寮）	国際学生宿舎（女子寮）
募集人員	26名程度（例年実績）	37名程度（例年実績）
設置	1963年（2010年3月全面改修）	1994年6月
設備	鉄筋コンクリート4階建（個室 約6畳）	
入居時期	4月1日以降	
入居期間	原則2年以内	原則1年以内
寄宿料	月額17,800円（光熱水費は別途実費）	月額5,900円（水道費は別途実費）
その他費用	共通施設光熱水費の実費 ルームクリーニング代（初回引落時14,300円） その他消耗品 自治会費	共通施設光熱水費の実費 ルームクリーニング代（初回引落時14,300円） その他消耗品 居室の電気・ガス代は各自で業者と契約
居室	ユニットバストイレ、キッチン（IH）、冷蔵庫（冷凍室有）、エアコン、机付ベッド、椅子、クローゼット、下駄箱、LANシステム（無料）	ユニットバストイレ、キッチン（ガス）、冷蔵庫（ホテルサイズ）、エアコン、机、椅子、ベッド、マットレス、クローゼット、下駄箱、LANシステム（有料）
共同施設	談話室、ランドリー室、共同浴場	多目的室（テレビ付）、共同キッチン、コインランドリー（有料）
選考について	必要書類を期限までに提出	必要書類を期限までに提出



男子寮入口



女子寮ロビー



女子寮入口

## 経済支援制度

### ・入学金免除

入学前1年以内に学費負担者が死亡または風水害等の災害を受けた場合、学長が相当と認める事由がある場合には、選考の上、入学金が免除されることがあります。

### ・授業料免除

経済的理由により納付が困難であり、かつ学業が優秀であると認められる場合または入学金免除と同等の理由がある場合には、選考の上、授業料が免除されることがあります。

### ・日本学生支援機構奨学金

人物・学業ともに優秀かつ健康で、学資の支弁が困難であると認められた者に対して、第一種奨学金（無利子）または第二種奨学金（有利子）の学資が貸与されます。

上記以外にも、入学金、授業料徴収猶予制度や地方公共団体、民間団体等の奨学制度もあります。

## 受験、入学から卒業までに必要な経費

本学を受験、入学、卒業するまでの経費を概算で示しています。

### A. 入学前に必要な経費（2019年度入学実績）

項目	医学	看護	検査	歯学	衛生	工学
検定料	17,000	17,000	17,000	17,000	17,000	17,000
入学料	282,000	282,000	282,000	282,000	282,000	282,000
血液検査	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
TOEFL / ITP 受験料	3,750	10,850	10,850	7,410	11,070	11,070
歯学部合同懇談会費				3,000	3,000	3,000
合宿研修参加費	20,000			20,000		
学生教育研究災害傷害保険料	4,800	3,370	3,370	4,800	3,370	3,370
医学生教育研究賠償責任保険料		2,000	2,000	3,000	2,000	2,000
自治会納付金	6,000	4,000	4,000	6,000	4,000	4,000
学友会	入会金	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
	会費	30,600	20,400	20,400	30,600	20,400
	体育祭費	4,200	2,800	2,800	4,200	2,800
	文化祭費	9,000	6,000	6,000	9,000	6,000
同窓会費	50,000	30,000	40,000	50,000	9,000	21,000
合計	435,350	386,420	396,420	445,010	368,640	380,640

### B. 入学後、各学年において必要な経費（概算ですので、目安としてご参照ください。）

学年	項目	医学	看護	検査	歯学	衛生	工学
1	授業料（前期）	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900
	授業料（後期）	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900
	辞書	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000
	教科書（共通）	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
	教科書（学科別）	17,000	26,000	29,000	13,000	24,000	11,000
	実習用機械器具等	34,000	30,000	18,500	25,000	5,000	1,000
	文具等	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
	ノートパソコン	184,000	184,000	184,000	184,000	184,000	184,000
	その他	15,000	13,000	13,000	15,000	13,000	13,000
	小計	817,800	820,800	812,300	804,800	793,800	776,800
	授業料（前期）	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900
授業料（後期）	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	
教科書等	120,000	80,000	60,000	130,000	27,200	24,000	
実習衣等	13,000	41,000	10,000	13,000	20,000	4,000	
実習用機械器具等	60,000	10,000		20,000	82,305	182,730	
学外研修費				20,000		80,000	
小計	728,800	666,800	605,800	718,800	665,305	826,530	
3	授業料（前期）	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900
	授業料（後期）	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900
	教科書等	110,000	40,000	50,000	130,000	18,600	2,600
	実習用機械器具等		10,000		46,000	20,000	27,000
	学外実習交通費		10,000	10,000		3,000	3,000
	小計	645,800	595,800	595,800	711,800	577,400	568,400
4	授業料（前期）	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900
	授業料（後期）	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900
	教科書等	70,000	20,000	30,000	160,000	3,000	
	実習衣	13,000		5,000	5,000		4,000
	実習用機械器具等	20,000			280,000	20,000	10,000
	卒業論文集印刷代		5,000	5,000		5,000	1,000
	国試・模試受験料		22,700	26,000		30,000	37,000
	学外実習交通費		10,000	10,000		10,000	
	学外実習施設使用料		2,000	2,000		30,000	
	共用試験受験料	25,000					
小計	663,800	595,500	613,800	980,800	633,800	587,800	
5	授業料（前期）	267,900			267,900		
	授業料（後期）	267,900			267,900		
	教科書等	90,000			100,000		
	実習衣	5,000			5,000		
	実習用機械器具等				35,000		
共用試験受験料				25,000			
小計	630,800			700,800			
6	授業料（前期）	267,900			267,900		
	授業料（後期）	267,900			267,900		
	教科書等	110,000			40,000		
	実習衣	5,000			5,000		
	国家試験受験手数料	15,300			18,900		
小計	666,100			599,700			
合計	4,153,100	2,678,900	2,627,700	4,516,700	2,670,305	2,759,530	
総計（A+B）	4,588,450	3,065,320	3,024,120	4,961,710	3,038,945	3,140,170	

# 試験の種類

東京医科歯科大学では「一般入試」と「特別入試」を行っています。「一般入試」は、大学入試センター試験と分離分割方式(前期日程・後期日程)で行われる個別学力検査を実施します。「特別入試」は、地域特別枠推薦入試(医学部医学科)、特別選抜I(推薦入試)、特別選抜I(国際バカロレア入試)、特別選抜II(帰国生入試)、私費外国人留学生特別入試があります。

その他に、学士編入学試験(医学科2年次)、2年次編入学試験(口腔保健学科口腔保健工学専攻)があります。

なお、3年次編入学(歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻)試験については、2021年度入試より廃止いたします。

## 学部学科及び募集人員

学部学科		募集人員内訳							
		一般入試 (前期日程)	一般入試 (後期日程)	地域特別枠 推薦入試	特別選抜I (推薦入試)	特別選抜I (国際バカロレア入試)	特別選抜II (帰国生入試)	私費外国人留学生 特別入試	
医学部	医学科	82名	10名	4名	5名	若干名	若干名	若干名	
	保健衛生学科	看護学専攻	35名	-	-	20名	若干名	-	若干名
		検査技術学専攻	27名	-	-	8名	若干名	若干名	若干名
	小計		144名	10名	4名	33名	-	-	-
歯学部	歯学科	33名	15名	-	5名	若干名	若干名	若干名	
	口腔保健学科	口腔保健衛生学専攻	20名	-	-	2名	若干名	-	若干名
		口腔保健工学専攻	8名	-	-	2名	若干名	-	若干名
	小計		61名	15名	-	9名	-	-	-
合計		205名	25名	4名	42名	-	-	-	

- (注) 1. 地域特別枠推薦入試の4名(茨城県2名、長野県2名)は、都道府県の策定する地域医療再生計画に基づく地域の医師確保に係る修学資金を活用した入学定員である。合格者又は入学手続者が募集人員に満たない場合は、その不足した人員を一般入試(前期日程)の募集人員に加える。  
 2. 特別選抜I(推薦入試)の募集人員の中には、特別選抜I(国際バカロレア入試)の募集人員を含む。合格者又は入学手続者が募集人員に満たない場合は、その不足した人員を一般入試(前期日程)の募集人員に加える。  
 3. 一般入試(前期日程)の募集人員の中には、特別選抜II(帰国生入試)の募集人員を含む。  
 4. 入学定員の中には、私費外国人留学生特別入試の募集人員を含む。  
 5. 入学後に他の学科又は同一学科内の他の専攻へ転籍することはできない。

## 入試日程

### ●大学入試センター試験

試験日：2020年1月18日(土) / 19日(日)

### ●一般入試(前期日程)

試験日：2020年2月25日(火) / 26日(水)  
合格発表：2020年3月9日(月)

### ●一般入試(後期日程)

試験日：2020年3月12日(木) / 13日(金)  
合格発表：2020年3月23日(月)

### ●地域特別枠推薦入試(医学部医学科)

試験日：2020年2月9日(日)  
合格発表：2020年2月12日(水)

### ●特別選抜I(推薦入試)

試験日：2019年11月25日(月) / 26日(火)  
合格発表：2019年12月13日(金)

※医学部医学科については条件付合格として発表し、大学入試センター試験の成績を確認後、最終結果通知を送付する。

### ●特別選抜I(国際バカロレア入試)

試験日：2019年11月25日(月) / 26日(火)  
合格発表：2019年12月13日(金)

※出願期間に「IB最終試験の成績証明書」を提出していない者については条件付合格として発表し、後日提出される「IB最終試験の成績証明書」を確認後、最終結果通知を送付する。

### ●特別選抜II(帰国生入試)

試験日：2020年2月25日(火) / 26日(水)  
合格発表：2020年3月9日(月)

### ●私費外国人留学生特別入試

試験日：(第1次試験) 独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験(2018年6月、11月、2019年6月、11月実施分のいずれか)」  
(第2次試験) 2020年2月25日(火)  
(第3次試験) 2020年3月12日(木)  
合格発表：2020年3月23日(月)  
※詳細は各試験の学生募集要項を参照してください。

# 2019年度入学者選抜実施結果

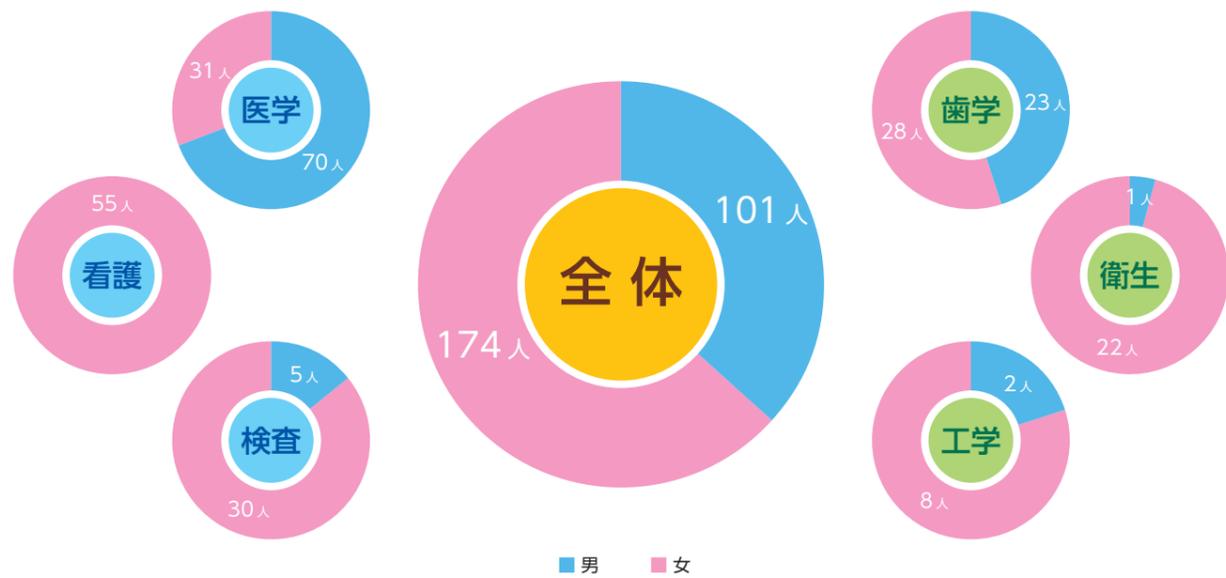
学部・学科・専攻		選抜区分	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数			
医学部	医学科	一般入試	前期日程	82	322 (105)	3.9	310 (100)	91 (28)	81 (24)		
			後期日程	10	202 (65)	20.2	29 (11)	11 (2)	10 (2)		
		特別入試	特別選抜I	推薦入試	5	54 (38)	10.8	18 (10)	4 (1)	4 (1)	
				国際バカロレア入試	若干名	10 (7)	-	2 (1)	1 (1)	1 (1)	
			特別選抜II	帰国生入試	若干名	1 (0)	-	1 (0)	0 (0)	0 (0)	
			地域特別枠 推薦	茨城県枠	2	4 (2)	2.0	4 (2)	2 (2)	2 (2)	
				長野県枠	2	9 (4)	4.5	9 (4)	2 (0)	2 (0)	
		私費外国人留学生特別入試	若干名	16 (8)	-	12 (6)	1 (1)	1 (1)			
	医学科 計			101	618 (229)	6.1	385 (134)	112 (35)	101 (31)		
	保健衛生学科	看護学専攻	一般入試	前期日程	35	92 (90)	2.6	85 (83)	39 (39)	35 (35)	
				後期日程	10	202 (65)	20.2	29 (11)	11 (2)	10 (2)	
			特別入試	特別選抜I	推薦入試	20	45 (45)	2.3	45 (45)	20 (20)	20 (20)
					国際バカロレア入試	若干名	0 (0)	-	0 (0)	0 (0)	0 (0)
		私費外国人留学生特別入試	若干名	0 (0)	-	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
看護学専攻 計			55	137 (135)	2.5	130 (128)	59 (59)	55 (55)			
検査技術学専攻		一般入試	前期日程	27	72 (60)	2.7	65 (53)	29 (25)	27 (23)		
			後期日程	15	161 (95)	10.7	30 (15)	17 (10)	12 (7)		
		特別入試	特別選抜I	推薦入試	8	15 (14)	1.9	15 (14)	8 (7)	8 (7)	
				国際バカロレア入試	若干名	1 (0)	-	1 (0)	0 (0)	0 (0)	
	特別選抜II		帰国生入試	若干名	0 (0)	-	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	私費外国人留学生特別入試	若干名	2 (2)	-	1 (1)	0 (0)	0 (0)				
検査技術学専攻 計			35	90 (76)	2.6	82 (68)	37 (32)	35 (30)			
保健衛生学科 計			90	227 (211)	2.5	212 (196)	96 (91)	90 (85)			
歯学部	歯学科	一般入試	前期日程	33	145 (77)	4.4	126 (64)	35 (18)	33 (17)		
			後期日程	15	161 (95)	10.7	30 (15)	17 (10)	12 (7)		
		特別入試	特別選抜I	推薦入試	5	26 (16)	5.2	20 (15)	5 (3)	5 (3)	
				国際バカロレア入試	若干名	0 (0)	-	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
			特別選抜II	帰国生入試	若干名	1 (1)	-	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
			私費外国人留学生特別入試	若干名	10 (8)	-	10 (8)	1 (1)	1 (1)		
			歯学科 計			53	343 (197)	6.5	187 (103)	58 (32)	51 (28)
		口腔保健学科	口腔保健衛生学専攻	一般入試	前期日程	20	55 (48)	2.8	49 (43)	23 (20)	21 (20)
	後期日程				10	202 (65)	20.2	29 (11)	11 (2)	10 (2)	
	特別入試			特別選抜I	推薦入試	2	12 (12)	6.0	10 (10)	2 (2)	2 (2)
			国際バカロレア入試		若干名	0 (0)	-	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	私費外国人留学生特別入試		若干名	0 (0)	-	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	口腔保健衛生学専攻 計			22	67 (60)	3.0	59 (53)	25 (22)	23 (22)		
	口腔保健工学専攻	一般入試	前期日程	8	29 (22)	3.6	28 (21)	9 (6)	7 (5)		
後期日程			15	161 (95)	10.7	30 (15)	17 (10)	12 (7)			
特別入試		特別選抜I	推薦入試	2	12 (11)	6.0	10 (10)	3 (3)	3 (3)		
国際バカロレア入試	若干名	0 (0)	-	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
私費外国人留学生特別入試	若干名	0 (0)	-	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
口腔保健工学専攻 計			10	41 (33)	4.1	38 (31)	12 (9)	10 (8)			
口腔保健学科 計			32	108 (93)	3.4	97 (84)	37 (31)	33 (30)			
1年次 総合計			276	1,296 (730)	4.7	881 (517)	303 (189)	275 (174)			

医学部	医学科	2年次学士編入学 *	5	59 (36)	11.8	59 (36)	5 (3)	5 (3)	
歯学部	口腔保健学科	衛生学専攻	3年次編入学 **	6	5 (5)	0.8	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		工学専攻	2年次編入学 **	5	3 (2)	0.6	3 (2)	0 (0)	0 (0)
	口腔保健学科 計			11	8 (7)	0.7	7 (6)	0 (0)	0 (0)
編入学 総合計			16	67 (43)	4.2	66 (42)	5 (3)	5 (3)	

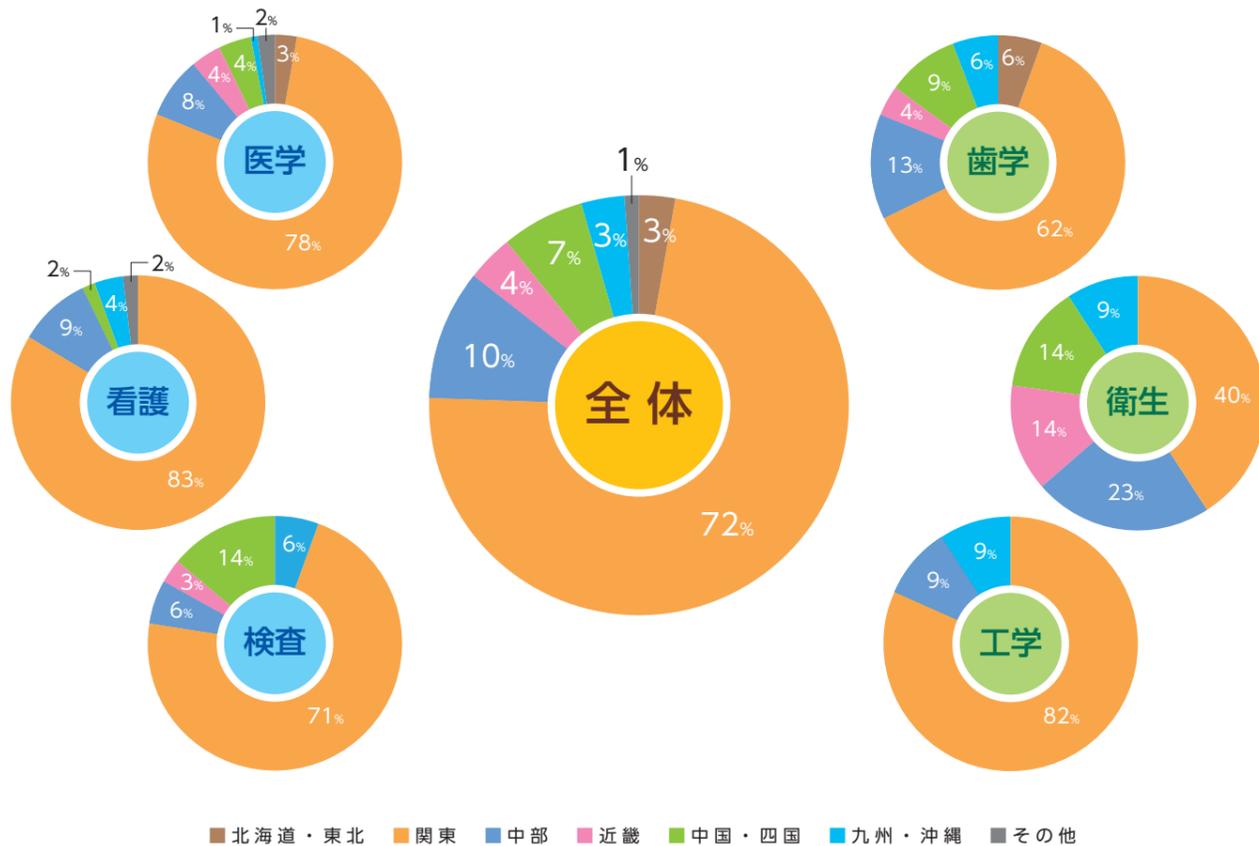
※上の表中下段の数字は、女子を内数で示す。 ※合格者数には、追加合格者も含む  
 \* 修業年限6年課程の2年次へ編入学 \*\* 修業年限4年課程の3(または2)年次へ編入学

# 男女別 & 地方別入学者数

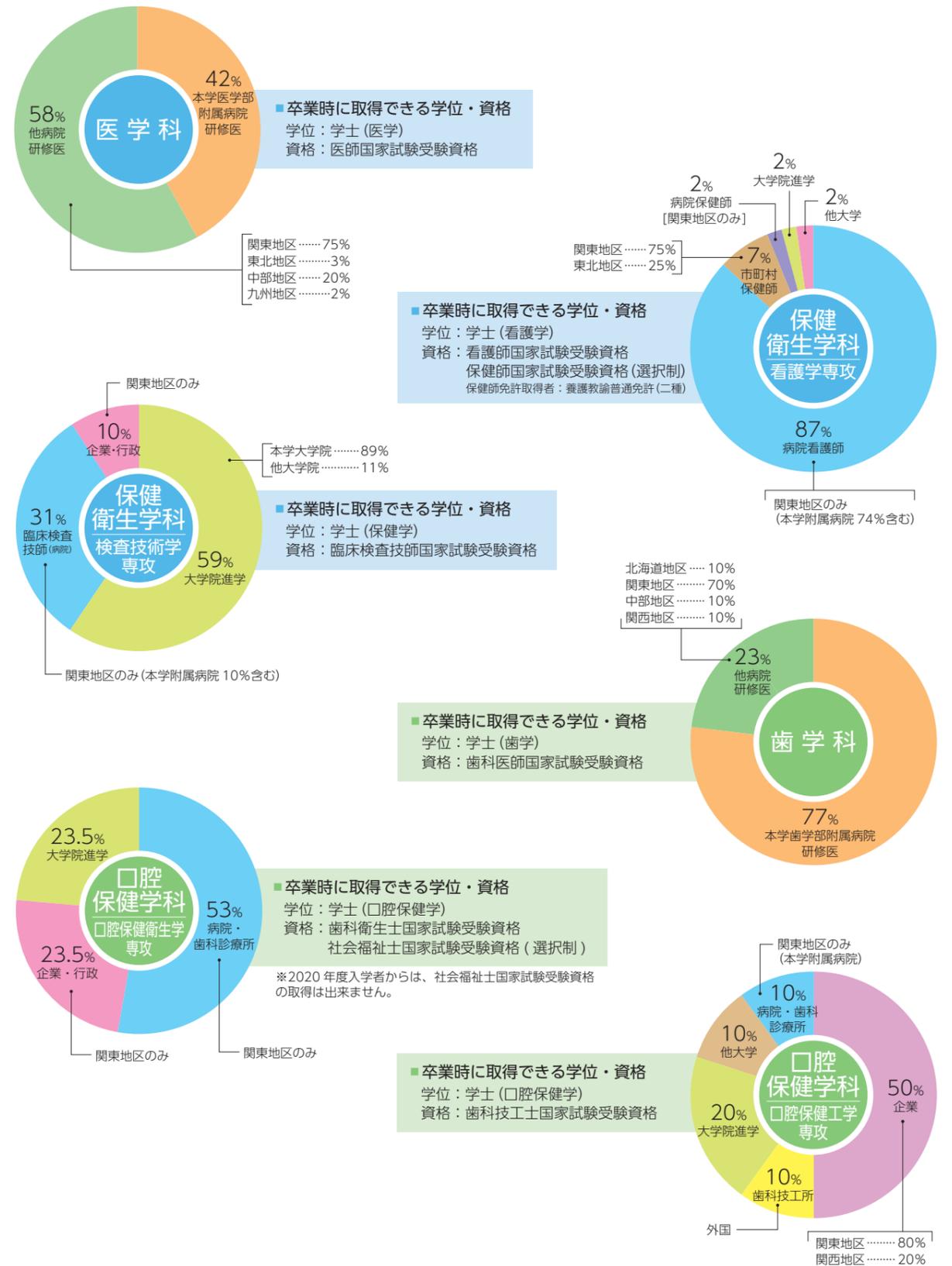
男女別入学者数



出身高等学校等所在地別入学率



# 卒業後の進路 (2018年度卒業生)

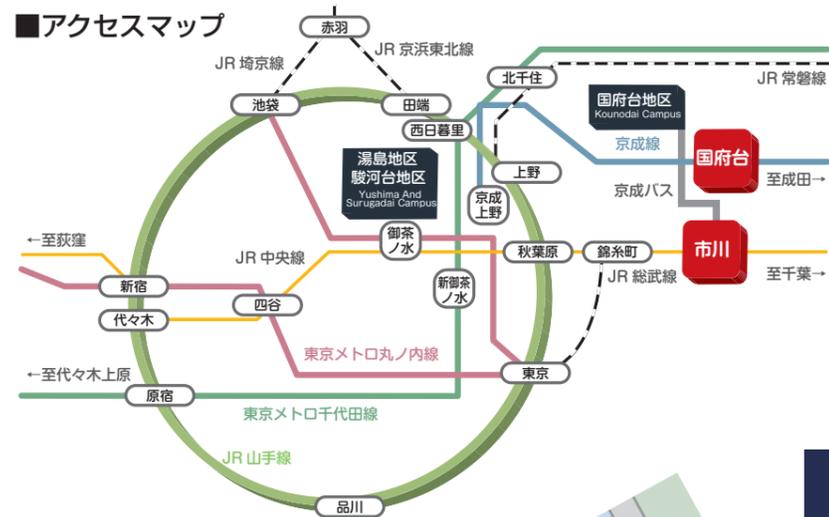


入試情報

# 国府台地区

全ての学生にとって最初の学舎となる教養部がおかれている国府台地区。  
東京都に隣接する千葉県市川市にあり、湯島・駿河台地区にも約40分でアクセスできます。

## ■アクセスマップ



- JR総武線市川駅より京成バス1番乗り場(松戸駅松戸車庫行)国府台病院下車…徒歩2分
- 京成電鉄国府台駅より…徒歩15分(または駅前バス停より上記バスに乗り)

〈東京医科歯科大学教養部奨励賞 展示作品〉  
(東京芸術大学 卒業制作作品)



「起源」 「鳴くこと」



「cyclops」 「時の記憶」

医学部	医学科……………1年次
	保健衛生学科……………1年次
歯学部	歯学科……………1年次
	口腔保健学科……………1年次

※本学では、教養部(国府台地区)にて「全学共通科目」を履修してから、湯島地区において「専門科目」を履修します。

## ■沿革と今

### 緑豊かなキャンパスで全学生がともに学び、サークル活動を楽しむ

国府台地区は、江戸川を挟んで東京に隣接する千葉県市川市、下総台地の西端にあたる高台に位置します。国府台の地名は、大化の改新によってできた新政府により、この高台下総の国府がおかれたことに由来します。この地域が昔から交通の要所であったためです。室町時代には現在の里見公園北側に国府台城が作られ、江戸時代になると、国府台一帯は、曹洞宗の寺院の総支配権を持つ総寧寺の広大な寺域となりました。明治になって国立大学の候補地になりましたが計画は立ち消えとなり、その後、軍の施設がおかれるようになります。戦後、その跡地が文教地区となってよみがえり、現在の姿になりました。

教養部の前身は旧制大学の予科ですが、その後、紆余曲折を経て、教養部として大学の分院のあったこの国府台に設置され

ました。以来、国府台地区は東京医科歯科大学の教養教育の拠点となるとともに、体育館、プール、弓道場、武道館、グラウンドがおかれ、学生の課外活動の中心ともなっています。

約6万㎡の緑豊かなキャンパスには、法皇塚古墳があります。大学キャンパス内に古墳のある大学も珍しいのですが、これもこの地域が歴史的に重要な地域だったことを示しています。また、豊かな感性を身につけてもらうために、キャンパス内には絵画や彫刻作品を展示しています。これらは東京藝術大学の卒業制作作品を借り上げたものです。このような環境で、学生は大いに学び、サークル活動等を通じてお互いの交流を深めながら、充実した毎日の中で将来への夢を育みます。

## 国府台地区 Kounodai Campus



グラウンド



体育館



法皇塚古墳



シャン・ドゥ・コースリー(福利厚生棟)



学生寄宿舍(里見寮)



国際学生宿舎



国際交流会館



テニスコート



武道館



図書館 国府台分館



ヒポクラテスホール(校舎棟)



弓道場



合宿研修所



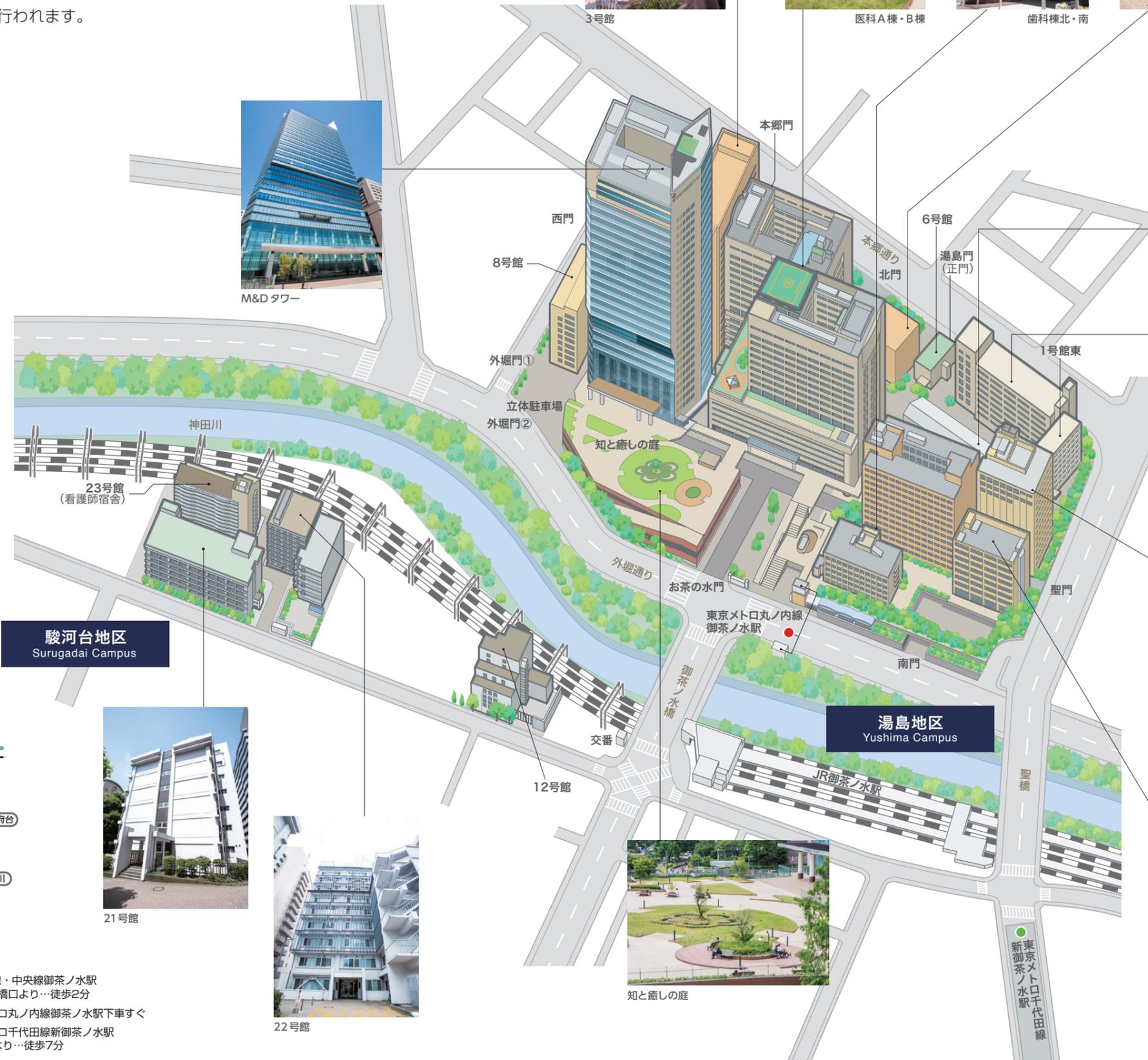
管理研究棟

# 湯島地区・駿河台地区

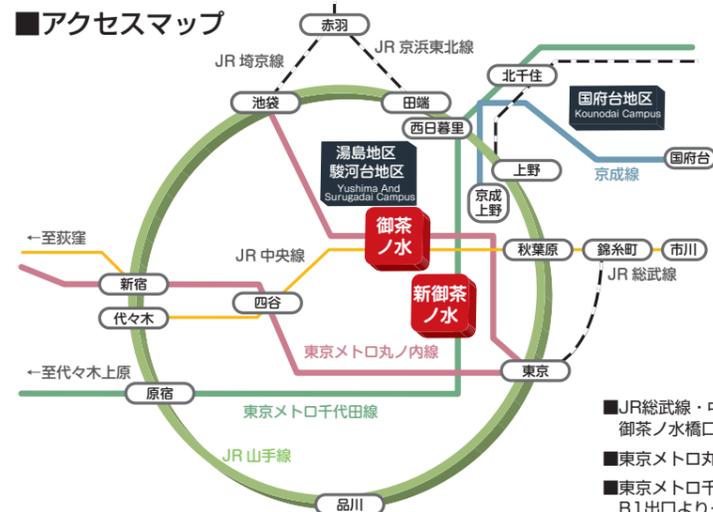
東京都心の歴史ある地域に広がる湯島・駿河台地区。  
 研究棟や附属病院が建ち並ぶキャンパスで、  
 高度な知識と技術を持つ医療人を育成するための専門教育が行われます。

医学部	医学科……………	2～6年次
	保健衛生学科……………	2～4年次
歯学部	歯学科……………	2～6年次
	口腔保健学科……………	2～4年次

※本学では、教養部（国府台地区）にて「全学共通科目」を履修してから、湯島地区において「専門科目」を履修します。



## ■アクセスマップ



- JR総武線・中央線御茶ノ水駅  
御茶ノ水橋口より…徒歩2分
- 東京メトロ丸ノ内線御茶ノ水駅下車すぐ
- 東京メトロ千代田線新御茶ノ水駅  
B1出口より…徒歩7分

キャンパス概要

# 世界大学ランキング

世界各国の高等教育調査機関、教育研究機関、報道機関などが、大学ごとに研究者の論文発表実績や評判、教員数と学生数の割合など、様々な項目を評価して、世界におけるランキングを公表しています。東京医科歯科大学も、世界大学ランキングの順位向上を通じて、日本の高等教育の国際的競争力強化の一翼を担うことを目指しています。

出典：タイムズ・ハイアー・エデュケーション (THE) クアックアレリ・シモンズ (QS)

世界大学ランキング 2018-2019 本学の総合順位	国内 順位	世界 順位	本学の特色を示す大学ランキング	国内 順位	世界 順位
タイムズ・ハイアー・エデュケーション (THE) 世界大学ランキング	7	401-500	分野別クアックアレリ・シモンズ (QS) 世界大学ランキング医学分野	3	51-100
クアックアレリ・シモンズ (QS) 世界大学ランキング	13	352	分野別クアックアレリ・シモンズ (QS) 世界大学ランキング歯学分野	1	10
			タイムズ・ハイアー・エデュケーション (THE) 世界最高の小規模世界大学ランキング	1	15

※文理問わず、総合大学も含むエントリーしたすべての大学のランキング

## 募集要項等のダウンロード方法

本学のホームページ (<http://www.tmd.ac.jp/>) にアクセス、または右側のQRコードを読み取る→トップページの「入学案内」→「学部入学案内」→「入試制度」より、各入試名をクリック→「募集要項PDFダウンロード」よりダウンロードして閲覧、印刷してください。入学者選抜要項は「入試制度」の「一般入試」をクリックした先にダウンロードできます。



※特別選抜Ⅰ (推薦入試、国際バカロレア入試)、特別選抜Ⅱ (帰国生入試)、地域特別枠特別推薦入試、私費外国人留学生特別入試学生募集要項は8月上旬、一般入試学生募集要項は11月下旬に公開予定です。

※募集要項は紙媒体では作成しておりません。

※特別選抜Ⅰ・Ⅱ及び一般入試においては、Web出願を導入しております。

## 紙媒体資料(入学者選抜要項、大学案内)の請求方法

本学のホームページ (<http://www.tmd.ac.jp/>) にアクセス→トップページの「入学案内」→「学部入学案内」→「資料請求」をクリックし、ご希望の方法により資料請求してください。

### 携帯電話・スマートフォンでの請求方法

テレメールまたはモバっちょのサイトから請求してください。  
(QRコードをご利用ください)



### 自動音声応答電話で請求する

下の電話番号へおかけいただき、音声ガイダンスにしたがって、資料請求番号を入力してください。

IP電話 050-8601-0101(24時間受付)

資料名	資料請求番号
2020年度入学者選抜要項	582420
2020年版大学案内	562420

## キャンパス見学の申込方法

本学のホームページ (<http://www.tmd.ac.jp/>) にアクセス→トップページの「入学案内」→「学部入学案内」→「イベント」→「キャンパス見学」をクリックし、注意事項をよくお読みいただいたうえで、メールにてお申込みください。

# 沿革

1928年、日本で初めての国立の歯科医師養成機関として、本学の前身である東京高等歯科医学校創立。

そして1944年には、東京医学歯学専門学校と改名し、医学科を設置。

東京医科歯科大学は、その長い歴史の中で数多くの優秀な人材を輩出し、トップレベルの教育・研究機関として日本の医学・歯学の世界をリードしてきました。

- 1928年10月12日 | 東京高等歯科医学校設立 (一ツ橋)
- 1930年12月 | 東京高等歯科医学校湯島 (東京女子高等師範学校跡地) に移転
- 1944年4月 | 東京医学歯学専門学校となり医学科を設置
- 1946年8月 | 東京医科歯科大学 (旧制) 設立  
附属図書館設置
- 1949年6月 | 医学部、歯学部附属病院が医学部、歯学部附属病院にそれぞれ改称
- 1951年4月 | 国立学校設置法により東京医科歯科大学 (新制) 設立、医学部医学科、歯学部歯学科を設置  
歯科材料研究所を附置 (1966.4 医用機材研究所に改称、1999.4 生体材料工学研究所に改組)  
医学部附属厚生女学部を医学部附属看護学校と改称 (1989.4 医学部保健衛生学科看護学専攻に改組)  
歯学部附属歯科衛生士学校を設置 (2004.4 歯学部口腔保健学科に改組、2011.4 歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻に改組)
- 1952年4月 | 歯学部附属歯科技工士学校を設置 (2011.4 歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻に改組)
- 1955年4月 | 大学院医学研究科、大学院歯学研究科を設置  
医学及び歯学進学課程を設置 (1955.4 ~ 1958.3 千葉大学文理学部内、1958.4 ~ 1965.3 国府台分校、1965.4 教養部となる)
- 1962年4月 | 医学部附属衛生検査技師学校を設置 (1972.4 医学部附属臨床検査技師学校に改組、1989.4 医学部保健衛生学科検査技術学専攻に改組)
- 1973年9月 | 難治疾患研究所を設置
- 1993年4月 | 大学院医学研究科を大学院医学系研究科に改称、保健衛生学専攻を設置
- 1999年4月 | 大学院医歯学総合研究科を設置
- 2000年4月 | 大学院医学系研究科 (保健衛生学専攻) を大学院保健衛生学研究科に改組
- 2001年4月 | 大学院医歯学総合研究科医歯科学専攻 (修士課程) を設置
- 2003年4月 | 大学院生命情報科学教育部を設置 (2016.3 廃止)  
大学院疾患生命科学教育部を設置 (2012.3 廃止)
- 2004年4月 | 国立大学法人東京医科歯科大学設置
- 2013年4月 | 学生支援・保健管理機構を設置
- 2013年10月 | リサーチ・ユニバーシティ推進機構を設置
- 2014年10月 | スポーツサイエンス機構を設置
- 2016年3月 | 統合教育機構、統合国際機構を設置
- 2017年4月 | 統合研究機構、統合診療機構、統合情報機構を設置
- 2018年4月 | 統合大学改革推進機構を設置
- 2018年5月 | 高等研究院を設置
- 2018年12月 | オープンイノベーション機構を設置



東京高等歯科医学校第一附属病院 (1930年頃)



本郷通りから正門 (1934年)



湯島地区全景 (1952年頃)



医学部附属病院医科A棟 (1991年)



M&Dタワー (2009年)